

埼玉県熊谷市埋蔵文化財調査報告書 第51集

# 元境内遺跡3次

2025

埼玉県熊谷市教育委員会



埼玉県熊谷市埋蔵文化財調査報告書 第51集

もとけいだい  
元境内遺跡 3次

2025

埼玉県熊谷市教育委員会



# 序

私たちの郷土熊谷は、丘陵、台地、沖積低地と、地形が変化に富んでおり、関東を代表する2大河川である利根川・荒川が市内を流れ、大河がもたらす肥沃な大地と豊かな自然が広がっております。このような自然環境のもと、市内には、先人たちによって多くの文化財が営々と引き継がれてきました。これらの文化財は、郷土の発展やその過程を物語る証であるとともに、私たち子孫の繁栄の指標ともなる、先人の貴重な足跡であります。私たちは、こうした文化遺産を継承し、次世代に伝え、さらに豊かな熊谷市形成の礎としていかなければならないと考えております。

さて、市内には地下に埋蔵されている多くの遺跡が所在します。そして、これらの遺跡内では各種開発が行われ、遺跡を保護・保存できない場合が多数あります。その場合には、発掘調査という記録保存を行い、後世に伝えるべく方策を採っています。

本書は、平成10年度に実施された元境内遺跡の発掘調査の成果をまとめたものです。

本書が、埋蔵文化財保護、学術研究の基礎資料として、また埋蔵文化財の普及・啓発の資料として、広く活用されることとなれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書刊行に至るまで、文化財保護に御理解、御協力を賜りました関係者の皆様には、厚くお礼申し上げます。

令和7年3月

熊谷市教育委員会  
教育長 野原 晃



# 例 言

- 1 本書は、元境内遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、社会福祉施設建築工事に伴う事前の記録保存目的の発掘調査であり、発掘調査は、江南町教育委員会が実施した。整理・報告書作成作業は、熊谷市教育委員会で行った。
- 3 本事業の組織と経緯は、「発掘調査の概要」に記載のとおりである。
- 4 本遺跡の発掘調査期間は、平成11年1月20日から平成11年3月30日までであり、整理・報告書作成期間は、令和6年4月1日から令和7年3月28日までである。
- 5 発掘調査の担当は、江南町教育委員会の森田 安彦が担当した。
- 6 本書の執筆は、整理・報告書作成作業を担当した森田が行った。
- 7 写真撮影は、発掘調査及び遺物を森田が行った。
- 8 基準点測量は、株式会社東京航業研究所に委託した。
- 9 種子の同定は、応用地質株式会社に委託した。
- 9 発掘調査及び本書の作成にあたり、下記の方々及び機関等から御教示、御協力を賜った。記して感謝申し上げます。

(敬称略)

島村範久 埼玉県教育局文化財・博物館課

# 凡 例

- 1 本文中、遺構の略記号は、次のとおりである。

S D・・・溝跡    S I・・・竪穴住居跡    S K・・・土壇    P・・・ピット

- 2 土層断面図及び平面図中の表記記号は、次のとおりである。

S・・・礫    P・・・土器

- 3 挿図中、断面図に添えてある数値は、標高を示している。

- 4 遺構挿図中、遺物に添えてある番号は、該当する遺構の遺物挿図中の遺物番号と一致する。

- 5 遺物挿図の縮尺は、原則として次のとおりであるが、それ以外のは個別に示した。

土師器・須恵器・石器・・・1/4    土製品・鉄製品・・・1/2・1/4

- 6 遺物実測図の中で、中心線はすべて実線で示し、遺物観察表にできる限り残存率を示した。また、表現方法は、次のとおりである。

須恵器の断面・・・黒塗り    土師器・石器・鉄製品の断面・・・白抜き    赤彩・・・網目懸

- 7 遺物観察表の凡例は、次のとおりである。

法量の単位は、cm、gである。また、推定値は括弧付けで示した。

胎土は、土器に含まれる鉱物等を以下の記号で示した。

A・・・白色粒子    B・・・黒色粒子    C・・・赤色粒子    D・・・褐色粒子    E・・・赤褐色粒子

F・・・白色粒子

針状物質    G・・・長石    H・・・石英    I・・・白雲母    J・・・黒雲母    K・・・角閃石

L・・・片岩    M・・・砂粒    N・・・礫

焼成は、次のように区分した。

A・・・良好    B・・・普通    C・・・不良

遺物の色調は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色標監修、日本色研事業株式会社発行）に照らし、最も近似した色相を示した。

- 8 写真図版の遺物縮尺は、すべて任意である。

# 目 次

序	2 調査の方法	6
例 言	3 検出された遺構と遺物	7
凡 例	III 遺構と遺物	
目 次	1 集石	8
	2 竪穴住居跡	8
	3 掘立柱建物跡	49
I 発掘調査の概要	4 土壌	51
1 調査に至る経過	5 溝跡	52
2 発掘調査・整理報告作業の経過	6 遺構外出土遺物	52
3 発掘調査、整理・報告書作成の組織	IV 付編	59
II 遺跡の概要	V まとめ	60
1 立地と環境		

# 挿図目次

第1図 元境内遺跡調査地点	2	第18図 第7号住居跡出土遺物(2)	22
第2図 埼玉県の地形図	4	第19図 第8号住居跡・カマド	23
第3図 周辺遺跡分布図	6	第20図 第8号住居跡出土遺物	24
第4図 調査区全体図	7	第21図 第9A・9C号住居跡	25
第5図 第1号集石	8	第22図 第9A号住居跡カマド	26
第6図 第2号住居跡	9	第23図 第9A号住居跡出土遺物(1)	27
第7図 第2号住居跡出土遺物	10	第24図 第9A号住居跡出土遺物(2)	28
第8図 第3号住居跡・カマド・出土遺物	12	第25図 第9B・10号住居跡・第10号住居跡 カマド	29
第9図 第4号住居跡	13	第26図 第9B・10号住居跡(1)出土遺物	30
第10図 第4号住居跡出土遺物(1)	14	第27図 第10号住居跡出土遺物(2)	31
第11図 第4号住居跡出土遺物(2)	15	第28図 第9C号住居跡出土遺物(1)	32
第12図 第6号住居跡	15	第29図 第9C号住居跡出土遺物(2)	33
第13図 第6号住居跡カマド	16	第30図 第9D号住居跡・カマド・出土遺物	34
第14図 第6号住居跡出土遺物	17	第31図 第11A・11B号住居跡・第11A号住居跡 カマド・出土遺物	36
第15図 第7号住居跡	19	第32図 第11B号住居跡カマド・第11B号住居跡	
第16図 第7号住居跡カマド	20		
第17図 第7号住居跡出土遺物(1)	21		

	出土遺物(1) .....	37	第38図	第15・16号住居跡・第15号住居跡 出土遺物 .....	45
第33図	第11B号住居跡出土遺物(2) .....	38	第39図	第17A・17B号住居跡 .....	46
第34図	第12A・12B号住居跡・第12A号住居跡 カマド .....	40	第40図	第17A号住居跡出土遺物 .....	47
第35図	第12A・12B号住居跡出土遺物.....	41	第41図	第1号掘立柱建物跡 .....	48
第36図	第13・14号住居跡・第14号住居跡 カマド .....	43	第42図	第1・2号土壙・出土遺物 .....	49
第37図	第13・14号住居跡出土遺物 .....	44	第43図	第1号溝跡・出土遺物 .....	50
			第44図	遺構外出土遺物 .....	51

## 挿表目次

第1表	元境内遺跡発掘調査履歴 .....	2	第13表	第11A号住居跡出土遺物観察表 .....	56
第2表	第2号住居跡出土遺物観察表 .....	53	第14表	第11B号住居跡出土遺物 .....	56
第3表	第3号住居跡出土遺物観察表 .....	53	第15表	第12A号住居跡出土遺物観察表 .....	56
第4表	第4号住居跡出土遺物観察表 .....	53	第16表	第12B号住居跡出土遺物観察表 .....	56
第5表	第6号住居跡出土遺物観察表 .....	53	第17表	第13号住居跡出土遺物観察表 .....	57
第6表	第7号住居跡出土遺物観察表 .....	54	第18表	第14号住居跡出土遺物観察表 .....	57
第7表	第8号住居跡出土遺物観察表 .....	54	第19表	第15号住居跡出土遺物観察表 .....	57
第8表	第9A号住居跡出土遺物観察表 .....	54	第20表	第17A号住居跡出土遺物観察表 .....	57
第9表	第9B号住居跡出土遺物観察表 .....	55	第21表	第1号土壙出土遺物観察表 .....	57
第10表	第9C号住居跡出土遺物観察表 .....	55	第22表	第2号土壙出土遺物観察表 .....	57
第11表	第9D号住居跡出土遺物観察表 .....	55	第23表	第1号溝出土遺物観察表 .....	58
第12表	第10号住居跡出土遺物観察表 .....	55	第24表	遺構外出土遺物観察表 .....	58

## 図版目次

図版1	調査区全景遠景(南から:平成11年3月 20日撮影) 調査区垂直写真(平成11年3月20日撮影)	第3号住居跡カマド 第3号住居跡遺物出土状況(北から) 第3号住居跡ピット
図版2	第1号集石 第2号住居跡(南から) 第2号住居跡掘方(南から) 第2号住居跡遺物出土状況 第3号住居跡(北東から)	図版3 第4号住居跡(東から) 第6号住居跡(南から) 第6号住居跡カマド 第6号住居跡鉄製鋤先出土状況 第7号住居跡(西から)

	第7号住居跡カマド		居跡 第8図1、第4号住居跡 第10図
	第7号住居跡貯蔵穴		1～11、第4号住居跡 第11図17・18
	第7号住居跡遺物出土状況	図版10	第4号住居跡 第10図12～15、第6号
図版4	第7号住居跡遺物出土状況		住居跡 第14図1～8
	第8号住居跡（西から）	図版11	第6号住居跡 第14図9～18、第7号
	第8号住居跡遺物出土状況（西から）		住居跡 第17図1～13
	第8号住居跡カマド・貯蔵穴	図版12	第7号住居跡 第17図14～36、第8号
	第8号住居跡貯蔵穴遺物出土状況		住居跡 第20図1
	第8号住居跡カマド遺物出土状況	図版13	第8号住居跡 第20図2～8、第9A号
	第9A号住居跡カマド検出状況		住居跡 第23図1～12
	第9A・9C号住居跡（南から）	図版14	第9A号住居跡 第23図13～25
図版5	第9A号住居跡カマド	図版15	第9B号住居跡 第26図1～13、第9C
	第9B・10号住居跡（東から）		号住居跡 第28図1～5
	第9B号住居跡遺物出土状況	図版16	第9C号住居跡 第28図6～10・12・14
	第9B号住居跡遺物出土状況		～16・18～22・種子、第9D号住居跡
	第10号住居跡カマド		第30図1～3、第10号 住居跡 第26
	第9D号住居跡（南西から）		図1
	第11A号住居跡（北から）	図版17	第10号住居跡 第26図2～14
	第11A号住居跡遺物出土状況（西から）	図版18	第10号住居跡 第27図15～24、第11
図版6	第11A号住居跡遺物出土状況		A号住居跡 第31図1～4、第11B号
	第11B号住居跡（南から）		住居跡 第32図1～2
	第11B号住居跡カマド検出状況1	図版19	第11B号住居跡 第32図3～14
	第11B号住居跡カマド検出状況2	図版20	第11B号住居跡 第32図15～19・支脚、
	第11B号住居跡カマド検出状況3		第12B号住居跡 第35図1～8
	第11B号住居跡遺物出土状況	図版21	第12B号住居跡 第35図9～15、第17
	第11B号住居跡貯蔵穴遺物出土状況		A号住居跡 第40図1～11
	第12A・12B号住居跡（南から）		
図版7	第12A号住居跡カマド（南から）		
	第13・14号住居跡（北から）		
	第14号住居跡カマド（西から）		
	第15・16号住居跡（南から）		
	第17A号住居跡遺物出土状況		
	第17A号住居跡遺物出土状況		
	第1号土壌		
	作業風景		
図版8	第2号住居跡 第7図1～17		
図版9	第2号住居跡 第7図18～28、第3号住		



# I 発掘調査の概要

## 1 調査に至る経過

本遺跡は、これまで1回の範囲確認調査と、5回の発掘調査が行われている（第1表・第1図）。

範囲確認調査は、埼玉県中世城館跡遺跡調査の一環として行われたもので、増田館跡の土塁・堀を対象に実施された（1988：埼玉県教育委員会）。第1次調査は、道路拡幅工事に先立って実施し、平安時代の住居跡が一部調査された。第2次調査は、文殊寺の建物建築に伴い実施したもので、増田館内郭の堀と近世の廃棄土壌が検出され、多量の近世陶磁器が出土した。第3次調査は、本報告分で、町立老人福祉施設建設に伴い実施されたもので、古墳時代の集落跡が検出された。第4次調査は個人住宅建設に伴うもので、古墳時代の住居跡が調査されている（2009：熊谷市教育委員会）。第5次調査は、個人住宅建設に伴うもので、奈良時代の住居跡が検出されている（2019：熊谷市教育委員会）。

今回の第3次調査は、江南町立の老人福祉施設建設に伴い、埋蔵文化財の現状保存が困難と判断されたため実施したもので、建物建設箇所だけでなく、切土造成の対象となる敷地全体約2,400㎡を調査対象として実施した。経過については、以下のとおりである。

平成10年12月25日付けで、文化財保護法第57条の3第1項の規定に基づく埋蔵文化財発掘の届出が、江南町住民課より提出される。これを受けて、江南町教育委員会は、届け出のあった江南町野原461-7、461-14地内は、埋蔵文化財包蔵地（県遺跡 No. 65-039：元境内遺跡）に該当することから、埋蔵文化財の詳細な状況を把握するため、試掘調査を実施した。この調査により、現地表面下約30～40cmで古墳時代後期の遺構が確認され、遺物が出土した。そして、発掘調査の措置が適切である旨副申を付して、平成11年1月4日付けで埼玉県教育委員会あてに送付した。その後、江南町長あてに埼玉県教育委員会教育長から周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等についての通知がなされ、発掘調査の指示がなされた。

発掘調査に先立ち、文化財保護法第57条第1項の規定に基づく埋蔵文化財発掘調査の届出を、平成11年1月4日付け江教第3425号で提出し、江南町教育委員会が実施した。

1988年『埼玉の中世城館跡』 埼玉県教育委員会

2009年『市内遺跡（旧大里町）Ⅱ 箕輪遺跡4次、5次 中廊遺跡3次 西浦遺跡 市内遺跡（旧江南町）Ⅲ 元境内遺跡4次 宮脇遺跡2次 諏訪脇遺跡』埼玉県熊谷市埋蔵文化財調査報告書第4集 熊谷市教育委員会

2019年『三ヶ尻古墳群 西別府古墳群 上前原遺跡 元境内遺跡 野原宮脇遺跡—市内遺跡発掘調査報告書Ⅵ』熊谷市埋蔵文化財調査報告書第32集 熊谷市教育委員会

第1表 元境内遺跡発掘調査履歴

年・次	所在	調査通知・年月日	原因・調査面積	調査主体	主な遺構・出土遺物
昭和57年	野原624-1他		範囲確認調査 約100㎡	埼玉県立歴史資料館	外郭土塁・堀 内郭堀銭貨 中近世陶磁器
昭和57年 1次	野原678他	57委保記第2-2395号 昭和57年10月22日	道路拡幅 1,200㎡	江南村教育委員会	平安時代竪穴住居跡2
平成8年 2次	野原623	8委保記第5-6784号 平成9年2月6日	文殊寺建物 1,500㎡	江南町教育委員会	土壇・溝 内郭堀中近世陶磁器 板碑
平成11年 3次	野原461-7	教文第2-172号 平成11年1月13日	福祉施設 2,400㎡	江南町教育委員会	古墳時代竪穴住居跡21 鉄製鋤先 土師器 須恵器
平成11年 4次	野原466-1	江教第2249号 平成11年9月7日	個人住宅 408㎡	江南町教育委員会	古墳時代竪穴住居跡8 土師器 須恵器
平成26年 5次	野原668-3	熊教社埋発第288号 平成26年9月25日	個人住宅 57㎡	熊谷市教育委員会	奈良時代竪穴住居跡1 刀子 土師器 須恵器



第1図 元境内遺跡調査地点

## 2 発掘調査・整理報告作業の経過

発掘調査は、平成11年1月20日から3月30日にかけて実施した。調査面積は約2,400 m<sup>2</sup>である。

調査は、平成11年1月20日に重機による表土除去を行い、その後人力による遺構確認作業を行った。検出された遺構は、縄文時代中期の集石1基、古墳時代後期の竪穴住居跡21軒、掘立柱建物跡1棟、土壇2基、時期不明の溝1条で、順次掘り下げを行った。

また、遺構の分布状況については、平面図を作成した。遺構の写真撮影については、遺構ごとに行い、3月20日にヘリコプターによる調査区全景の写真撮影を行い、3月30日に重機による埋め戻しを行い、調査を終了した。

また、5月に、北側の調査区外でフェンスの設置工事があり、狭小のため工事立会を行ったところ、第4号住居跡のカマド袖部が検出され、土師器甕4個体が出土している。

整理・報告書作成作業は、令和6年4月から令和7年3月にかけて実施した。

遺物の洗浄・注記は平成11年度に実施しており、令和6年度は接合、復元作業を行い、実測作業を開始し、これと並行して遺構の図面整理を行った。

次に、土器等の遺物のトレース・拓本を採り図版を作成し、併せて遺構等のトレース・図版の作成を行った。そして、遺構の写真整理・遺物写真撮影を行い、写真図版の割付を行った。また、これらと並行して、原稿執筆を行った。

最後に、印刷業者の選定を行い、校正を経て本報告書を刊行した。

## 3 発掘調査、整理・報告書作成の組織

### ア 発掘調査（平成10・11年度）

主 体 者 江南町教育委員会

教 育 長 岡部 進

教育次長 安藤 喬司

課長補佐 大久保 光司

主 任 森田 安彦

主 事 吉田 正人

### イ 整理・報告書作成（令和6年度）

主 体 者 熊谷市教育委員会

教 育 長 野原 晃

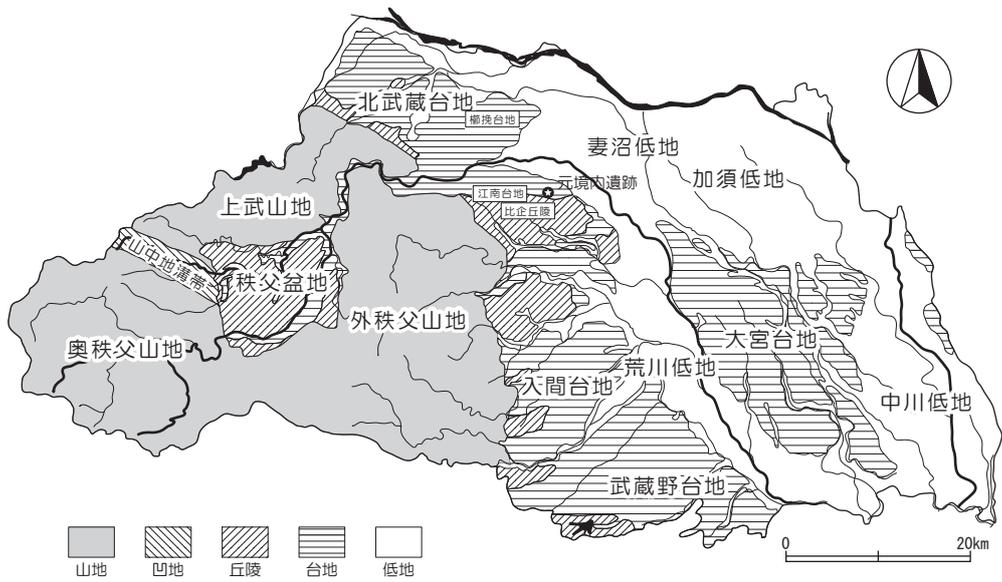
教育次長 三友 孝二

社会教育課長 小澤 信行

社会教育課文化財保護・市史編さん担当副参事 吉野 健

社会教育課副課長兼文化財保護係長 松田 哲

主査 小島 洋一  
 主査 茂木 留美  
 主任 腰塚 博隆  
 主任 森田 安彦  
 主任 山川 愛希子  
 主事 山川 守男  
 主事 大野 美知子



第2図 埼玉県の地形図

## II 遺跡の概要

### 1 立地と環境

熊谷市は、北側の群馬県との境を利根川が、南側は江南地域及び大里地域との境を荒川が、それぞれ西から南東方向に流れており、関東地方の2大河川が最も近接する地域にある。地形的には、市の西側に櫛引台地、荒川を挟んで南側には江南台地・比企丘陵、北側及び東側には妻沼低地が広がっている（第2図）。

櫛引台地は、洪積世に形成された荒川扇状地の左岸一帯の総称で、寄居町波久礼付近を扇頂として、東は熊谷市三ヶ尻付近まで延びており、標高は、約36～54mを測り、妻沼低地に向かって緩やかに傾斜している。荒川に面した櫛引台地東端には、独立丘陵である観音山（標高81m：第3紀層の残丘）があり、台地からの比高差約25m、沖積地からの比高差約35mを測る。櫛引台地の東側には、沖積世に荒川の乱流により新たに形成された新荒川扇状地が広がる。新荒川扇状地は、熊谷市の南西に位置する深谷市菅沼付近を扇頂として、妻沼低地へと広がっており、自然堤防や微高地、後背湿地が発達している。

今回報告する元境内遺跡は、江南台地の南縁の、和田川を南に望む標高53～43m程の南緩斜面に位置する。比企丘陵とは、和田川が開析する帯状の沖積地を挟んで立地する。

古墳時代以降の遺跡は、和田川に面した江南台地南縁に連続して所在している（第3図）。

本遺跡の西側には諏訪脇遺跡が接している。個人住宅建設に伴い古墳時代の住居跡2軒が検出されている（2009：熊谷市教育委員会）。その西側には宮脇遺跡が隣接する。2次に渡る発掘調査が行われており、古墳時代～平安時代にかけての住居跡14軒が検出されている（2009：熊谷市教育委員会）。東側には、谷津田を挟んで23基の古墳が分布する野原古墳群が隣接している。「踊る男女」埴輪が出土した前方後円墳は、6世紀後半、その他の円墳は6世紀後半から7世紀代に位置づけられている（1995：江南町）。また、古代末には、野原古墳が経塚に利用されたらしく、金銅宝冠阿弥陀像が出土している（1981：林宏一）。さらに谷津田を挟んで西側には、本田・東台遺跡が位置し、4次に渡る発掘調査が行われ、6世紀から8世紀初めにかけての住居跡80軒余りが検出されている。野原古墳群を形成した首長層に支配された人々により営まれた集落と考えられている（1988：江南町教育委員会）。

本遺跡の東側には、熊野遺跡が隣接する。2次に渡る調査が行われており、平安時代の住居跡15軒が検出されて、鍛冶関連施設も検出されている（1974：埼玉県遺跡調査会）。その北側の荒神脇遺跡は、8世紀～9世紀にかけての住居跡44軒、掘立柱建物跡2棟が検出されている（1974：埼玉県遺跡調査会）。熊野遺跡の東側には、丸山遺跡が隣接する。古墳時代末から平安時代の住居跡12軒、掘立柱建物跡13棟が検出され、郷長層の居宅である可能性が指摘されている（1996：江南町教育委員会）。

元境内遺跡は、このような遺跡群の一つを構成する遺跡で、遺跡の北半は、増田館跡（東西400m×南北300m）と文殊寺の境内地となっており、遺跡の北西部は、文殊寺の前身である中世の能満寺伝承地となっている。

また、文殊寺東側を南北に走る国道407号線沿いに東山道武蔵路が通っていたと想定されており、古代以降も鎌倉道の一つとして地域の主要道として利用されていた。荒川渡河点を望める台地上の戦略上

の要衝として増田館が選地された可能性が推測されている。

## 2 調査の方法

調査区は、標高 49～46m の南緩斜面で、耕作土を重機で除去後、遺構の掘り下げを行った。

遺構の測量は、世界測地系国家方眼座標（国土標準平面直角座標第IX系）による基準点測量を委託して行い、調査区全体を網羅できるように、1辺5mのグリッドを設定して行った。

実測作業にあたっては、交点を基準に水系で1m間隔のメッシュを張り、簡易遣り方による測量を行った。



1. 上原原遺跡 2. 行人塚古墳 3. 代遺跡 4. 静簡院遺跡 5. 合羽山遺跡 6. 上原遺跡 7. 宮前遺跡 8. 宿遺跡 9. 万吉西浦遺跡 10. 村岡古墳群 11. 天神山遺跡 12. 中原遺跡 13. 松原遺跡 14. 向原遺跡 15. 田村陣屋跡 16. 須賀広宮脇遺跡 17. 本田・東台遺跡 18. 野原古墳群 19. 野原宮脇遺跡 20. 諏訪脇遺跡 21. 元境内遺跡 22. 八軒遺跡 23. 鹿島遺跡 24. 熊野遺跡 25. 荒神脇遺跡 26. 下新田遺跡 27. 丸山浦遺跡 28. 丸山遺跡 29. 楊井前原遺跡 30. 万吉下原遺跡 31. 瀬戸山遺跡・瀬戸山古墳群

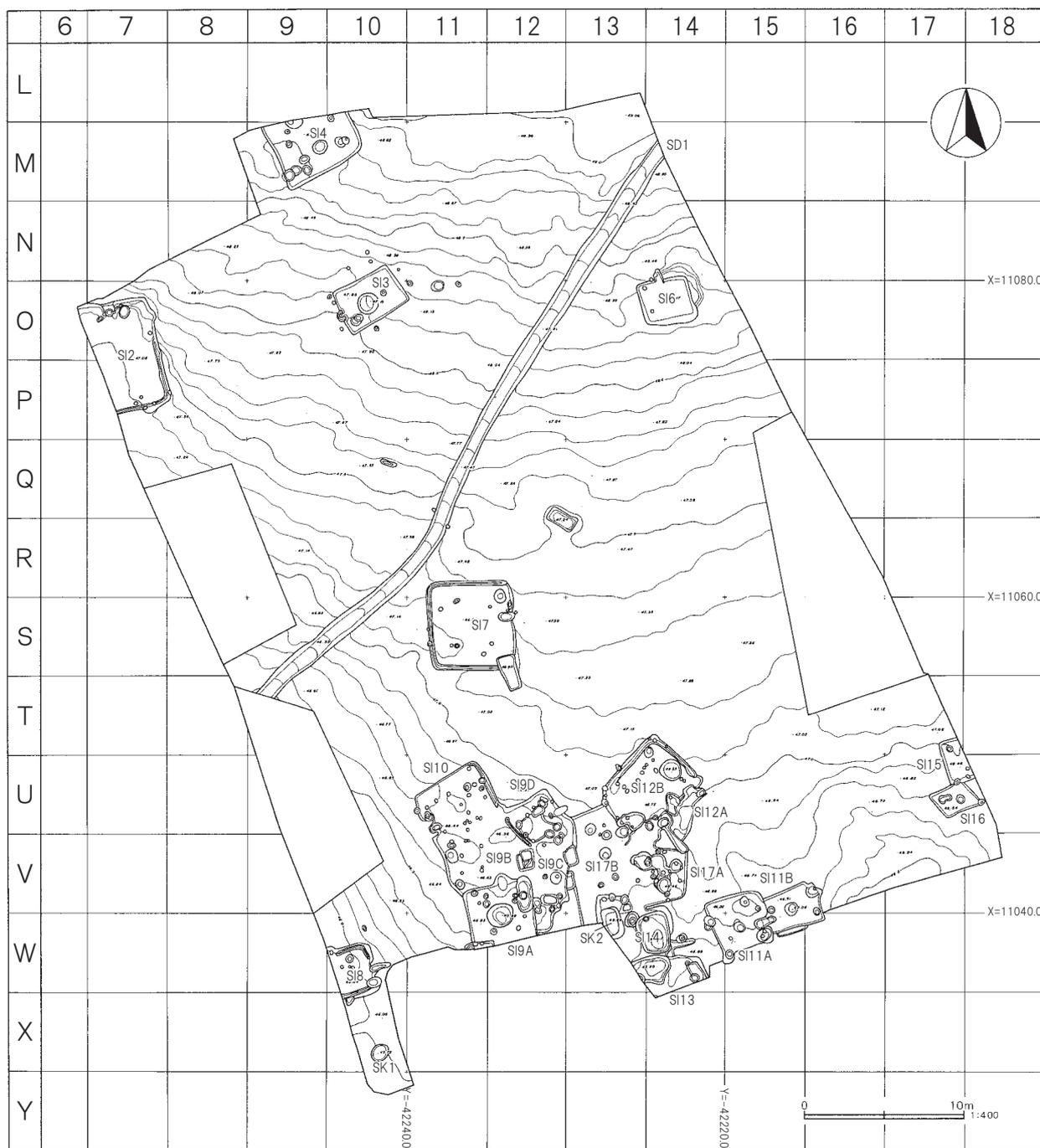
第3図 周辺遺跡分布図

### 3 検出された遺構と遺物

本調査地点では、縄文時代中期の集石1基、古墳時代後半の住居跡21軒、掘立柱建物跡1棟、土壇2基、溝1条が検出された。(第4図)

住居跡のカマドは、21軒中14軒で確認され、そのうち6軒は、土師器の甕を転用し、かまどの袖部先端や天井部に構築材として使用されていた。本遺跡におけるかまど構築手法の特徴である。

遺物は、土師器坏・甕・壺・甑、須恵器坏・蓋・甕・壺、鉄製鋤先、砥石、編み物石等が出土し、その出土量は、コンテナ(大きさ:縦34cm×横54cm×深15cm)にして20箱であった。



第4図 調査区全体図

### Ⅲ 遺構と遺物

#### 1 集石

##### 第1号集石（第5図・図版2）

調査区北側の、P-9グリットに位置する。

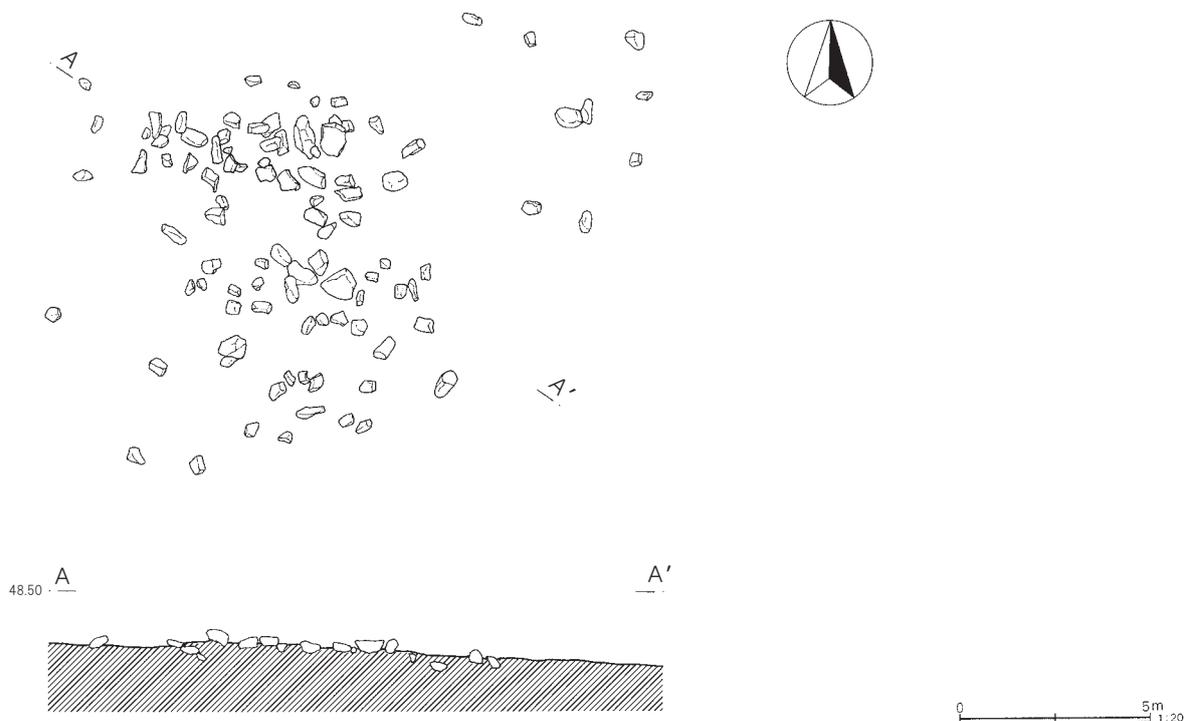
掘込みは無く、長2～10 cm程の礫103点が、1.5×1.8 mの範囲に確認されている。礫はいずれも被熱により割れている。遺物は、周囲より縄文時代中期後半の土器小片が数点出土しているが、図示するには至っていない。

本遺構の時期の特定は難しいが、縄文時代中期後半と推測される。

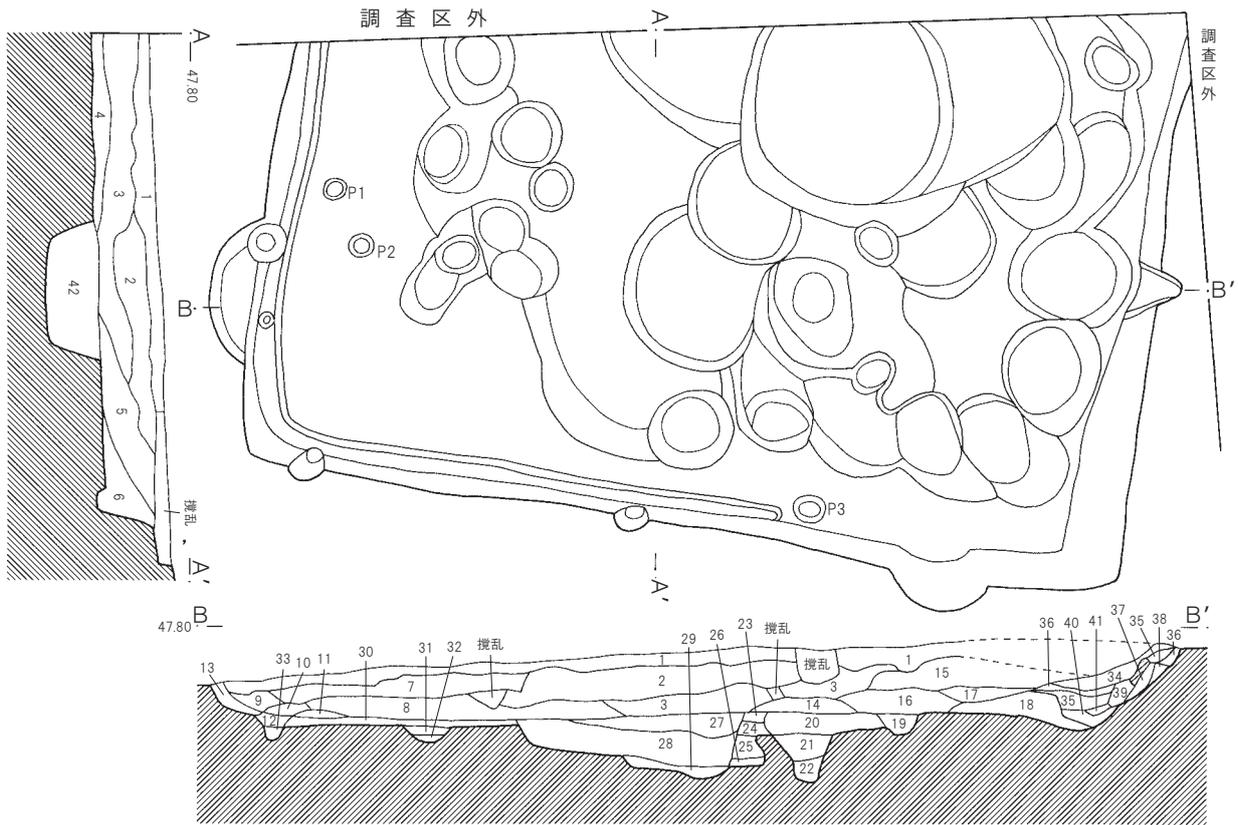
#### 2 竪穴住居跡

##### 第2号住居跡（第6図・図版2）

調査区の北西隅に位置する。O・P-6・7グリットに位置する。住居プランの西1/3は調査区外にかかり未調査となっている。確認される規模は、7.05×(4.62) mとなり、北壁にカマドを備える。主軸は、N-14°-Wの方位を持つ。壁の掘り込みは、北壁で54 cm、東壁で43 cm、南壁で29 cmを測る。床はほぼ平坦で貼り床である。床下には、当初の床面が残らない程の多数の床下土壌が確認されている。覆土は、ロームブロックが多量に混じり、掘削後時間を置かず人為的に埋め戻されたものと推測される。床下土壌上には貼り床が確認されないことから、床下土壌は、貼り床構築後の居住中に掘ら



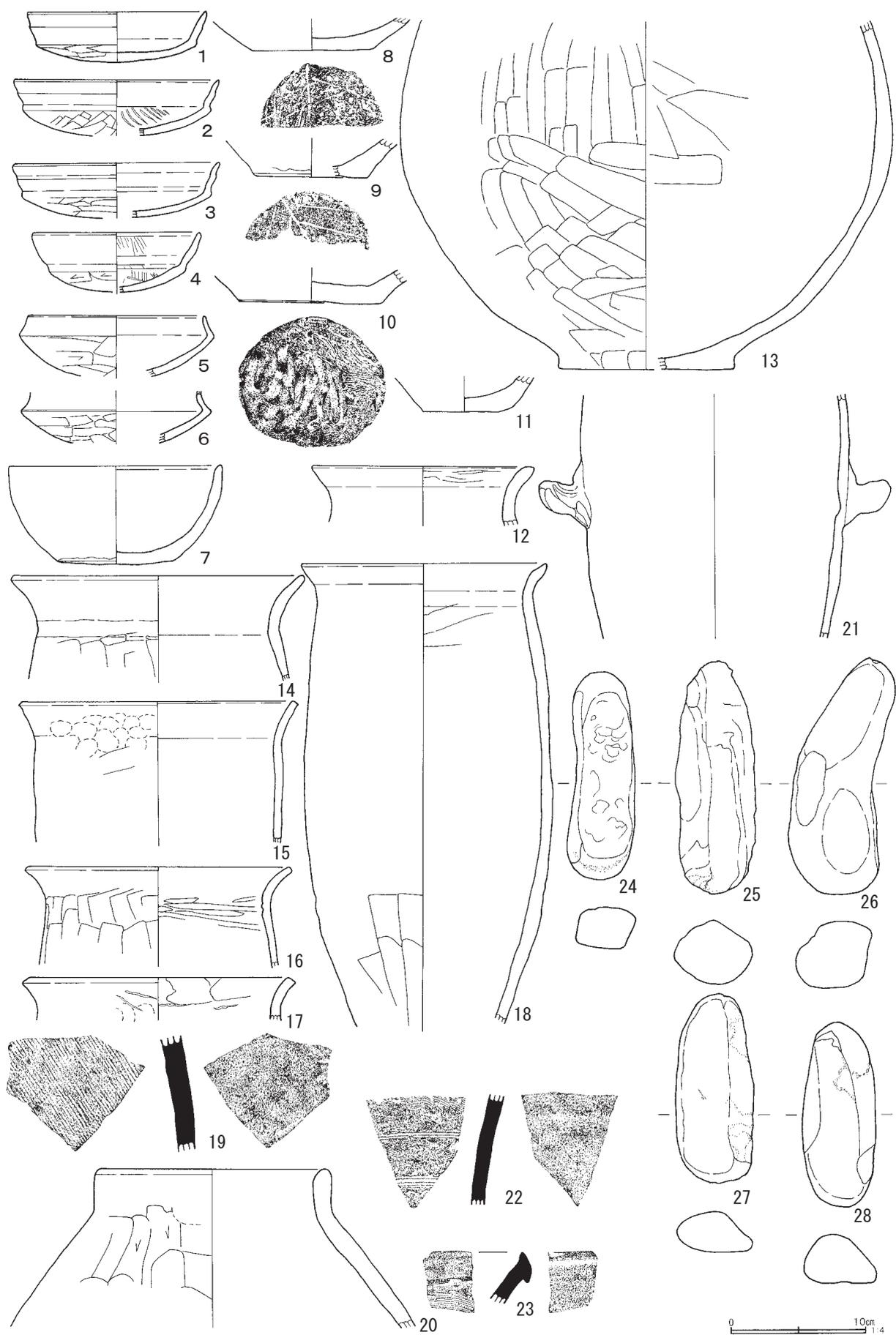
第5図 第1号集石



第2号住居跡A-A'・B-B'土層説明

- |  |  |
|--|--|
| <p>1 茶褐色土 しまりやや強、粘性弱。ローム粒少量含。粒子やや細。<br/>         2 黒茶褐色土 しまり強、粘性弱。ローム粒微量含。粒子粗。<br/>         3 暗褐色土 しまり強、粘性弱。ローム粒やや多含。粒子粗。<br/>         4 暗褐色土 しまり強、粘性やや強。炭化粒微、ローム粒少量含。粒子やや粗。<br/>         5 暗黄褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒やや多含。粒子やや粗。<br/>         6 黄褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒多含。粒子やや粗。<br/>         7 暗褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒微量含。粒子やや粗。<br/>         8 暗黄褐色土 しまり・粘性強。ローム粒多、粘土粒少量含。粒子やや粗。<br/>         9 黒茶褐色土 しまり・粘性やや弱。炭化粒多、焼土粒微量含。粒子やや粗。<br/>         10 茶褐色土 しまり・粘性やや弱。焼土多、炭化粒少量含。粒子やや粗。<br/>         11 暗褐色土 しまり・粘性やや弱。ローム粒少量含。粒子やや粗。<br/>         12 暗茶褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒やや多含。粒子やや粗。<br/>         13 茶褐色土 しまり・粘性やや強。焼土・炭化粒少量含。粒子やや粗。<br/>         14 暗褐色土 しまり・粘性強。ローム粒・粘土粒やや多含。粒子やや粗。<br/>         15 黒褐色土 しまり・粘性強。ローム粒・炭化粒微量含。粒子やや粗。<br/>         16 暗褐色土 しまり・粘性強。ローム粒少量、焼土・炭化粒・粘土粒微量含。粒子やや粗。<br/>         17 暗褐色土 しまり・粘性強。ローム粒・炭化粒・焼土粒微量含。粒子粗。<br/>         18 黒褐色土 しまり・粘性強。粘土・焼土・炭化粒微量含。粒子粗。<br/>         19 黄茶褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒多含。粒子やや粗。<br/>         20 灰褐色土 しまり極強・粘性強。焼土・ローム・ロームブロック少、粘土粒多含。<br/>         21 黒褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒少量含。粒子やや粗。<br/>         22 暗茶褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒やや多含。粒子やや粗。<br/>         23 灰褐色粘土層</p> | <p>24 黄褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒多・粘土粒少量含。粒子やや粗。<br/>         25 黒褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒やや多含。粒子やや粗。<br/>         26 暗黄褐色土 しまり・粘性強。ローム粒・ロームブロック多含。粒子やや粗。<br/>         27 茶褐色土 しまり・粘性強。ローム粒多、粘土粒少量含。粒子やや粗。<br/>         28 黒褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒少量含。粒子やや粗。<br/>         29 茶褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒・ロームブロック少量含。粒子やや粗。<br/>         30 茶褐色土 しまり極強。ローム、ロームブロック少量含。粒子やや粗。<br/>         31 黄褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒やや多含。粒子やや粗。<br/>         32 褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒少量含。粒子やや粗。<br/>         33 茶褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒少量含。粒子やや粗。<br/>         34 茶褐色土 しまり・粘性やや弱。炭化粒微量含。粒子やや細。<br/>         35 暗茶褐色土 しまり・粘性やや強。焼土・炭化粒少量含。粒子やや粗。<br/>         36 褐色土 しまり・粘性やや強。焼土やや多、炭化粒少量含。粒子やや粗。<br/>         37 茶褐色土 しまり・粘性やや強。焼土・炭化粒少量含。粒子やや粗。<br/>         38 褐色土 しまり・粘性やや強。焼土やや多、炭化粒少量含。粒子やや粗。<br/>         39 茶褐色土 しまり・粘性やや強。焼土・炭化粒微量含。粒子粗。<br/>         40 茶褐色土 しまり・粘性やや強。焼土・炭化粒微量含。粒子やや粗。<br/>         41 明茶褐色土 しまり・粘性やや強。焼土・炭化粒少量含。粒子やや粗。<br/>         42 暗黄褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒・ロームブロック多含。粒子やや粗。</p> |
|--|--|

第6図 第2号住居跡



第7图 第2号住居跡出土遺物

れて埋め戻されたものと推測される。東壁の南半分から南壁にかけて、壁溝が掘られている。

カマドは燃焼部を住居内に位置させ、粘土で構築している。燃焼部と煙道は住居北壁ラインで区別され、約 51° 立ち上がった後に約 35° 程の傾きをもった煙道へ移行する。

ピットは 3 箇所確認されたが、柱穴と考えられるピットは検出されていない。カマド右脇に貯蔵穴が 1 基確認されている。長径 102 cm、深さ 59 cm を測り、ほぼ円形を呈する。

出土遺物は、土器を主体とし、主にプラン北東部の覆土下層・床面直上から出土している。

#### 出土遺物（第 7 図・第 2 表・図版 8・9）

1～6 は、土師器の坏。1～4 は、口縁部が外反し身が深い。2 は、内面に放射状の暗文を施している。7 は、土師器の埴。8～12・14～18 は、土師器の甕。8・9 は、底部に木葉痕が残る。13 は、土師器の壺。19 は、須恵器甕の胴部破片。20 は、広口の土師器壺。21 は、土師器の甑。把手が付く。22・23 は須恵器の壺。

24～28 は、編み物石と判断した。細長い自然礫で、使用痕は確認されない。

本遺構は、遺物の様相から古墳時代後期後半に属すると思われる。

#### 第 3 号住居跡（第 3 図・図版 2）

調査区の北側ほぼ中央に位置する。N・O-10 グリットに位置する。住居プランは長方形を呈し、4.14m × 2.82m で、南西壁ほぼ中央にカマドを備える。主軸は、N-121°-W の方位を持つ。壁の掘り込みは、南西壁で 16 cm、南東壁で 6 cm、北東壁で 27 cm、北西壁で 26 cm を測る。床はほぼ平坦で直床である。

カマドは、燃焼部を住居内に位置させ、燃焼部から煙道へは段差を持たず緩やかに立ち上がっている。

住居の中央には、直径 153 cm、深さ 55 cm のタライ型を呈する床下土壌が 1 基検出されている。覆土は、ロームブロックが多量に混じり、掘削後時間を置かず人為的に埋め戻されたものと推測される。

ピットは 5 基確認されており、その内柱穴は 4 基。深さは、P 1 : 13 cm、P 2 : 15 cm、P 3 : 12 cm、P 4 : 49 cm を測る。柱間の距離は、P 1-2 間 : 2.72m、P 2-3 間 : 1.84 m、P 3-4 間 : 3.10 m、P 4-1 間 : 1.48 m を測る。

出土遺物は少なく、カマド右側の床面から 12 cm 程上面から鉢形土器（第 8 図 1）が出土している。

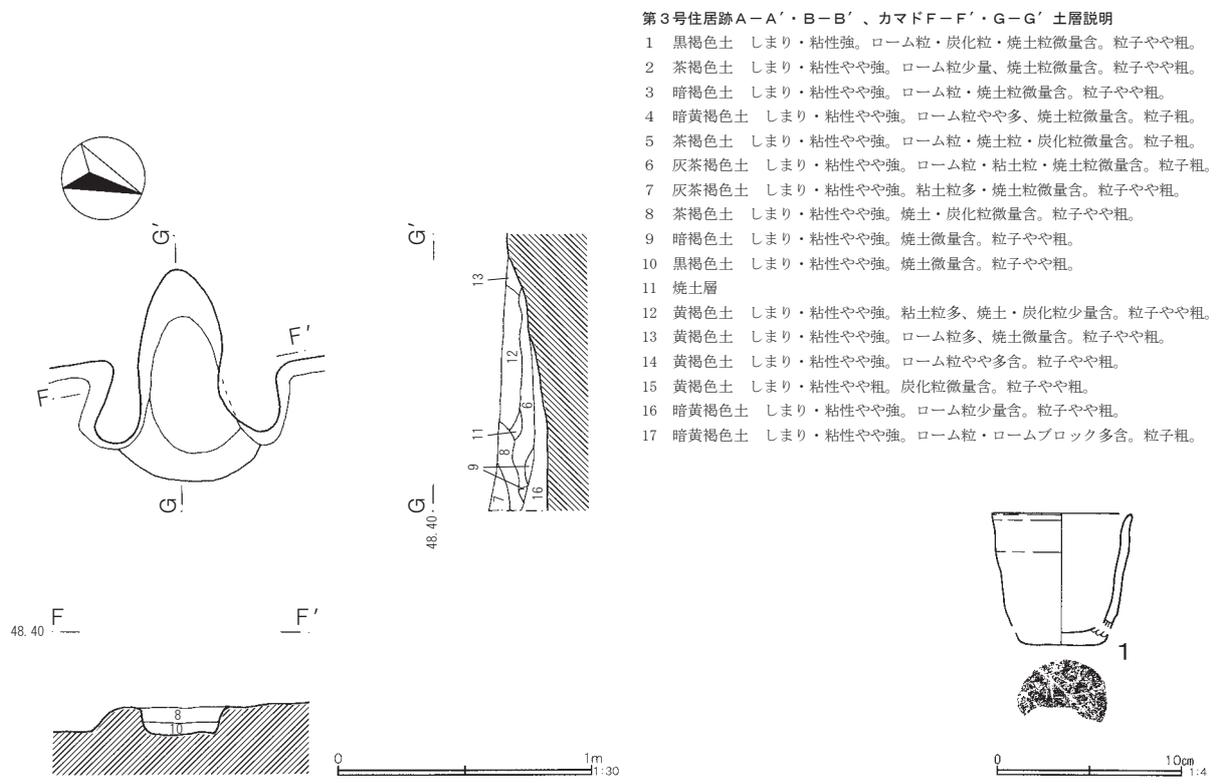
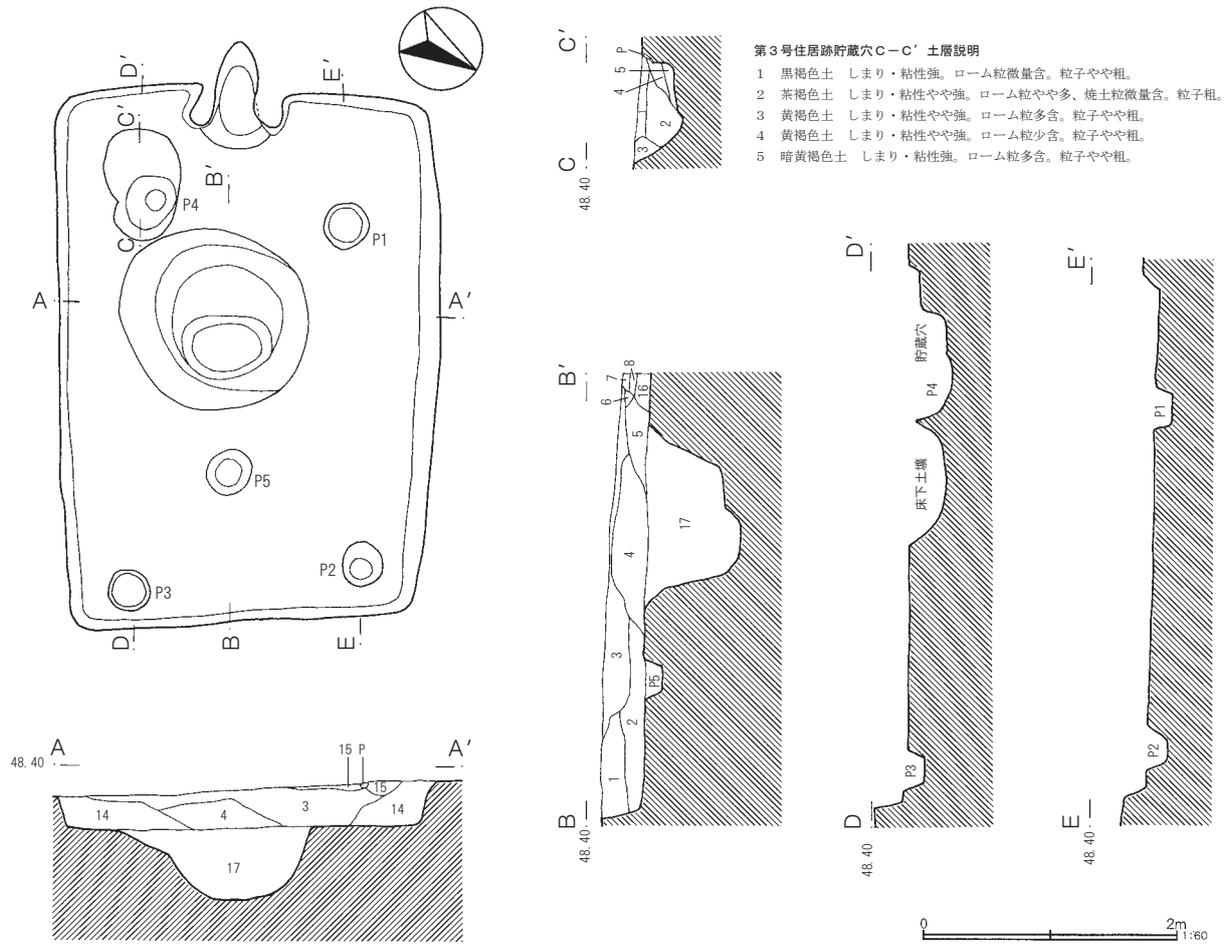
#### 出土遺物（第 3 図・第 3 表・図版 9）

1 は、土師器の小形の鉢で、コップ型を呈する。容量 140ml を量る。底部に木葉痕が残る。

本遺構は、遺物の様相から古墳時代後期後半に属すると思われる。

#### 第 4 号住居跡（第 9 図・図版 3）

調査区の北隅に位置する。L・M-9・10 グリットに位置する。住居プランの北側 1/3 は調査区外となり未調査となっている。ただし、本調査終了後、第 4 号住居跡北側 2 m 程の地点でフェンスの設置工事があり、工事立会を実施したところ、本住居跡のカマドと推測される遺構が確認され、カマド構築材として長胴甕 4 個体（第 10 図 11～14）が出土している。カマド両袖先端部に 2 個ずつ伏せた状態



第8図 第3号住居跡・カマド・出土遺物

で埋め込まれていた。

住居プランは長方形を呈し、(4.18) m × 5.18 m、主軸は、N-27°-Wの方位を持つ。壁の掘り込みは、北東壁で25 cm、南東壁で10 cm、南西壁で31 cmを測る。床はほぼ平坦で、直床である。

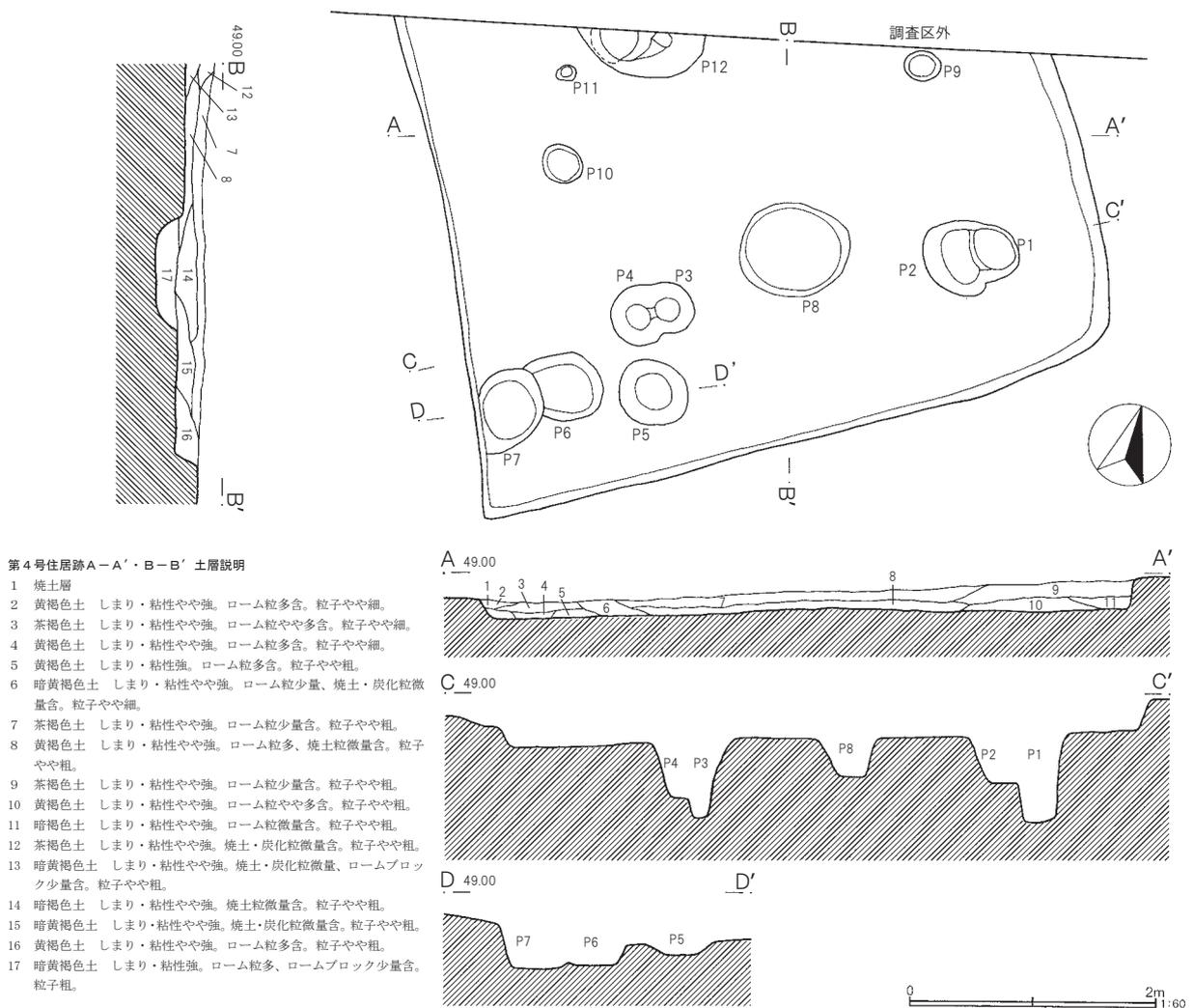
ピットは10基確認されており、その内4基が柱穴で、2基ずつ確認されており、柱の建て替えが推測される。深さは、P1:74 cm、P2:101 cm、P3:65 cm、P4:64 cmを測る。

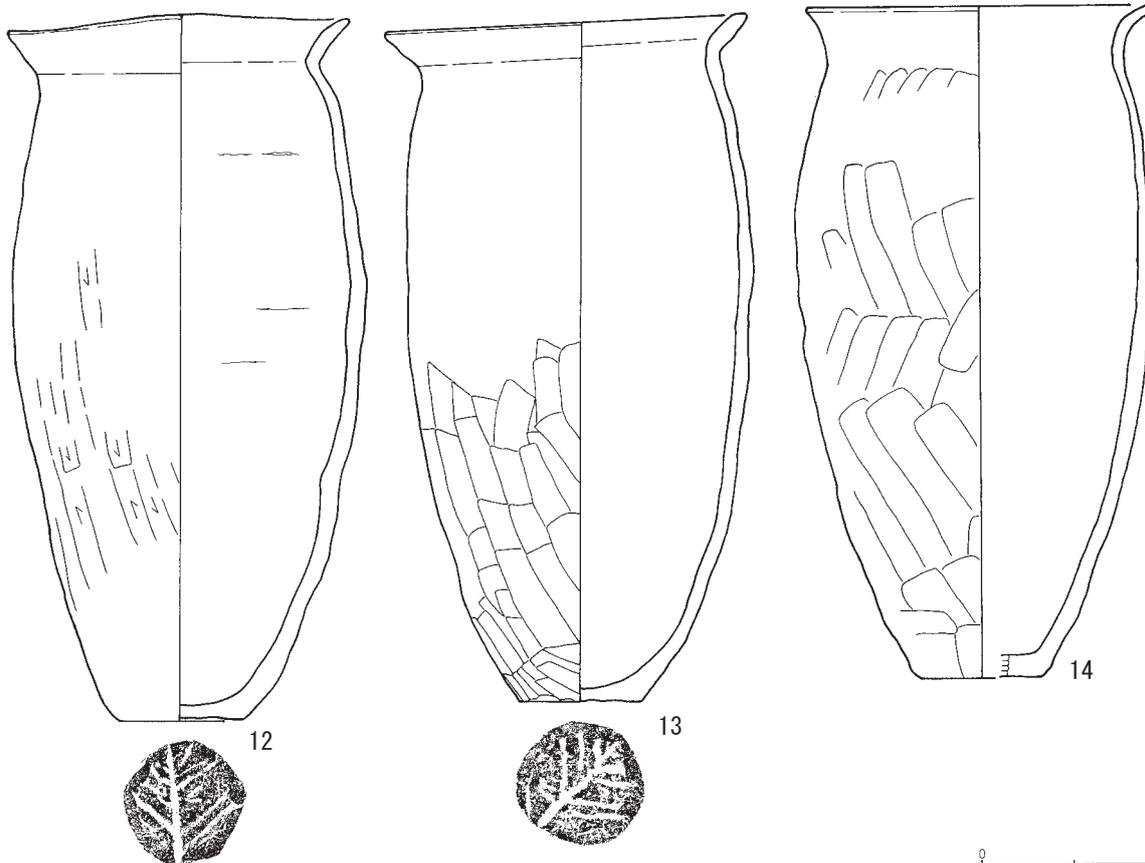
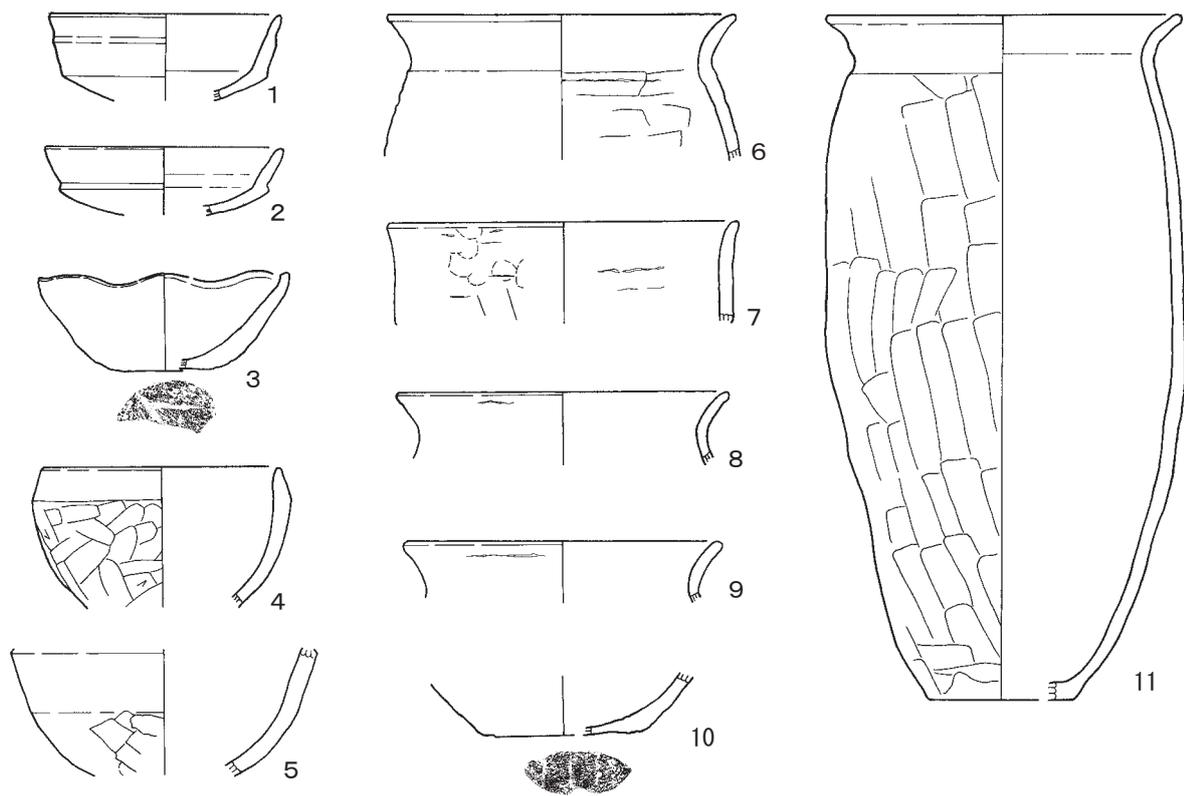
出土遺物は、カマド構築材の甕以外は、プラン中央部より少量が出土している。

#### 出土遺物 (第10・11図・第4表・図版9・10)

1・2は、土師器の坏。1は、口縁部が高く直立し、2は口縁部が外反し身が深い。3~5は、土師器の鉢。3は、底部に木葉痕が残る。6~15は、土師器の甕。12・13は、底部に木葉痕が残る。11~14の長胴甕は、カマドの構築材として再利用されていたもので、カマド両袖部先端に使用されていた。内外面に被熱・煮沸の痕跡が残る。16は、土師器の小型の鉢で、コップ形を呈する。

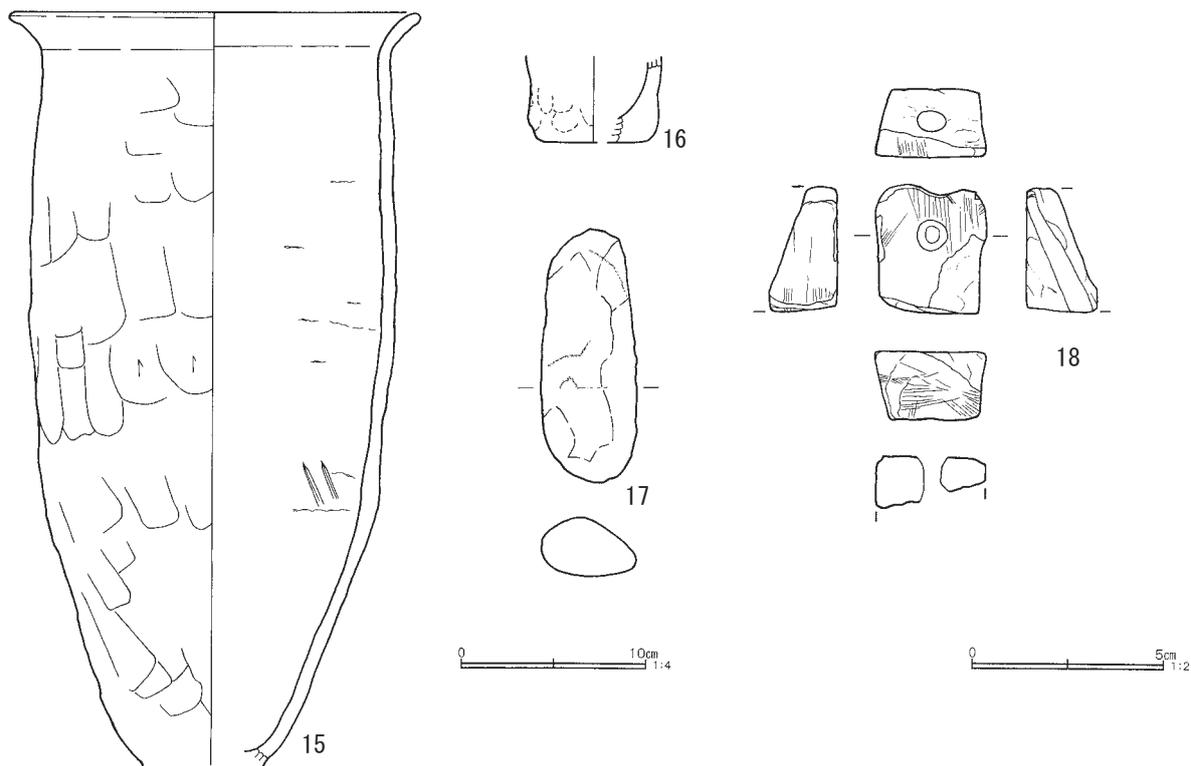
17は、編み物石と判断した。細長い自然礫で、使用痕は確認されない。18は、凝灰岩製の提碁。直



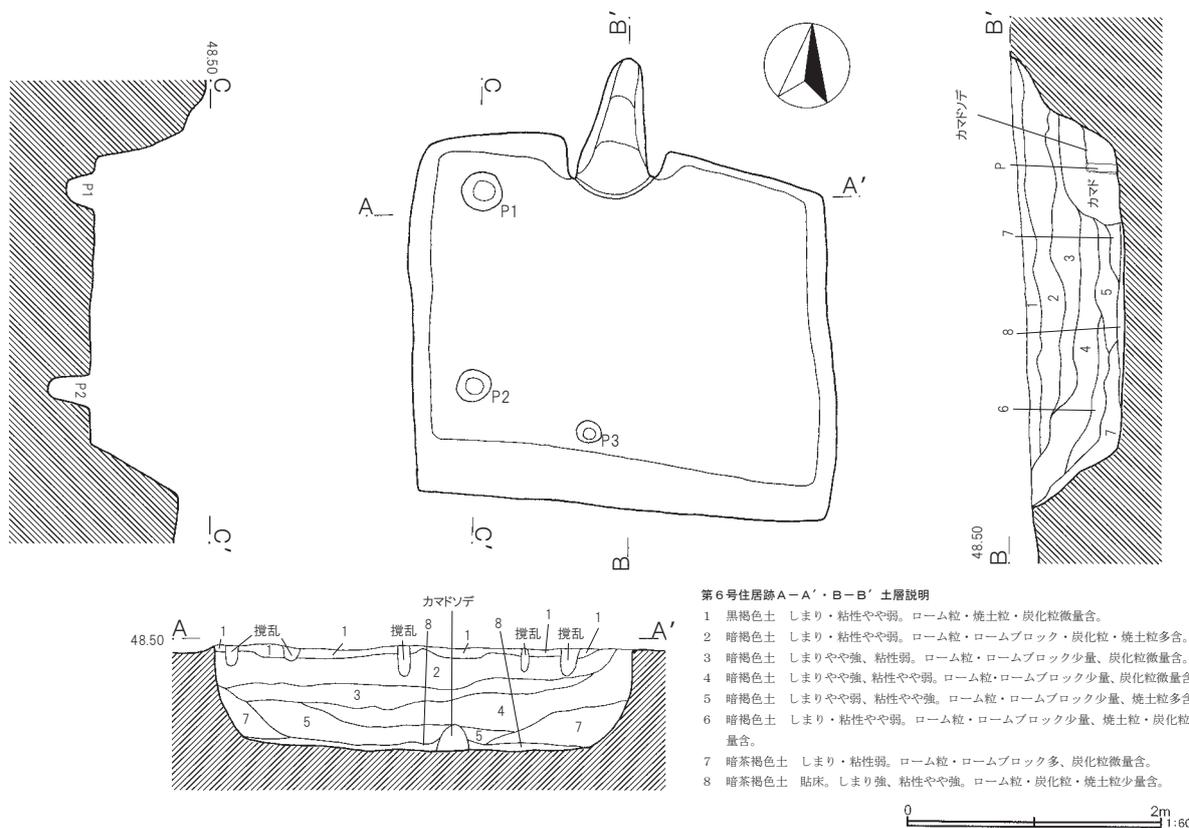


0 10cm 1:4

第 10 图 第 4 号住居跡出土遺物 (1)



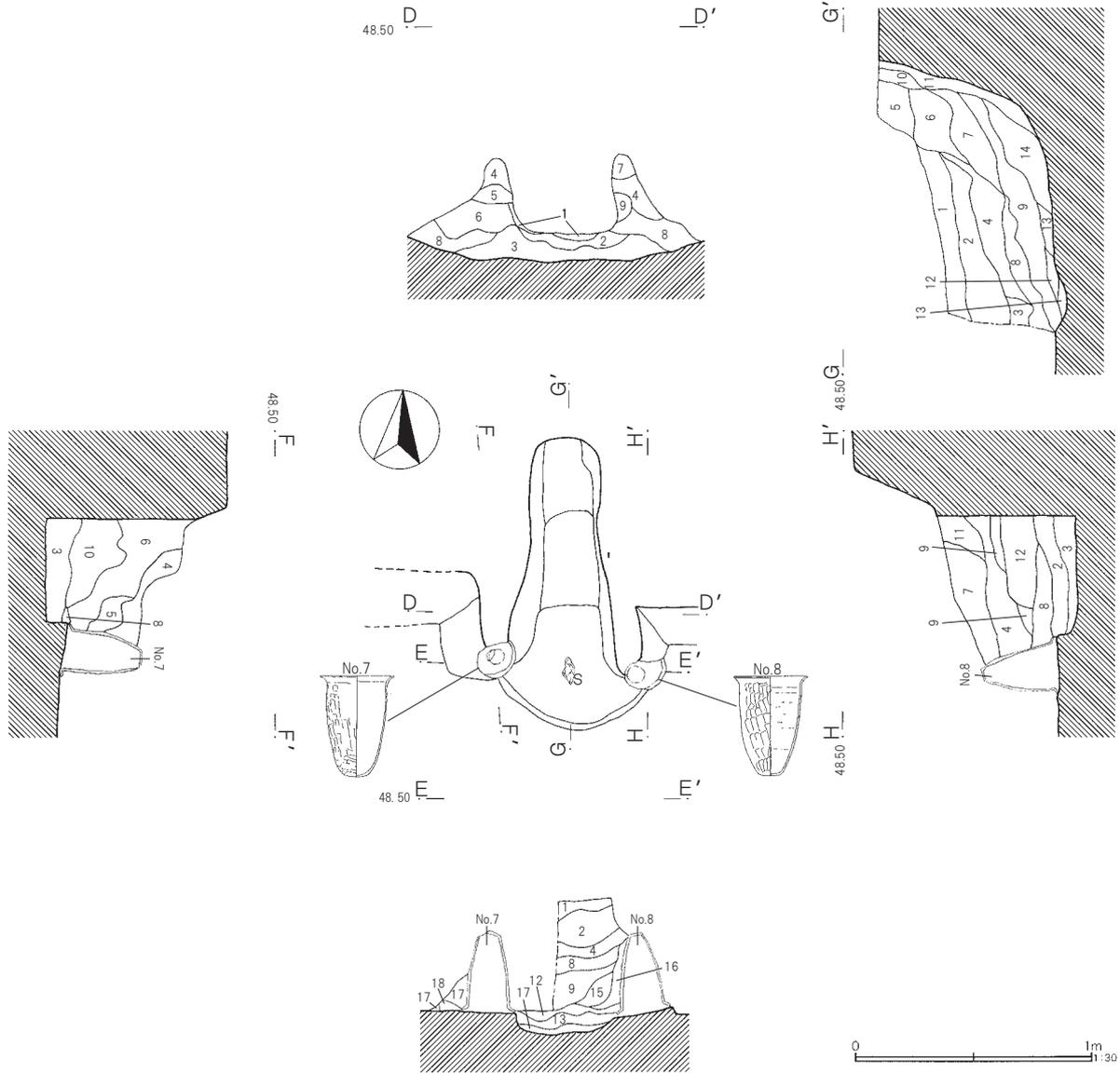
第11図 第4号住居跡出土遺物(2)



第6号住居跡A-A'・B-B'土層説明

- 1 黒褐色土 しまり・粘性やや弱。ローム粒・焼土粒・炭化粒微量含。
- 2 暗褐色土 しまり・粘性やや弱。ローム粒・ロームブロック・炭化粒・焼土粒多含。
- 3 暗褐色土 しまりやや強、粘性弱。ローム粒・ロームブロック少量、炭化粒微量含。
- 4 暗褐色土 しまりやや強、粘性やや弱。ローム粒・ロームブロック少量、炭化粒微量含。
- 5 暗褐色土 しまりやや弱、粘性やや強。ローム粒・ロームブロック少量、焼土粒多含。
- 6 暗褐色土 しまり・粘性やや弱。ローム粒・ロームブロック少量、焼土粒・炭化粒微量含。
- 7 暗茶褐色土 しまり・粘性弱。ローム粒・ロームブロック多、炭化粒微量含。
- 8 暗茶褐色土 貼床。しまり強、粘性やや強。ローム粒・炭化粒・焼土粒少量含。

第12図 第6号住居跡



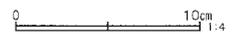
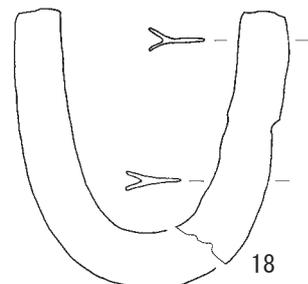
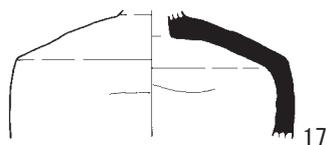
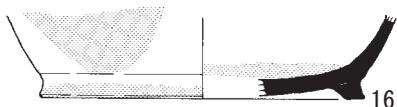
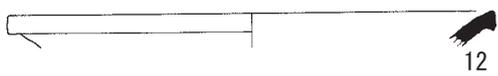
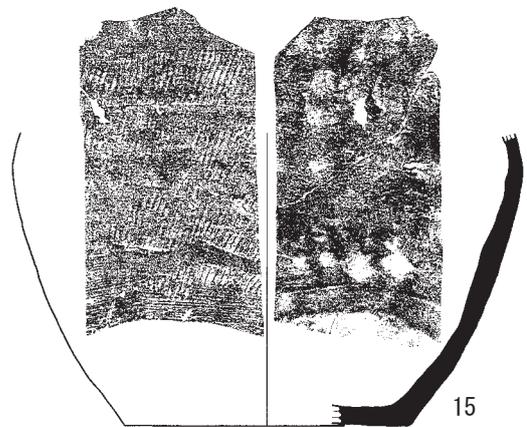
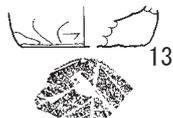
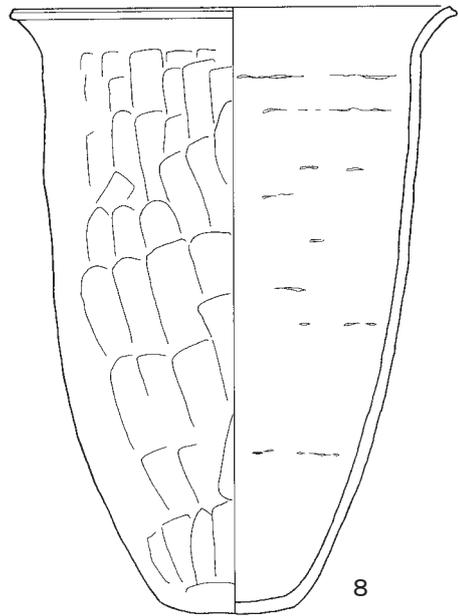
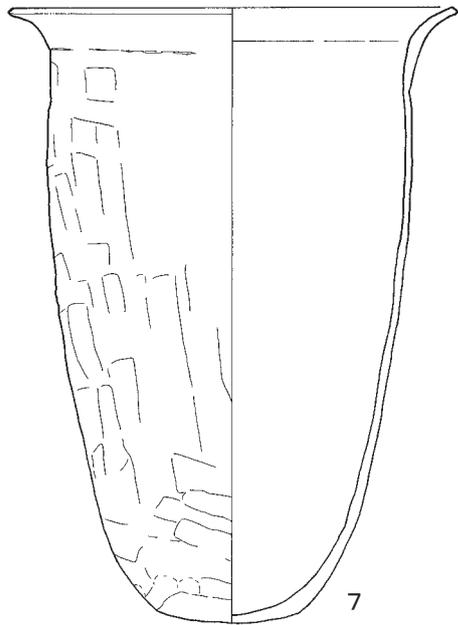
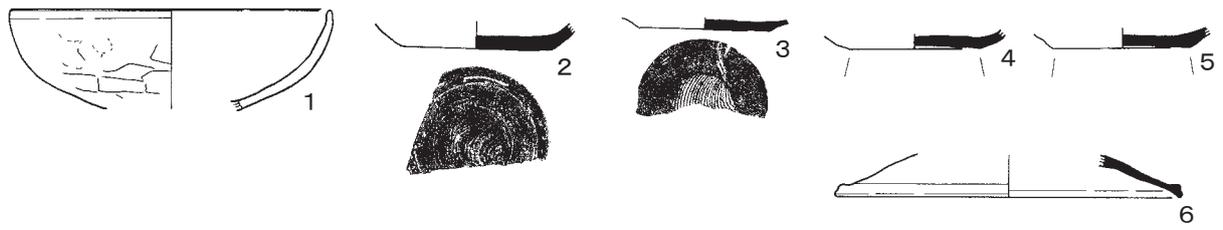
第6号住居跡カマドE-E'・G-G' 土層説明

- 1 暗褐色土 しまりやや強、粘性弱。ローム粒・ロームブロック少量、炭化粒微量含。
- 2 暗褐色土 しまりやや強、粘性やや弱。ローム粒・ロームブロック少量、炭化粒微量含。
- 3 暗褐色土 しまりやや弱、粘性やや強。ローム粒・ロームブロック少量、焼土粒多含。
- 4 暗黄褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒・ロームブロック少量、焼土・炭化粒微量含。
- 5 暗褐色土 しまり・粘性強。ローム粒微量含。
- 6 暗褐色土 しまり・粘性やや弱。ローム粒・焼土粒・炭化粒微量含。
- 7 暗褐色土 しまり・粘性強。ローム粒・ロームブロック・焼土粒・炭化粒微量含。
- 8 暗茶褐色土 しまり・粘性強。焼土粒・炭化粒少量含。
- 9 茶褐色土 しまり・粘性やや強。焼土粒多含。
- 10 暗褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒・焼土粒・炭化粒ブロック状含。
- 11 暗黄褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒多、焼土粒・炭化粒微量含。
- 12 黒褐色土 しまり・粘性弱。炭化粒・焼土粒ブロック状多含。
- 13 暗褐色土 しまり・粘性弱。ロームブロック・焼土粒・炭化粒微量含。
- 14 暗褐色土 しまり・粘性やや弱。焼土粒・炭化粒少量含。
- 15 暗褐色土 しまり・粘性やや弱。焼土粒・炭化粒微量含。
- 16 暗褐色土 しまり・粘性やや強。焼土粒・炭化粒・粘土粒微量含。
- 17 暗褐色土 しまり・粘性強。ローム粒・焼土粒微量含。
- 18 暗黄褐色土 しまり・粘性強。ローム粒ブロック状多含。

第6号住居跡カマドD-D'・F-F'・H-H' 土層説明

- 1 暗褐色土 しまり強、粘性やや強。ローム粒微量、炭化粒・焼土粒多含。
- 2 暗黄褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒少量、焼土粒微量含。
- 3 暗黄褐色土 しまり・粘性強。ローム粒多・炭化粒微量含。
- 4 暗褐色土 しまり強、粘性やや強。焼土粒・炭化粒少量含。
- 5 暗褐色土 しまり・粘性やや弱。焼土粒・炭化粒多含。
- 6 暗黄褐色土 しまり・粘性やや強。焼土粒・炭化粒少量含。
- 7 暗褐色土 しまり強、粘性やや強。焼土粒・炭化粒微量含。
- 8 暗褐色土 しまり・粘性強。ローム粒・ロームブロック・焼土粒・炭化粒微量含。
- 9 茶褐色土 しまり・粘性やや強。焼土粒・炭化粒多含。
- 10 暗黄褐色土 しまり・粘性強。焼土粒・炭化粒微量含。
- 11 暗黄褐色土 しまり強く、粘性やや強。ローム粒多、焼土・炭化粒少量含。
- 12 黄茶褐色土 しまり・粘性やや強。焼土・炭化粒少量含。

第13図 第6号住居跡カマド



第 14 图 第 6 号住居跡出土遺物

径 0.6 cm の孔が穿たれており、裏面は、斜位に欠損する。

本遺構は、遺物の様相から古墳時代後期後半に属すると思われる。

#### 第 6 号住居跡（第 12・13 図・図版 3）

調査区の北東、N・O-13・14 グリットに位置する。住居プランは方形を呈し、1.72m × 3.31m で、北壁やや西寄りにカマドを備える。主軸は、N-15°-E の方位を持つ。壁の掘り込みは、北壁で 45 cm、東壁で 33 cm、南壁で 64 cm、西壁で 41 cm を測る。床はほぼ平坦で貼り床である。

カマドは、北壁中央部に位置し、両袖部は地山を掘り残して構築されている。燃焼部は住居内に位置し、燃焼部と煙道は住居北壁ラインで小段をもって区分され、40 cm 程緩やかに立ち上がった後、約 72° の角度で急速に立ち上がっている。焚口部中央には、片岩の棒状礫が置かれており、支脚と判断される。カマド両袖先端には、カマド構築材として、完形の土師器甕が伏せられた状態で埋め込まれている。

ピットは 3 箇所確認されたが、柱穴と考えられるピットは検出されていない。

出土遺物は、土器を主体とし、主に覆土下層・床面直上から出土している。鉄製鋤先 1 点がプラン東中央の床面直上から出土している。

#### 出土遺物（第 14 図・第 5 表・図版 10・11）

1 は、土師器の坏。2～5 は、須恵器の坏。6 は、須恵器の蓋。7～11・13 は、土師器の甕。7・8 は完形で、カマド両袖に、カマドの構築材として埋め込まれていたものである。両甕とも、内外面に被熱・煮沸の痕跡が残る。13 は、底部に木葉痕が残る。12・14・15 は須恵器の甕。16・17 は須恵器の壺。

18 は、鉄製鋤先。薄い鉄板を貼り合わせて製作している。復元長 15.1 cm、込長 12.0 cm、最大幅 14.4 cm を測る。

本遺構は、遺物の様相から古墳時代後期後半に属すると思われる。

#### 第 7 号住居跡（第 15・16 図・図版 3・4）

調査区の中央やや西、R・S-11・12 グリットに位置する。住居プランは方形を呈し、5.45m × 5.72m で、東壁やや北寄りにカマドを備える。南東隅が、土壌に切られている。主軸は、N-90°-E の方位を持つ。壁の掘り込みは、北壁で 36 cm、東壁で 32 cm、南壁で 16 cm、西壁で 17 cm を測る。床はほぼ平坦で直床である。

カマドは、東壁やや北寄りに位置し、両袖部は地山を掘り残して構築されている。燃焼部は住居内に位置し、煙道は、30 cm 程立ち上がった後、約 30° の角度で緩やかに立ち上がっている。

カマド左脇には、直径 92 cm、深さ 40 cm を測る、円形を呈する貯蔵穴が確認されている。覆土中から、土師器の坏（第 17 図 1）、甕（第 17 図 12）、甗（第 18 図 23）が出土している。

ピットは 7 箇所確認された、p 1・2・5・7 が柱穴と考えられる。深さは、p 1 : 50 cm、p 2 : 27 cm、p 5 : 38 cm、p 7 : 38 cm を測る。間隔は、p 1 - p 2 間 : 2.2m、p 2 - p 5 間 : 2.7m、p 5 - p 7 間 : 2.1m、p 7 - p 1 間 : 2.5m である。貯蔵穴は、カマドの左側に位置する。長径 0.9 cm、深さ 54 cm を測る。

出土遺物は、土器を主体とし、覆土下層・床面直上から出土している。住居北東コーナー床面直上か

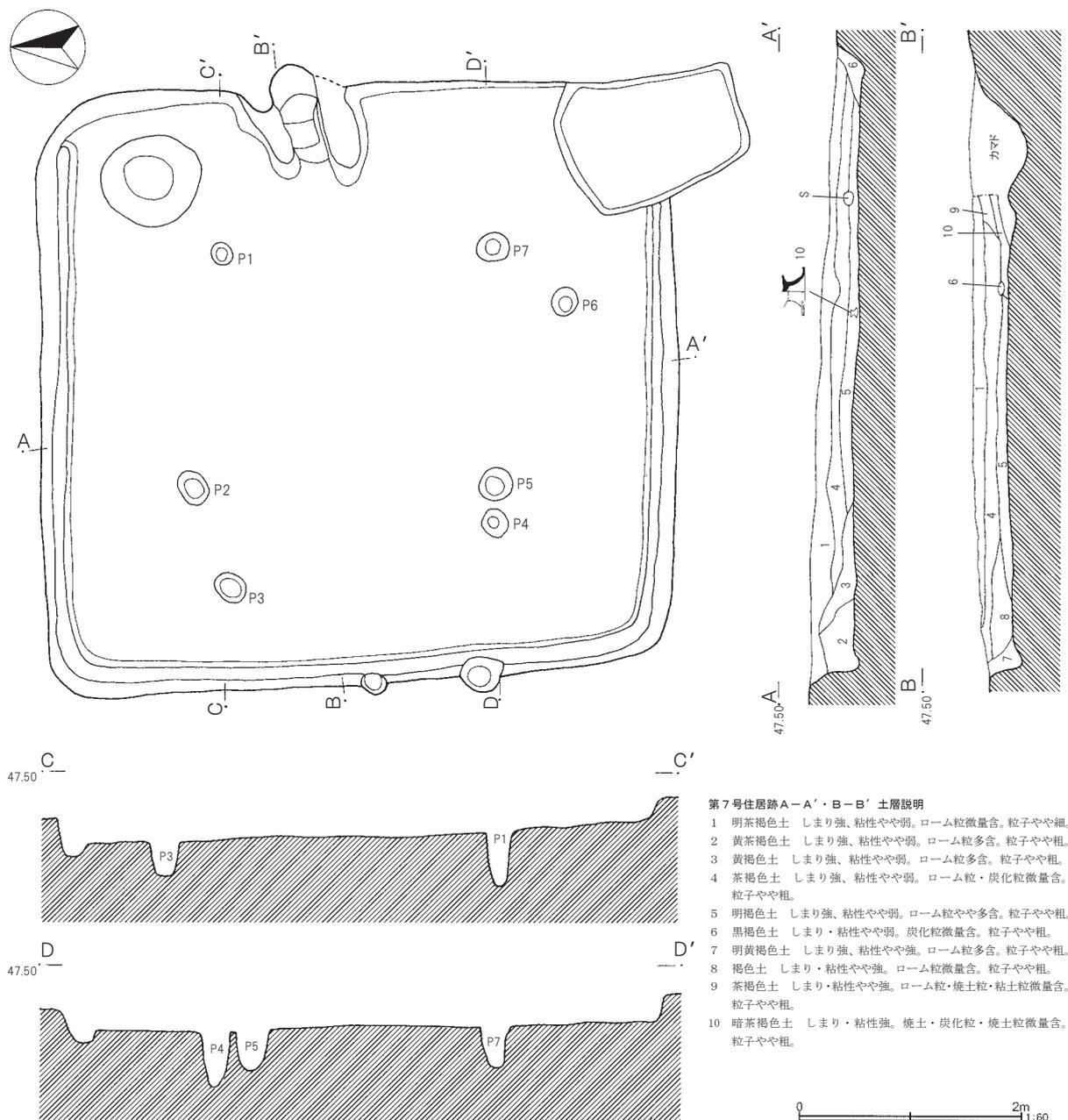
ら、土師器甕（第17図20）が床面からやや浮いた状態で、編み物石8点、土製支脚（第18図24）等が出土している。

**出土遺物（第17・18図・第6表・図版11・12）**

1～9は、土師器の坏。1は、内面に放射状の暗文を施している。2は、内外面に赤彩を施している。10は、須恵器の高坏。11～22は、土師器の甕。21・22は、底部に木葉痕が残る。23は、貯蔵穴から出土した土師器の甕。24は、土製支脚。底面に直径1.5cm、深さ3.1cm程の孔が穿たれている。

25～36は、編み物石と判断した。細長い自然礫で、使用痕は確認されない。

本遺構は、遺物の様相から古墳時代後期後半に属すると思われる。



第15図 第7号住居跡

## 第8号住居跡 (第19図・図版4)

調査区の南東隅、W・X-10グリッドに位置する。調査区外にプランの1/3がかかり未調査となっている。住居プランは長方形を呈し、(2.64)m×3.45mで、東壁やや南寄りにカマドを備える。主軸は、N-72°-Eの方位を持つ。壁の掘り込みは、北壁で27cm、東壁で32cm、南壁で35cmを測る。床はほぼ平坦で直床である。東壁の北半分から北壁及び南壁に、壁溝が掘られている。

カマドは東壁に位置し、両袖部は地山を掘り残し、粘土を被せて構築されている。燃烧部は住居内に位置し、煙道は、段差を持って30cm程立ち上がった後、約36°の角度で緩やかに立ち上がっている。

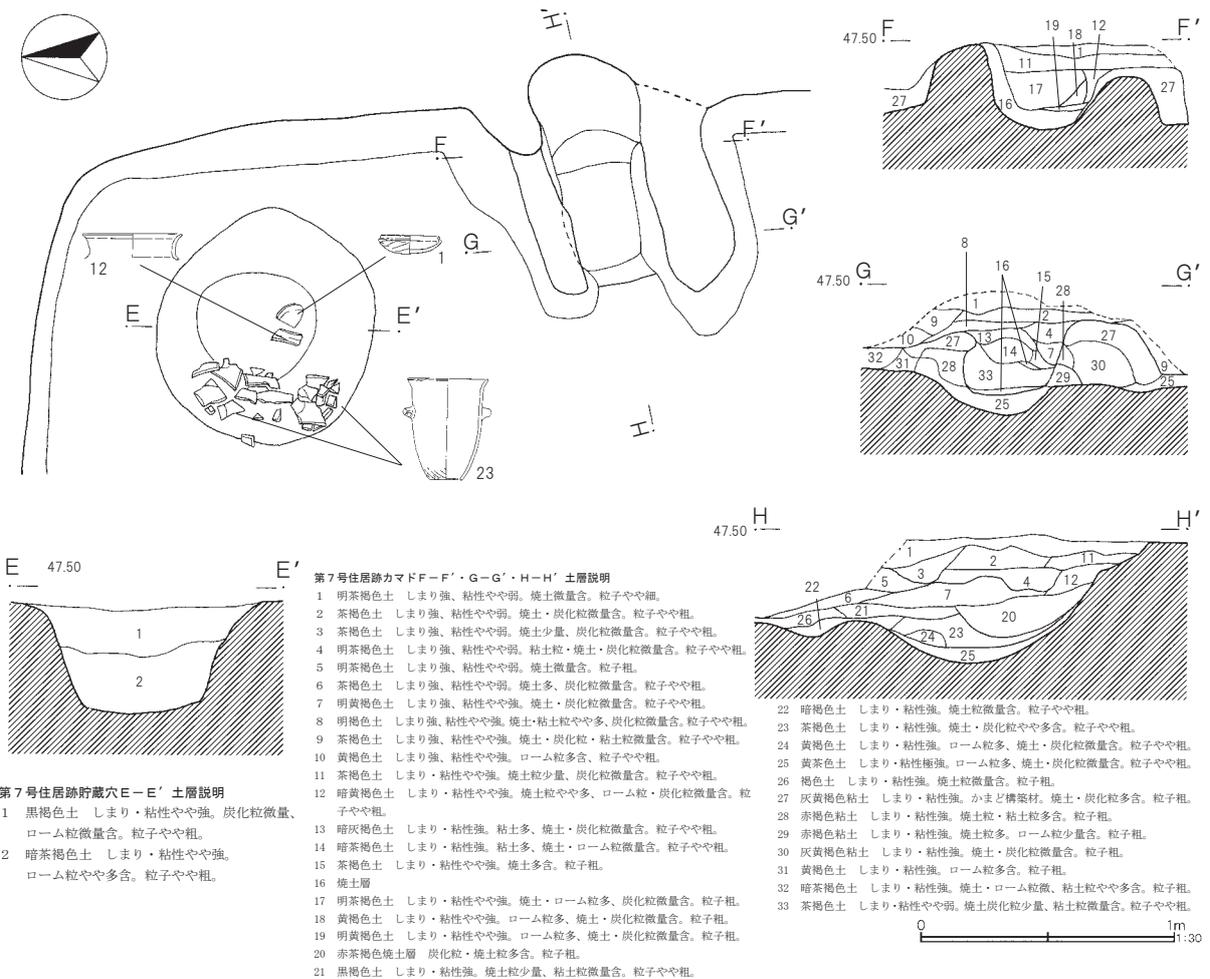
ピットは6箇所確認されたが、柱穴と考えられるピットは検出されていない。貯蔵穴は、カマド右側に位置する。長径84cm、深さ20cmを測る。

出土遺物は、土器を主体とし、覆土下層・床面直上から少量出土している。貯蔵穴から、胴部下半を欠損する土師器甕(第20図7)、カマド燃烧部から土師器甕(第5図5)が出土している。

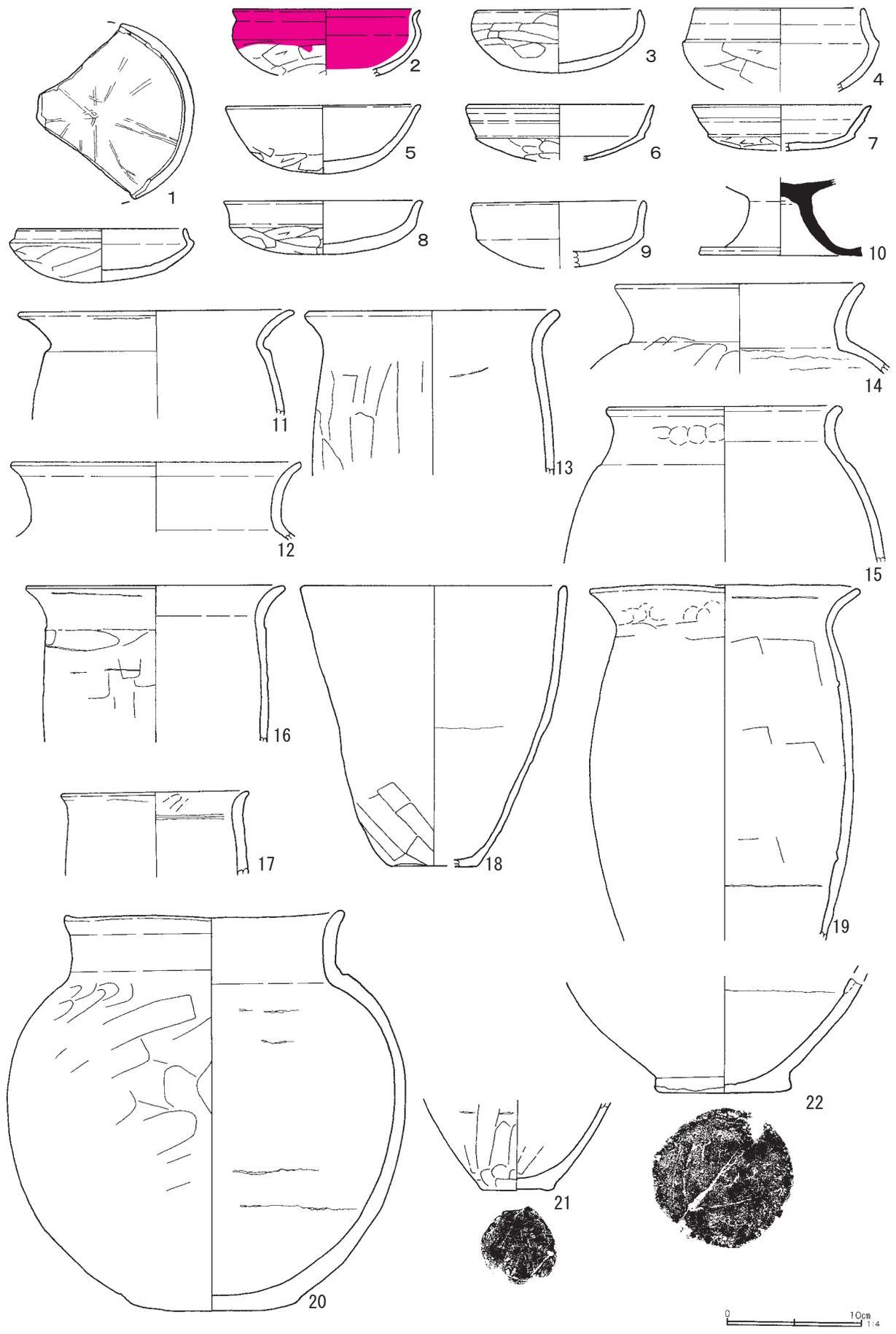
## 出土遺物 (第20図・第7表・図版12・13)

1は、土師器の坏。2~8は、土師器の甕。

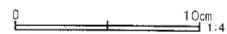
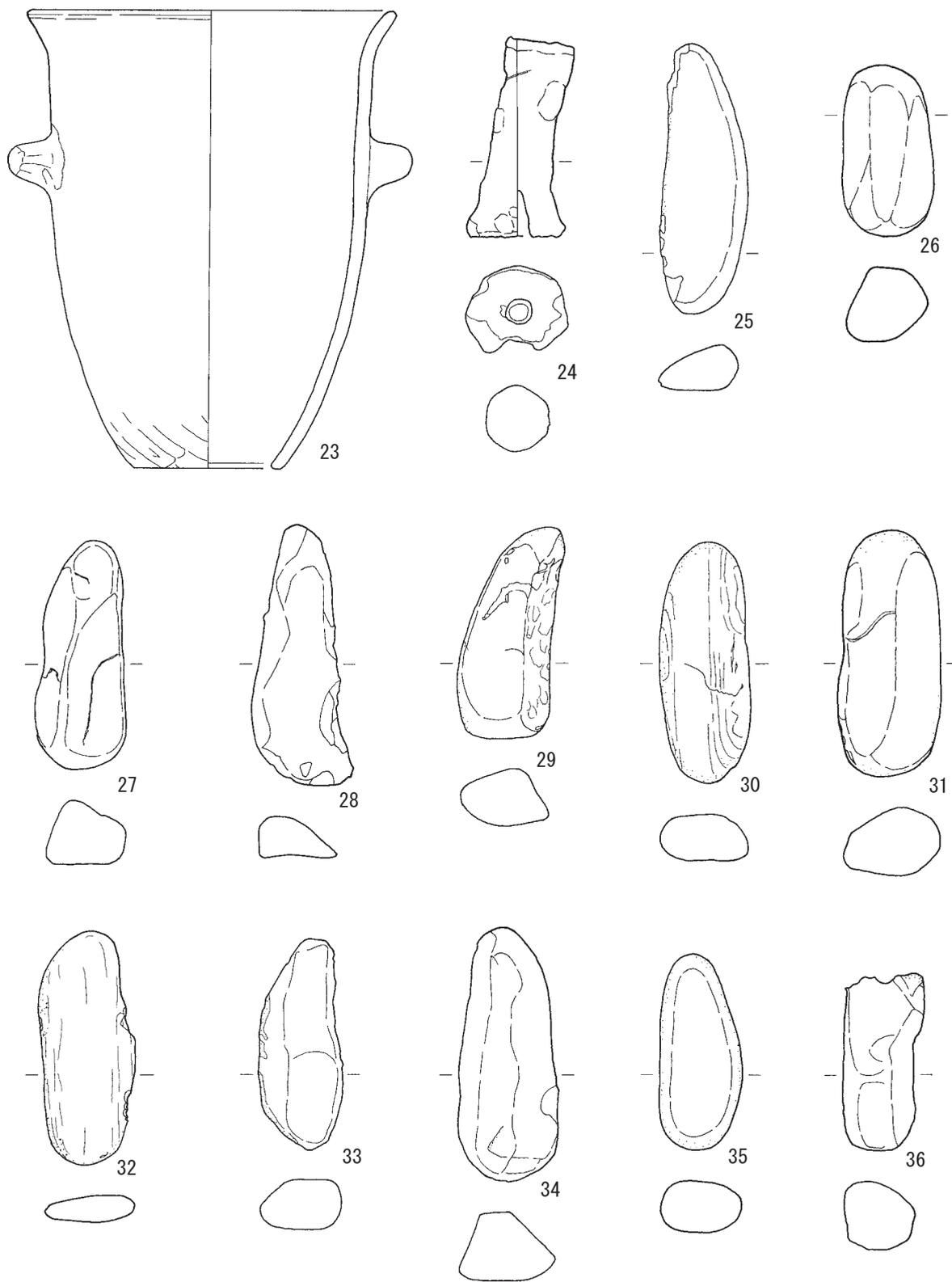
本遺構は、遺物の様相から古墳時代後期後半に属すると思われる。



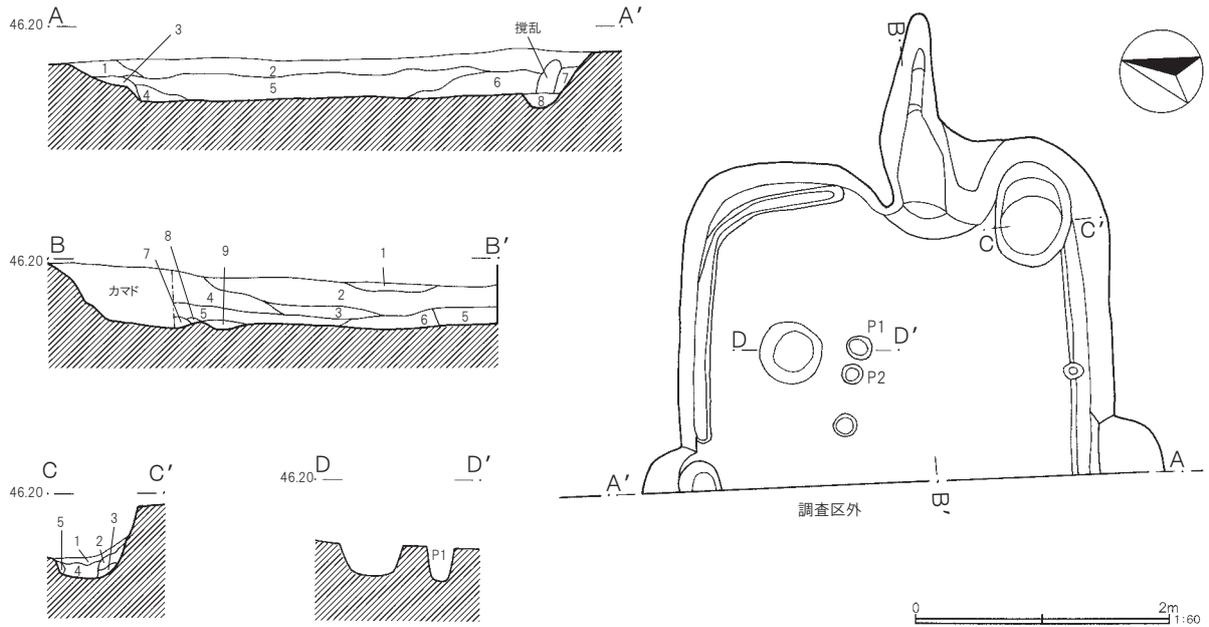
第16図 第7号住居跡カマド



第 17 图 第 7 号住居跡出土遺物 (1)



第 18 图 第 7 号住居跡出土遺物 (2)



**第8号住居跡A-A' 土層説明**

- 1 茶褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒少量含。粒子やや細。
- 2 明褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒・炭化粒微量含。粒子やや粗。
- 3 茶褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒多含。粒子やや細。
- 4 暗茶褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒微量含。粒子やや粗。
- 5 褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒・炭化粒微量含。粒子やや粗。
- 6 暗褐色土 しまり・粘性強。ローム粒少量含。粒子やや粗。
- 7 暗黄褐色土 しまり・粘性強。ローム粒やや多含。粒子やや粗。
- 8 暗褐色土 しまり・粘性やや強。焼土・炭化粒微量含。粒子やや粗。

**第8号住居跡B-B' 土層説明**

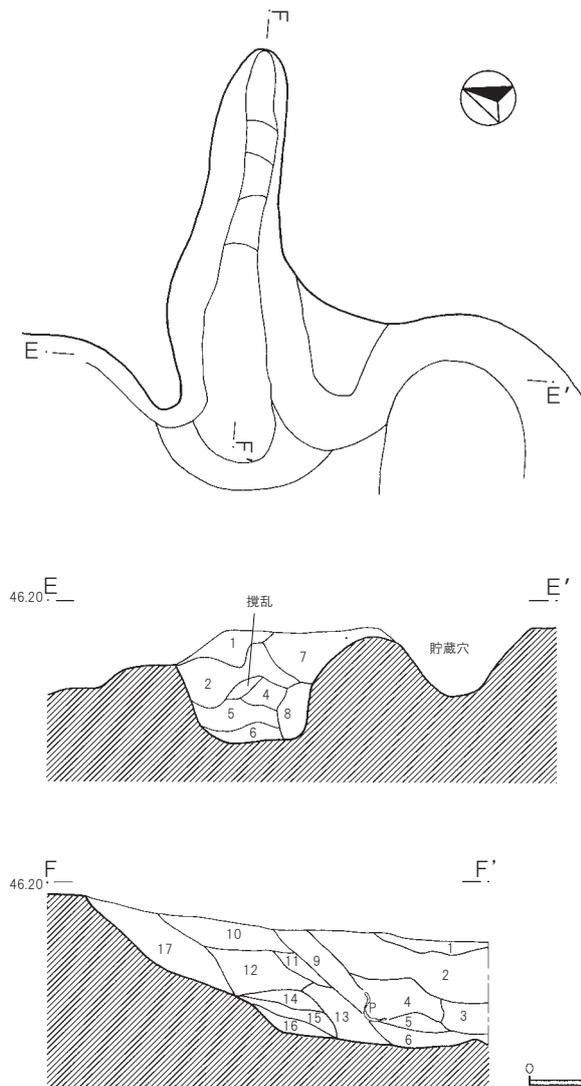
- 1 暗褐色土 しまり・粘性弱。ローム粒少、炭化粒微量含。
- 2 暗褐色土 しまり・粘性弱。ローム粒・焼土粒・炭化粒少量含。
- 3 暗黄褐色土 しまり強、粘性弱。ローム粒・焼土粒・炭化粒少量含。
- 4 暗褐色土 しまり・粘性弱。ローム粒・焼土・炭化粒多含。
- 5 暗褐色土 しまり・粘性弱。ローム粒多、焼土・炭化粒少量含。
- 6 黒褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒多、炭化粒微量含。
- 7 暗茶褐色土 しまり・粘性やや強。焼土・炭化粒多含。
- 8 灰褐色土 しまり強、粘性やや強。焼土・炭化粒微量含。
- 9 暗褐色土 しまり・粘性強。ローム粒微、焼土・炭化粒少量含。

**第8号住居跡貯蔵穴C-C' 土層説明**

- 1 黒褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒少量含。粒子やや粗。
- 2 暗褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒少量含。粒子やや粗。
- 3 灰褐色土 しまり・粘性強。粘土多含。粒子粗。
- 4 茶褐色土 しまり・粘性やや強。焼土・炭化粒やや多含。粒子粗。
- 5 明褐色土 しまり・粘性やや強。ローム少量、焼土・炭化粒微量含。粒子粗。

**第8号住居跡カマドE-E'・F-F' 土層説明**

- 1 茶褐色土 しまり・粘性やや強。焼土微量含。粒子粗。
- 2 明茶褐色土 しまり・粘性やや強。焼土・炭化粒微量含。粒子やや粗。
- 3 暗茶褐色土 しまり・粘性やや強。焼土・炭化粒微量含。粒子やや粗。
- 4 褐色土 しまり・粘性やや強。焼土微量含。粒子やや粗。
- 5 明褐色土 しまり・粘性やや強。焼土・炭化粒微量含。粒子やや粗。
- 6 褐色土 しまり・粘性やや強。焼土・炭化粒やや多、ローム粒・焼土粒微量含。粒子粗。
- 7 暗茶褐色土 しまり・粘性やや強。焼土・炭化粒微量含。粒子やや粗。
- 8 明茶褐色土 しまり・粘性やや強。焼土多、炭化粒微量含。粒子やや粗。
- 9 黄褐色土 しまり・粘性強。ローム多、焼土微量含。粒子粗。
- 10 黄褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒多、焼土粒微量含。粒子粗。
- 11 茶褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒多含。粒子やや粗。
- 12 暗黄褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒少量、焼土多含。粒子粗。
- 13 黄褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒少量、焼土多含。粒子粗。
- 14 灰黄褐色土 しまり・粘性強。粘土多、焼土少量含。粒子粗。カマド天井崩落土。
- 15 赤褐色焼土層
- 16 明黄褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒多、焼土・炭化粒少量含。粒子粗。
- 17 暗黄褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒少量含。粒子やや粗。



第19図 第8号住居跡・カマド

第9A号住居跡（第21・22図・図版4・5）

調査区南端西、V・W-11・12グリッドに位置する。南側1/4は調査区外にかかり未調査となっている。プラン東側を第9C号住居跡、北側を第9B号住居跡を切って構築している。住居プランは方形を呈し、(3.8)m×4.56mを測る。

北壁やや東寄りにカマドを備える。主軸は、N-11°-Wの方位を持つ。壁の掘り込みは、東壁で43cm、西壁で27cmを測る。床はほぼ平坦で直床である。

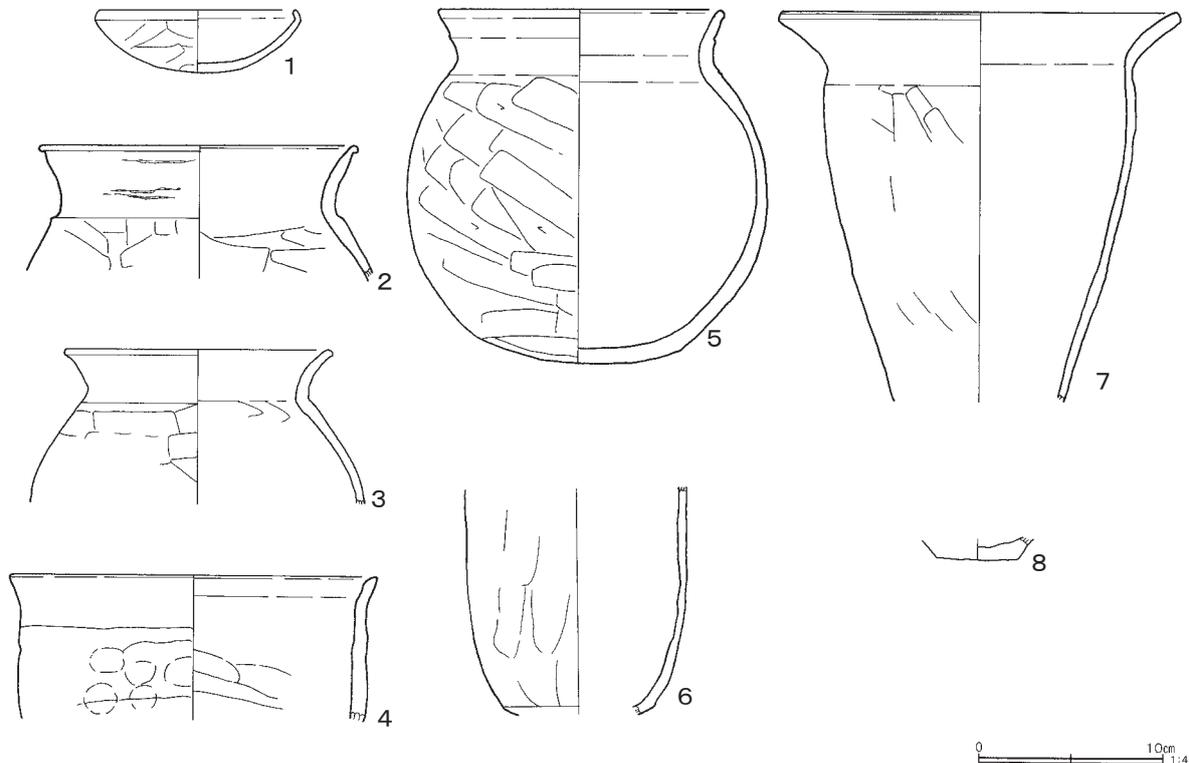
カマド右側に貯蔵穴が確認されている。長径88cm、深さ28cmを測る。

ピットは10基確認されており、柱穴と推測されるものはP2・4～6・8・9である。深さはp2:72cm、p4:27cm、p5:35cm、P6:43cm、P8:32cm、P9:23cmを測る。間隔は、p4-p5間175cm、p5-p6間154cm、p6-p8間175cm、p8-p4間190cmである。

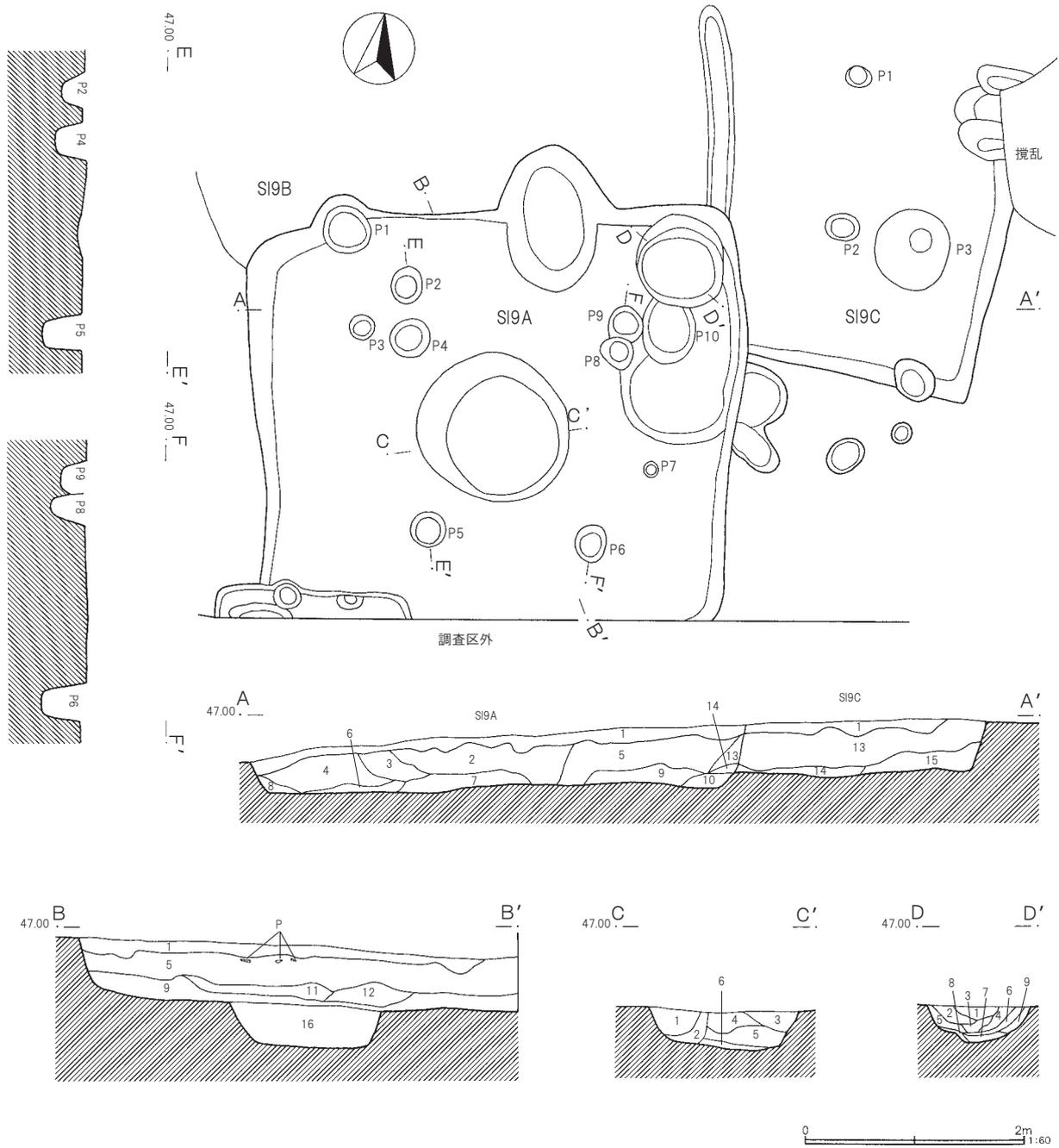
カマドは、粘土で構築されている。右袖先端部に底部を欠いた土師器の甕が正位で設置されており（第23図14）、左袖に設置した土師器の甕（第23図15）は内側に倒れた状態で確認されている。カマドの先端には、土師器の甕3個体が入子状態で出土しており（第23図13・17.18）、カマド天井部の構築材として掛けられていたものと推測される。カマドの燃焼部からは、胴部下半を欠く土師器の甕（第23図16）が出土している。これらカマドの構築材に使用された甕の内部には、カマドと同質の粘土が充填されていた。

住居のほぼ中央、貯蔵穴の南側には、床下土壌が確認されている。中央の床下土壌は、直径1.42m、深さ34cmを測るほぼ円形で、断面タライ型を呈する。覆土は、ローム粒、ロームブロックを多量に含み、掘削後時間を置かず人為的に埋め戻されたものと推測される。

出土遺物は、土器を主体とし、覆土下層・床面直上から少量出土している。



第20図 第8号住居跡出土遺物



- 第9A・9C号住居跡A-A'・B-B' 土層説明**
- 1 黒褐色土 しまりやや強、粘性弱。ローム粒・焼土粒・炭化粒微量含。
  - 2 暗褐色土 しまり・粘性やや弱。ローム粒多、焼土・炭化粒少量含。
  - 3 暗褐色土 しまり・粘性やや弱。ローム粒・焼土・炭化粒少量含。
  - 4 暗褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒微量、焼土・炭化粒微量含。
  - 5 暗褐色土 しまり弱、粘性やや強。ローム粒・焼土粒・炭化粒少量含。
  - 6 暗黄褐色土 しまり・粘性やや弱。ローム粒少量、焼土・炭化粒微量含。
  - 7 暗茶褐色土 しまり・粘性弱。ローム粒微量、焼土・炭化粒多含。
  - 8 暗黄褐色土 しまり弱、粘性やや強。ローム粒多含。
  - 9 黒褐色土 しまり弱、粘性やや強。ローム粒微量、焼土・炭化粒少量含。
  - 10 暗黄褐色土 しまり・粘性やや弱。ローム粒多含。
  - 11 暗褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒多、焼土・炭化粒微量含。
  - 12 黄褐色土 しまり・粘性強。ローム粒多含。
  - 13 暗褐色土 しまり強、粘性やや弱。ローム粒少量、焼土・炭化粒微量含。
  - 14 暗褐色土 しまり・粘性やや弱。ローム粒多、焼土・炭化粒微量含。
  - 15 暗褐色土 しまり・粘性やや弱。ローム粒・焼土・炭化粒微量含。
  - 16 暗黄褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒・ロームブロック多含。粒子やや粗。

- 第9A号住居跡床下土壌C-C' 土層説明**
- 1 暗褐色土 しまり・粘性強。ローム粒・焼土・炭化粒少量含。
  - 2 暗褐色土 しまり・粘性強。ローム粒少量、炭化粒微量含。
  - 3 暗褐色土 しまり・粘性弱。ローム粒多、炭化粒・焼土微量含。
  - 4 暗黄褐色土 しまり・粘性強。ローム粒多、焼土・炭化粒少量含。
  - 5 黄褐色土 しまり・粘性強。ローム粒極多、焼土・炭化粒微量含。
  - 6 暗茶褐色土 しまり・粘性強。ローム粒少、焼土・炭化粒・粘土粒微量含。
- 第9A号住居跡貯蔵穴D-D' 土層説明**
- 1 黒褐色土 しまり・粘性強。ローム粒少、焼土・炭化粒微量含。
  - 2 黒褐色土 しまり・粘性弱。ローム粒・焼土・炭化粒微量含。
  - 3 黒褐色土 しまり・粘性強。ローム粒・焼土・炭化粒少量、粘土粒多含。
  - 4 暗褐色土 しまり・粘性強。ローム粒・焼土・炭化粒少、粘土粒多含。
  - 5 暗褐色土 しまり・粘性強。ローム粒・焼土・炭化粒微、粘土粒少量含。
  - 6 黒褐色土 しまり・粘性弱。焼土多含。
  - 7 黒褐色土 しまり弱、粘性やや弱。焼土・炭化粒多、粘土粒少量含。
  - 8 黒褐色土 しまり・粘性やや強。焼土・炭化粒・粘土粒少量含。
  - 9 暗黄褐色土 しまり・粘性強。黒色土少量、炭化粒・焼土微量含。

第21図 第9A・9C号住居跡

出土遺物（第 23・24 図・第 8 表・図版 13・14）

1～10 は、土師器の坏。1～3・5 は、小型の坏。7～10 は、内面に放射状の暗文を施している。11・12 は、土師器の鉢。13～20 は、土師器の甕。13～15・17・18 は、カマドの構築材として再利用されていた。21・22 は、土師器の甑。

23・24 は、編み物石と判断した。細長い自然礫で、使用痕は確認されない。25 は、板状の鉄製品。本遺構は、遺物の様相から古墳時代後期後半に属すると思われる。

9 B号住居跡（第 25 図・図版 5）

調査区の南西、U・V-11・12 グリッドに位置する。北側を第 10 号住居跡、南側を第 9 A号住居跡に切れ、東側を第 9 C・9 D号住居跡と重複する。

住居プランは、北・東・南壁が住居重複のため確認されず、西壁の一部が確認されるに過ぎないため、不明。掘り込みは、西壁で 20 cm を測る。床はほぼ平坦で直床である。

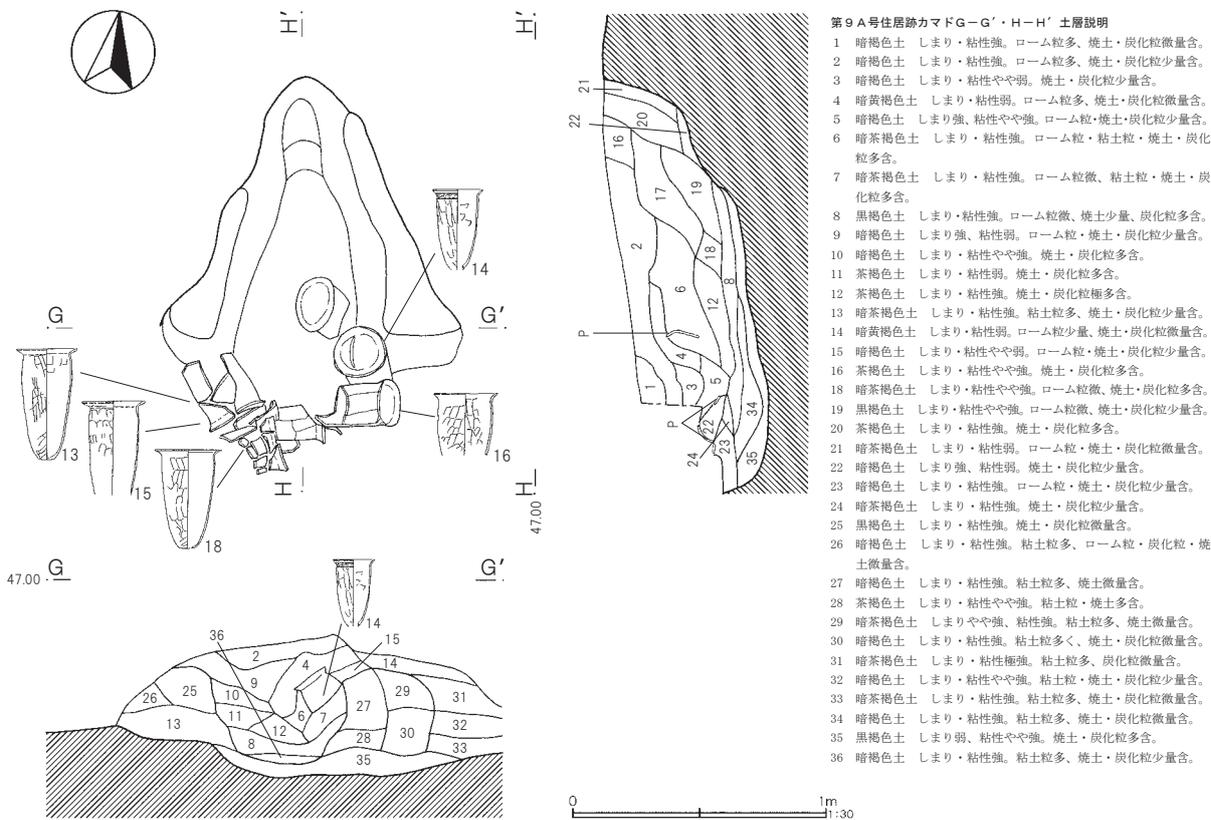
カマドは確認されていない。

ピットは、23 基確認されているが、柱穴と考えられるピットは検出されていない。

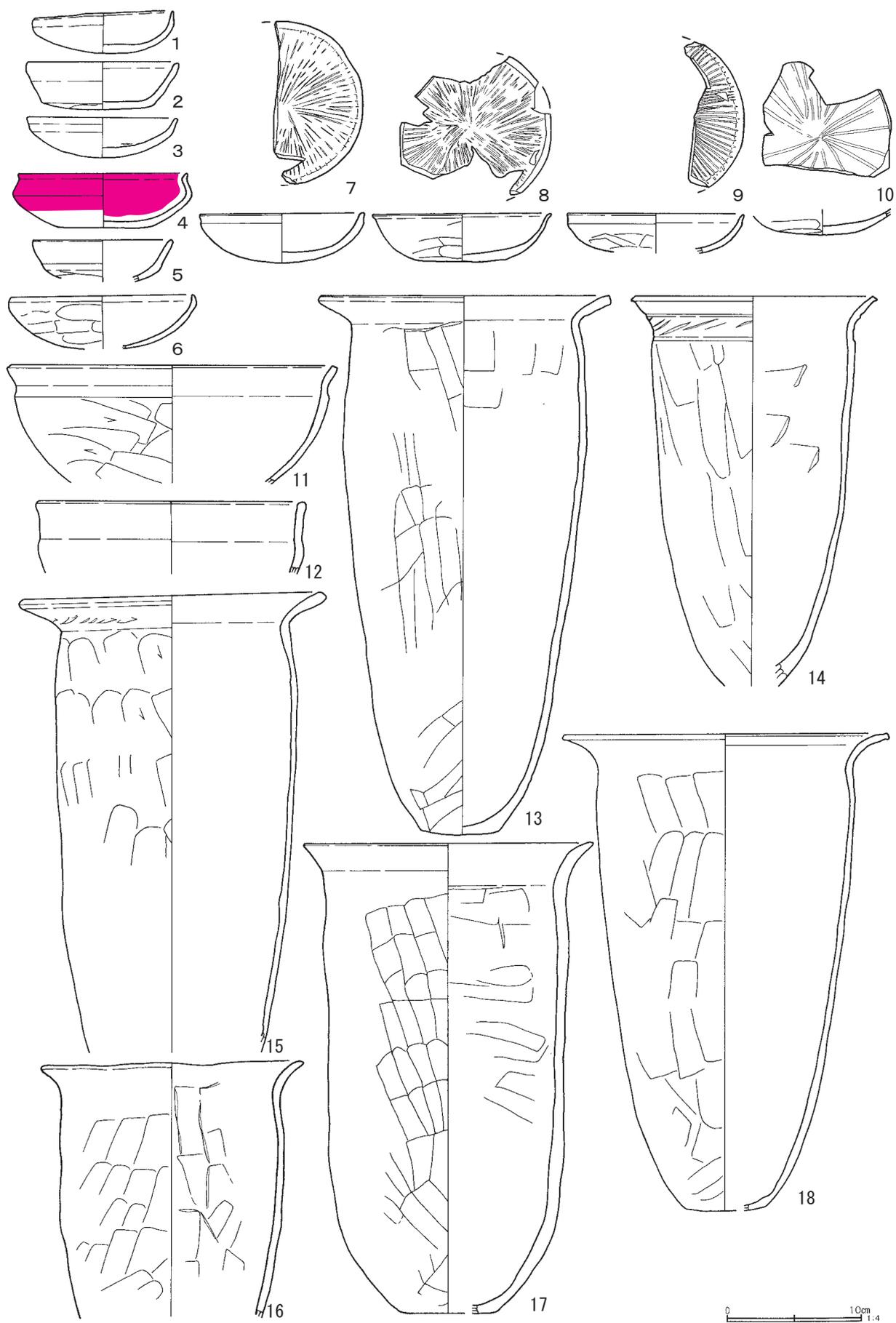
出土遺物は、土器を主体とし、覆土下層・床面直上から少量出土している。

出土遺物（第 26 図・第 9 表・図版 15）

1～4 は、土師器の坏。4 は黒色土器で、口縁部が直立し深い器形を呈している。5 は、土師器の蓋。6 は、土師器の高坏。7 は、土師器の鉢。8～11 は、土師器の甕。12 は、瓦質土器の小片。直径 3 mm



第 22 図 第 9 A号住居跡カマド



第23图 第9A号住居跡出土遺物(1)

程の孔が、内面から、焼成前に穿たれている。表面は面取りがなされており、中世の香炉の可能性はある。13は、編み物石と判断した。細長い自然礫で、使用痕は確認されない。

本遺構は、遺物の様相から古墳時代後期後半に属すると思われる。

#### 第9C号住居跡（第21図・図版4）

調査区の南西、V-12グリットに位置する。西側を第9A号住居跡、北側を第9D号住居跡に切られており、第9B号住居跡と重複する。

住居プランは、西・北壁が住居重複のため確認されないが、長方形を呈するものと推測される。掘り込みは、東壁で24cm、南壁で22cmを測る。床はほぼ平坦で直床である。西側に壁溝が掘られている。

カマドは確認されていない。

ピットは、3基確認されているが、柱穴と考えられるピットは検出されていない。

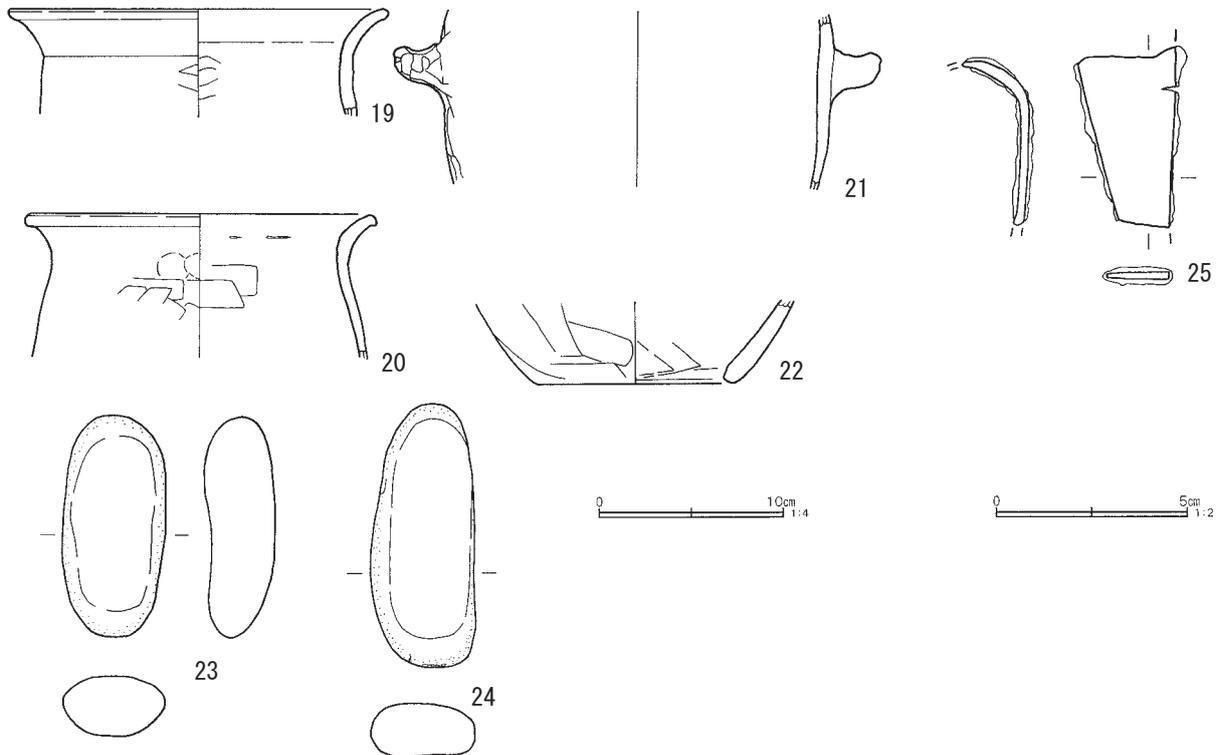
出土遺物は、土器を主体とし、覆土下層・床面直上から少量出土している。

#### 出土遺物（第28・29図・第10表・図版15・16）

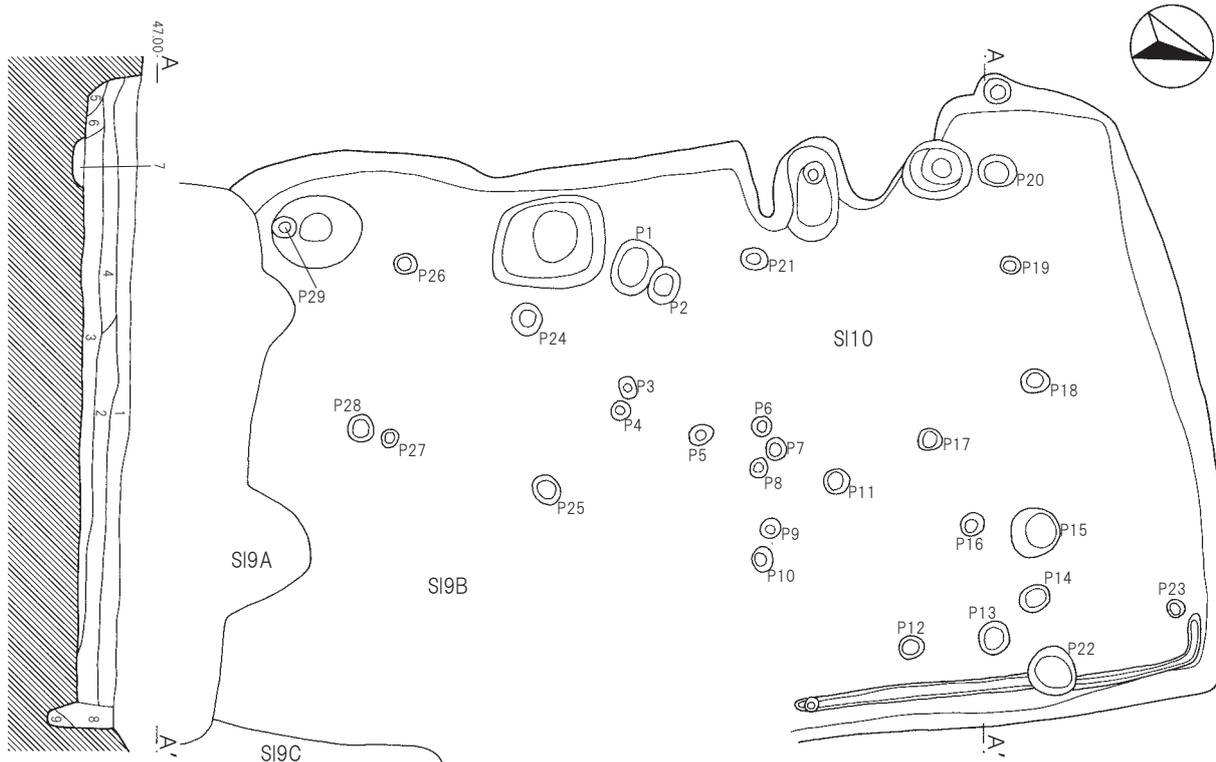
1～5は、土師器の坏。2・5は、内面に放射状の暗文を施している。6・7は、須恵器の蓋。8は、土師器の小型鉢。9～14は、土師器の甕。15・16は、須恵器の甕。17・18は、土師器の壺。19は、須恵器の壺。

20～22は、編み物石と判断した。細長い自然礫で、使用痕は確認されない。

本遺構は、遺物の様相から古墳時代後期後半に属すると思われる。



第24図 第9A号住居跡出土遺物（2）



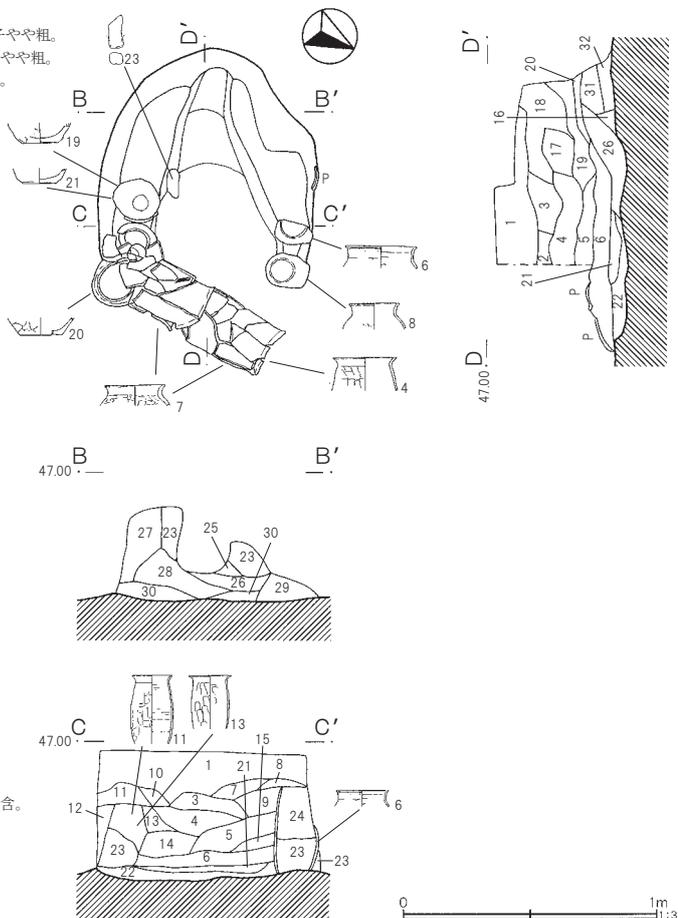
第10号住居跡A-A' 土層説明

- 1 明茶褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒・焼土粒微量含。粒子やや粗。
- 2 暗褐色土 しまり・粘性やや強。焼土・炭化粒微量含。粒子やや粗。
- 3 茶褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒・焼土粒微量含。粒子やや粗。
- 4 暗褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒微量含。粒子粗。
- 5 暗黄褐色土 しまり・粘性やや強い。ローム粒・ロームブロック少量含。粒子やや粗。
- 6 黒褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒・炭化粒・焼土粒微量含。粒子やや粗。
- 7 黄褐色土 しまり・粘性強。ローム粒・ロームブロック多含。粒子やや粗。
- 8 茶褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒多含。粒子やや細。
- 9 暗茶褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒多含、粒子やや粗。



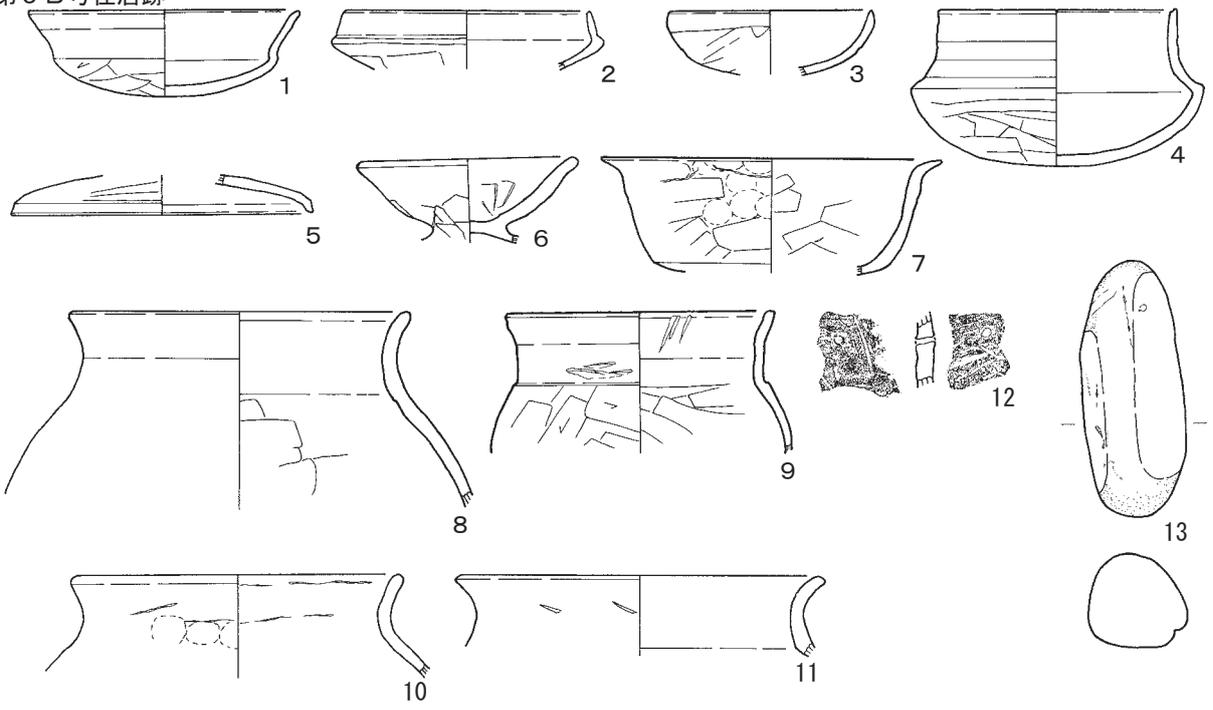
第10号住居跡カマドB-B'・C-C'・D-D' 土層説明

- 1 暗褐色土 しまり・粘性やや弱。ローム粒・焼土粒・炭化粒微量含。
- 2 暗褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒・炭化粒微量含。
- 3 暗茶褐色土 しまり・粘性強。ローム粒・炭化粒微量含。
- 4 暗褐色土 しまり・粘性やや弱。ローム粒・焼土粒・炭化粒微量含。
- 5 暗褐色土 しまり・粘性やや弱。ローム粒・僧度粒。炭化粒微量含。
- 6 茶褐色土 しまり・粘性強。ローム粒微量、焼土粒・炭化粒多含。
- 7 暗褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒多、炭化粒微量含。
- 8 暗褐色土 しまり強、粘性弱。ローム粒・炭化粒・焼土粒少量含。
- 9 暗褐色土 しまり強、粘性弱。ローム粒多、焼土・炭化粒少量含。
- 10 暗褐色土 しまり強、粘性弱。ローム粒・炭化粒少量、焼土粒微量含。
- 11 暗褐色土 しまり・粘性弱。ローム粒・炭化粒少量含。
- 12 暗褐色土 しまり・粘性弱。ローム粒・炭化粒・焼土粒少量含。
- 13 暗褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒・焼土粒・炭化粒少量含。
- 14 暗褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒・焼土粒・炭化粒やや多含。
- 15 暗褐色土 しまり強、粘性やや強。ローム粒・焼土粒・炭化粒少量含。
- 16 暗褐色土 しまり強、粘性やや強。焼土粒・炭化粒少量含。
- 17 暗褐色土 しまり・粘性やや強。焼土・炭化粒少量含。
- 18 茶褐色土 しまり強、粘性やや弱い。焼土粒多、炭化粒少量含。
- 19 暗褐色土 しまり・粘性強。ローム粒微量、焼土粒・炭化粒少量含。
- 20 暗黄褐色土 しまり・粘性強。ローム粒多、焼土粒・炭化粒微量含。
- 21 茶褐色土 しまり・粘性弱。焼土粒・炭化粒多量含。火床面。
- 22 黄褐色土 しまり・粘性強。ロームブロック多、焼土粒・炭化粒少量含。
- 23 暗茶褐色土 しまり・粘性強。焼土粒・炭化粒少量含。
- 24 暗褐色土 しまり・粘性弱。ローム粒多、焼土粒・炭化粒少量含。
- 25 暗褐色土 しまり強、粘性やや弱。ローム粒多、焼土粒・炭化粒微量含。
- 26 暗褐色土 しまり・粘性やや弱。ローム粒・炭化粒・焼土粒微量含。
- 27 暗褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒多、炭化粒微量含。
- 28 暗黄褐色土 しまり強く、粘性やや強。ローム粒多、焼土粒・炭化粒微量含。
- 29 暗褐色土 しまり・粘性弱。ローム粒多、焼土・炭化粒微量含。
- 30 黒褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒・焼土粒・炭化粒微量含。
- 31 暗褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒少量、焼土粒微量含。
- 32 黒褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒少量、炭化粒微量含。

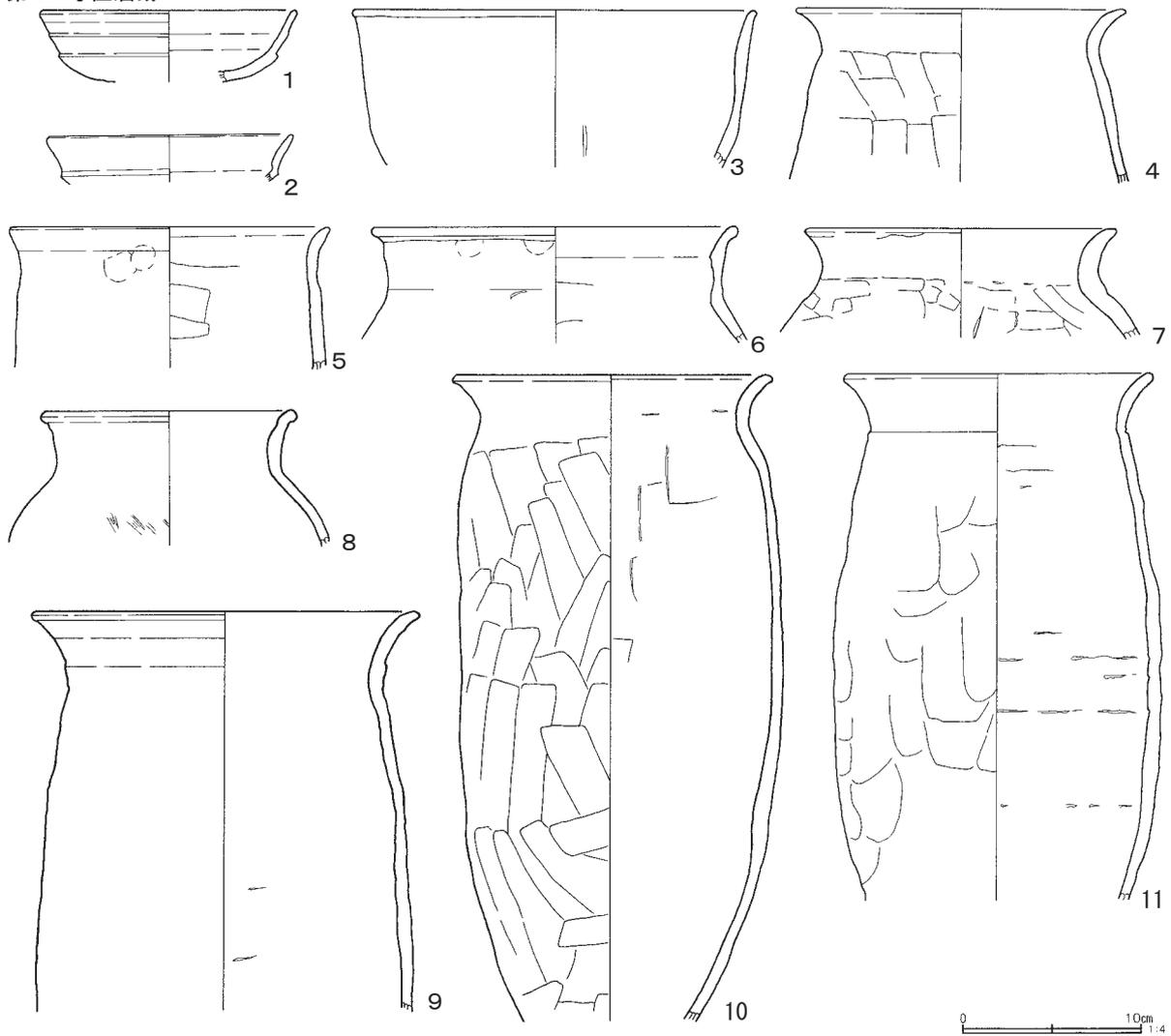


第25図 第9B・10号住居跡・第10号住居跡カマド

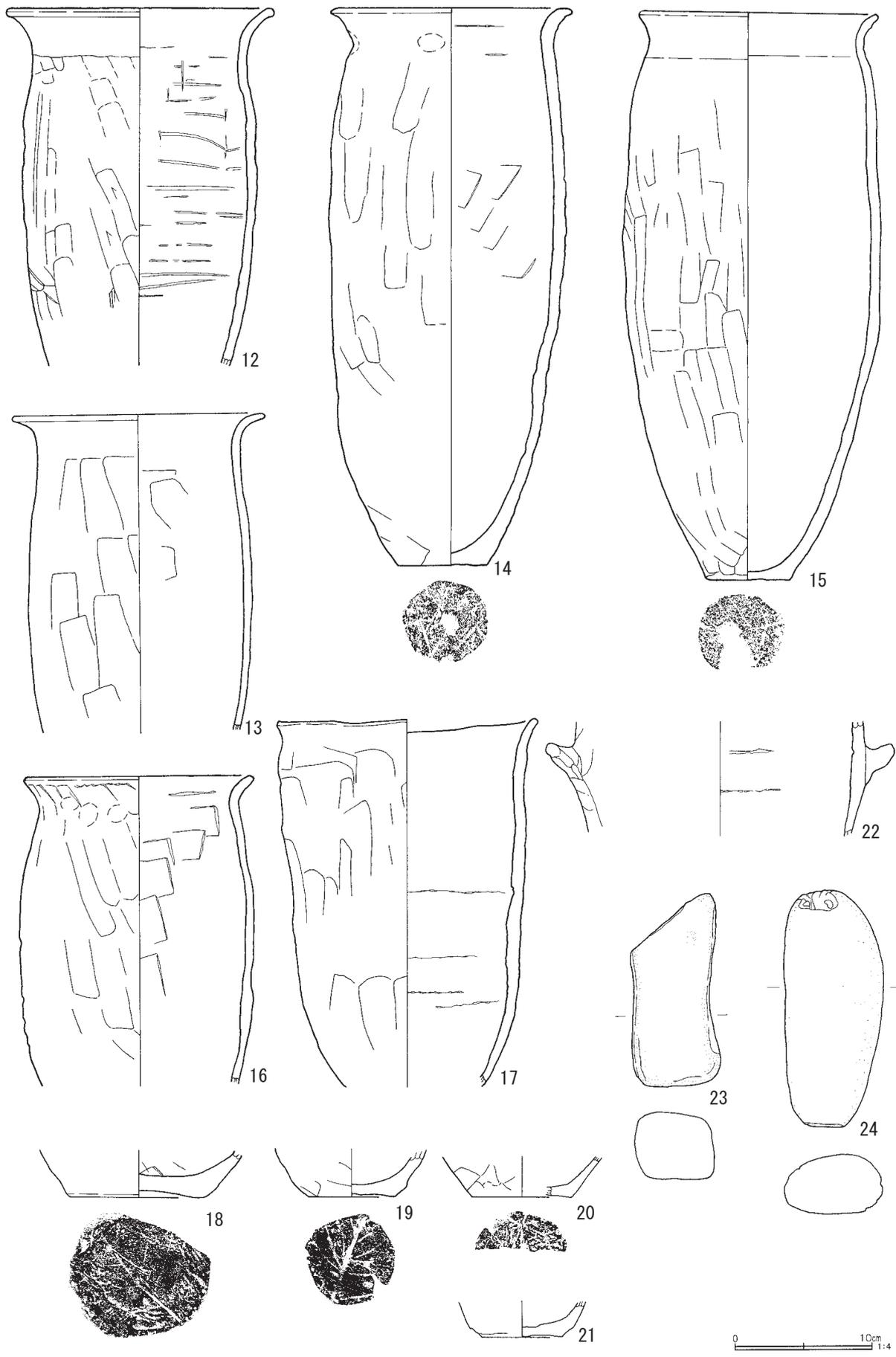
第9B号住居跡



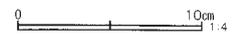
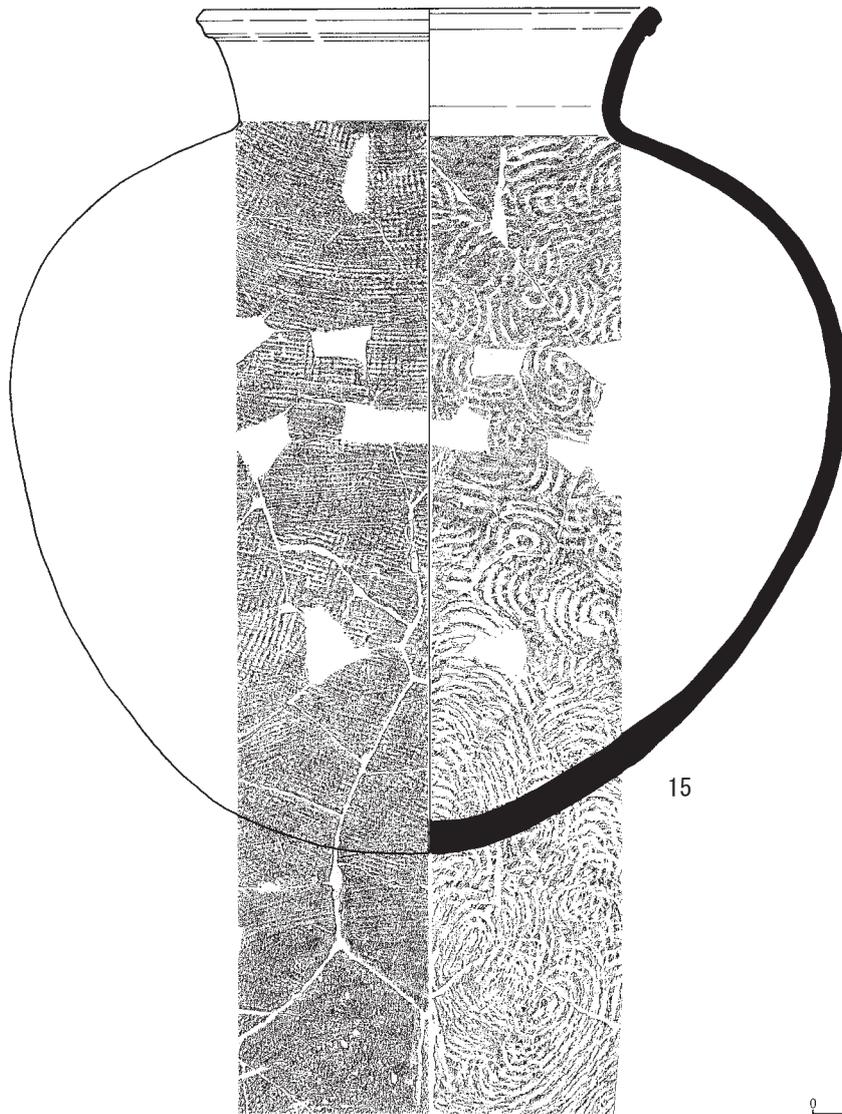
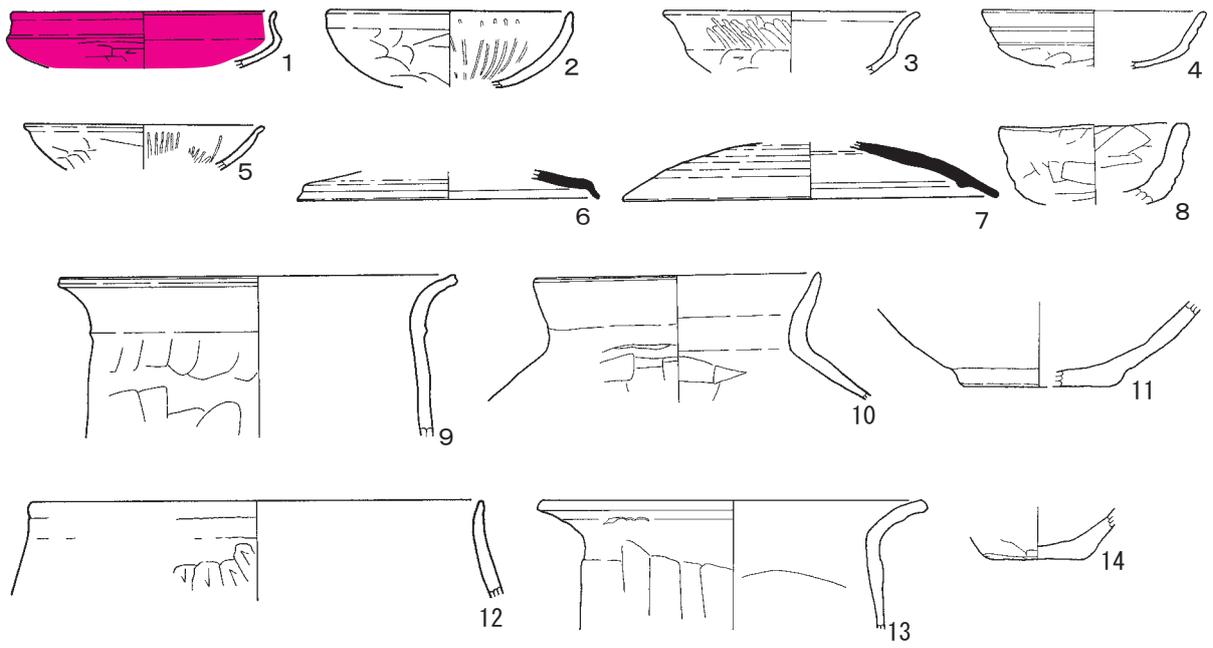
第10号住居跡



第26图 第9B・10号住居跡出土遺物(1)



第 27 图 第 10 号住居跡出土遺物 (2)



第 28 图 第 9 C 号住居跡出土遺物 (1)

### 第9D号住居跡（第30図・図版5）

調査区の南西、U-12・13グリットに位置する。東側は第17B号住居跡を切って構築しており、南側は第9C号住居、西側は第9B号住居跡と重複している。

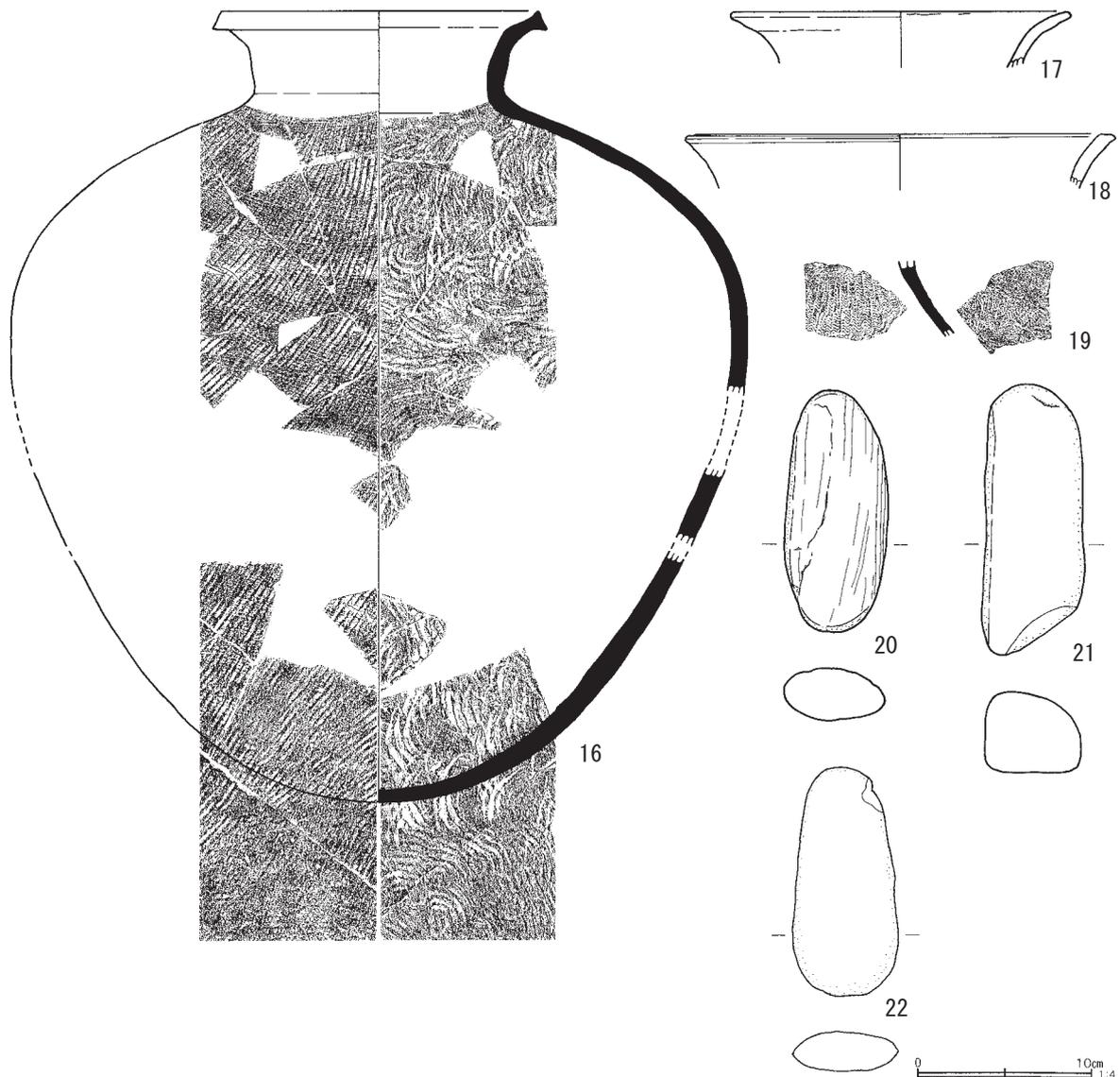
住居プランは、南・東壁が住居重複のため確認されないが、長方形を呈するものと推測される。掘り込みは、西壁で37cm、北壁で41cmを測る。床はほぼ平坦で直床である。南・東側に壁溝が掘られている。

床面には、不定形の大型の床下土壌や、円形の床下土壌が多数掘られている。

ピットは9基確認されているが、柱穴と考えられるピットは検出されていない。南側と東側の一部に、壁溝が掘られている。

カマドは東壁中央に位置し、カマド袖は一部地山を掘り残し、粘土を被せて構築している。カマド両袖の先端部には、土師器の甕が、伏せた状態で、カマドの構築材として再利用されていた。燃焼部は、住居内に位置させ、カマドの天井が一部残存している。

出土遺物は、土器を主体とし、覆土下層・床面直上から僅かに出土している。



第29図 第9C号住居跡出土遺物（2）

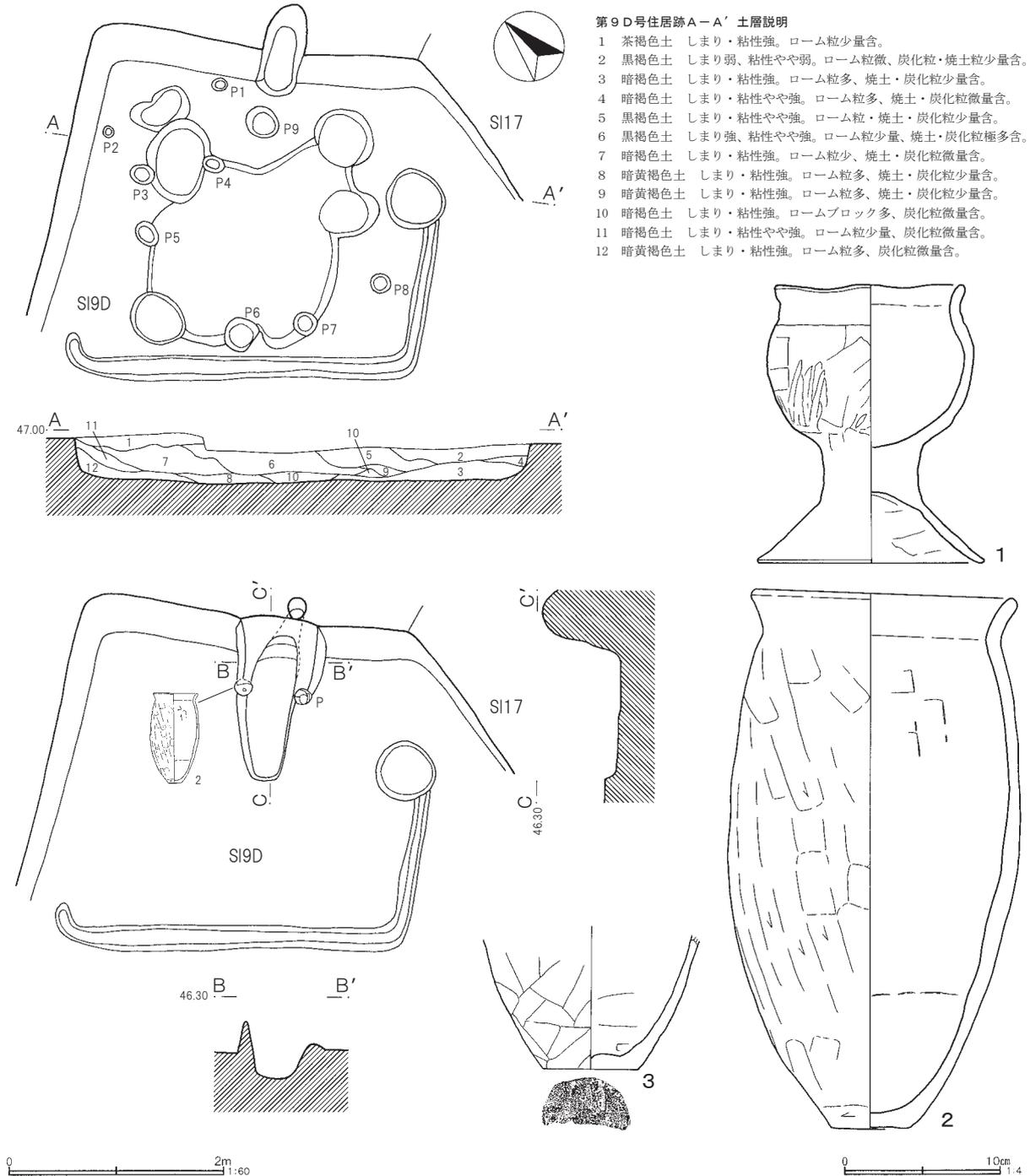
出土遺物（第30図・第11表・図版16）

1は、土師器の高坏。2は、土師器甕の胴部下半。

本遺構は、遺物の様相から古墳時代後期後半に属すると思われる。

第10号住居跡（第25図・図版5）

調査区の南西、U・V-11・12グリットに位置する。南側が第9B号住居跡を切って構築されている。住居プランは長方形を呈し、長軸4.82mで、西壁にカマドを備える。主軸は、N-122°-Eの方位を



第30図 第9D号住居跡・カマド・出土遺物

持つ。壁の掘り込みは、北壁で46 cm、東壁で46 cm、西壁で36 cmを測る。床はほぼ平坦で直床である。東側に、壁溝が掘られている。

カマドは、西壁に位置し、地山を一部掘り残し、粘土を被せて構築している。袖先端には、左袖に土師器甕3個体（第26図9・第27図12・14）、右袖に土師器甕2個体（第26図11・第27図15）を伏せて置いた後、粘土を被せて袖を作っている。左側の袖に比べ、右側の袖が短いことから、本来は右袖にも3個体の土器が埋め込まれていた可能性がある。カマドの先端には、土師器の甕2個体が入子状態で横位に出土しており（第26図10・第27図13）、カマド天井部の構築材として掛けられていたものと推測される。

ピットは2基確認されている。P 2・14・19が主柱穴と思われる。深さは、P 2 : 46 cm、P 14 : 15 cm、P 19 : 31 cmを測る。間隔は、P 2 - P 19 間 : 2.75m、P 14 - P 19 間 : 2.65mを測る。

出土遺物は、土器を主体とし、覆土下層・床面直上から出土している。また燃焼部から、編み物石1点（第27図23）が出土している。

#### 出土遺物（第26・27図・第12表・図版16～18）

1・2は、土師器の坏。3は、土師器の土師器の鉢。4～21は、土師器の甕。9・12・14は、カマド左袖の構築材として、11・15は、カマド右袖の構築材として、10・13はカマド天井の構築材として再利用されていた。14・15・18～20は、底部に木葉痕を残す。22は、土師器の甕。

23・24は、編み物石と判断した。細長い自然礫で、使用痕は確認されない。

本遺構は、遺物の様相から古墳時代後期後半に属すると思われる。

#### 第11 A号住居跡（第31図・図版5・6）

調査区の南端やや東寄り、V・W-14・15グリットに位置する。東側の第11 B号住居跡を切って構築されている。第1号掘立て柱建物跡（SB1-2・3・4・5）と重複する。

住居プランは方形を呈し、3.72 m×3.70 mで、東壁にカマドを備える。主軸は、N-67°-Wの方位を持つ。壁の掘り込みは、北壁で32 cm、東壁で23 cm、西壁で23 cm、南壁で24 cmを測る。床はほぼ平坦で直床である。

カマドは、東壁に位置し、一部地山を掘り残し、粘土で構築されている。燃焼部は、住居内に位置する。

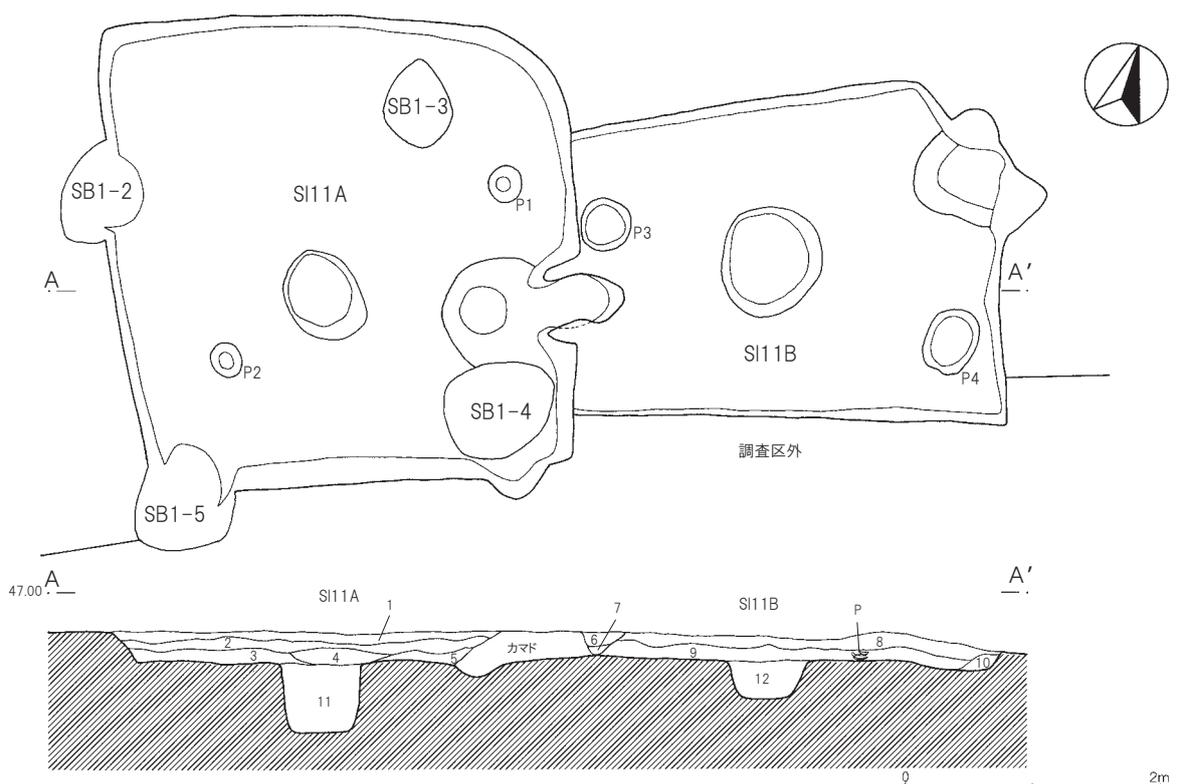
プラン中央に床下土壙が1基確認されている。長径75 cm、深さ57 cmを測る楕円形で、断面はタライ型を呈する。覆土は、ローム粒、ロームブロックを多量に含み、掘削後時間を置かず人為的に埋め戻されたものと推測される。

ピットは2基確認されている。深さは、P 1 : 39 cm、P 2 : 57 cmを測る。

出土遺物は、土器を主体とし、覆土下層・床面直上から少量出土している。床面直上から出土した須恵器甕の破片の上からは、種子8点が出土している（図版16）。樹種同定の結果、イシミカワと同定されている。

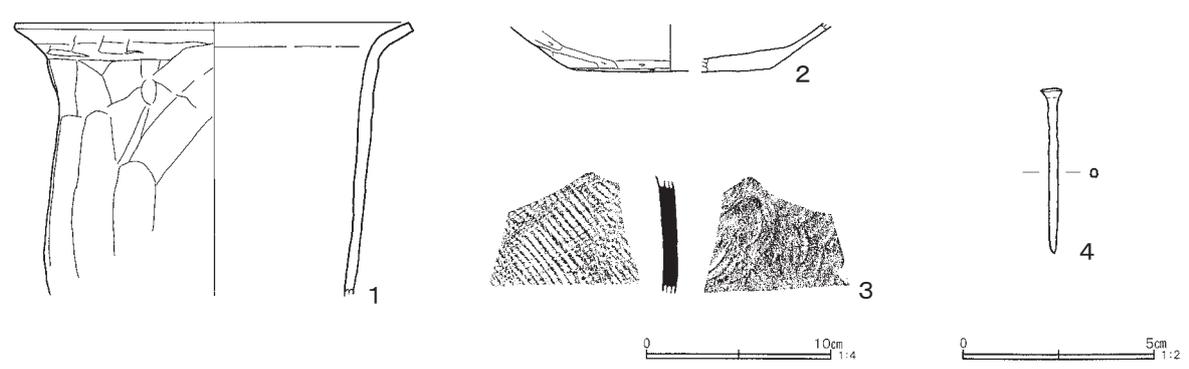
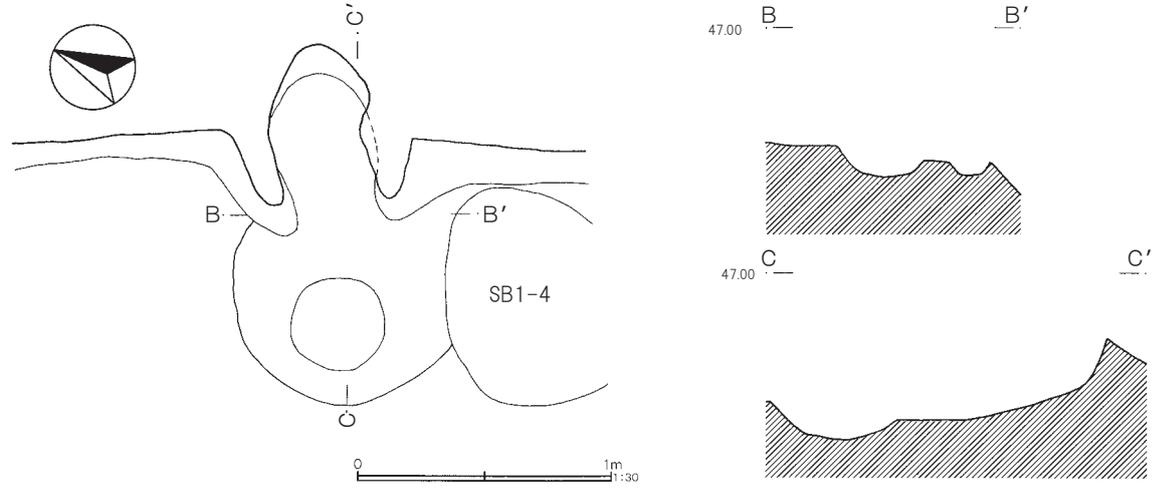
#### 出土遺物（第31図・第13表・図版18）

1・2は、土師器の甕。3は、須恵器の甕。

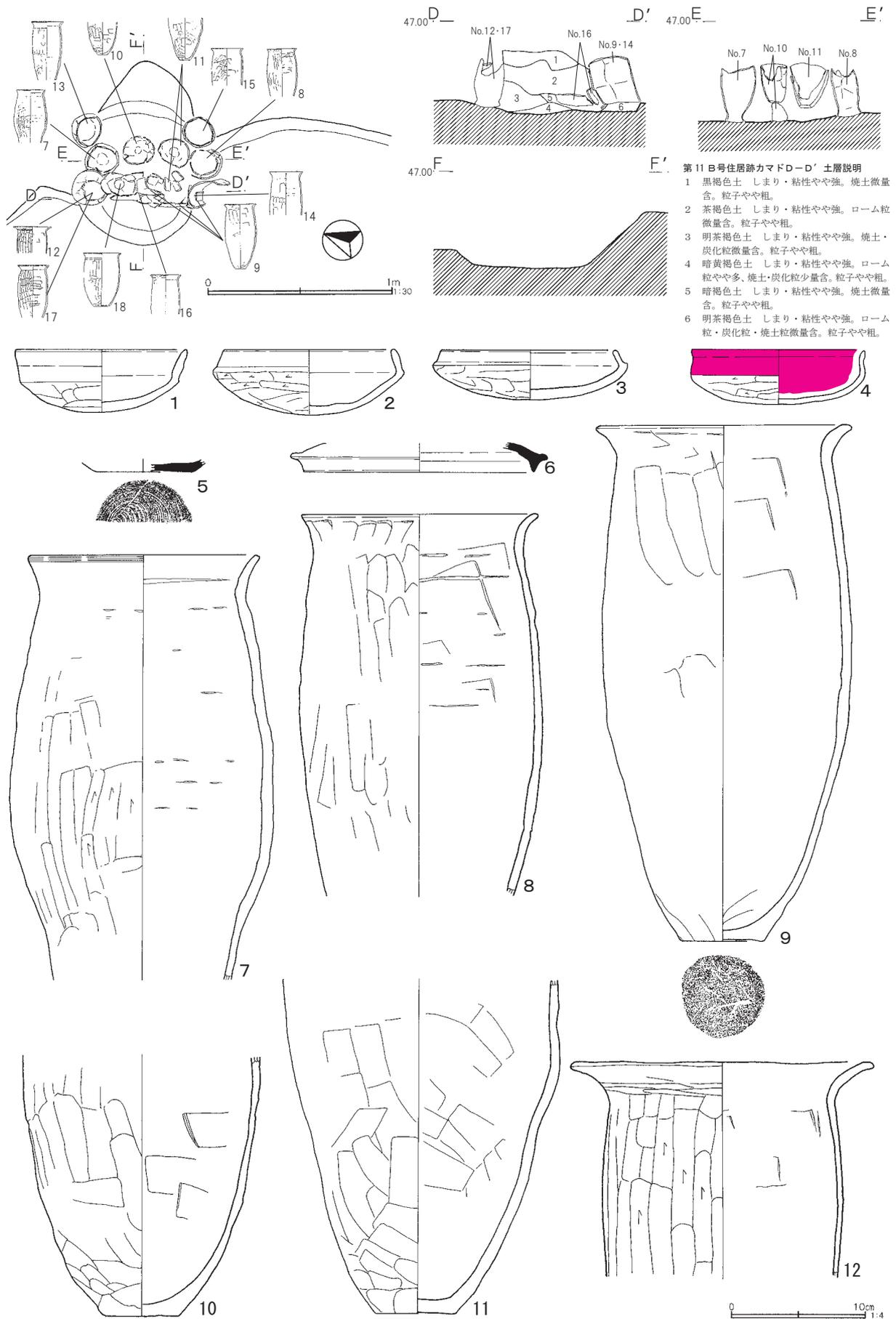


第11 A・11 B号住居跡A-A' 土層説明

- |         |                                 |          |                                   |
|---------|---------------------------------|----------|-----------------------------------|
| 1 黄茶褐色土 | しまりやや強、粘性やや弱。焼土粒微量含。粒子やや細。      | 7 明黄茶褐色土 | しまり・粘性やや弱。焼土・炭化粒やや多含。粒子やや粗。       |
| 2 黄茶褐色土 | しまり・粘性やや強。焼土・炭化粒微量含。粒子やや粗。      | 8 明黄褐色土  | しまり・粘性やや弱。ローム粒少量含。粒子やや細。          |
| 3 暗黄褐色土 | しまり・粘性やや強。ローム粒少量含。粒子やや粗。        | 9 暗黄褐色土  | しまり・粘性やや強。ローム粒やや多含。粒子やや細。         |
| 4 茶褐色土  | しまり・粘性やや強。ローム粒・焼土・炭化粒微量含。粒子やや粗。 | 10 茶褐色土  | しまり・粘性やや強。ローム粒やや多、焼土粒微量含。粒子やや粗。   |
| 5 茶褐色土  | しまり・粘性やや強。焼土・炭化粒少量含。粒子やや粗。      | 11 暗黄褐色土 | しまり・粘性強。ローム粒・ロームブロック多含。粒子粗。       |
| 6 明黄褐色土 | しまり・粘性やや強。焼土やや多含。粒子やや細。         | 12 暗黄褐色土 | しまり・粘性強。ローム粒・ロームブロック多。炭化粒微量含・粒子粗。 |



第31図 第11 A・11 B号住居跡・第11 A号住居跡カマド・出土遺物



第32図 第11 B号住居跡カマド・第11 B号住居跡出土遺物(1)

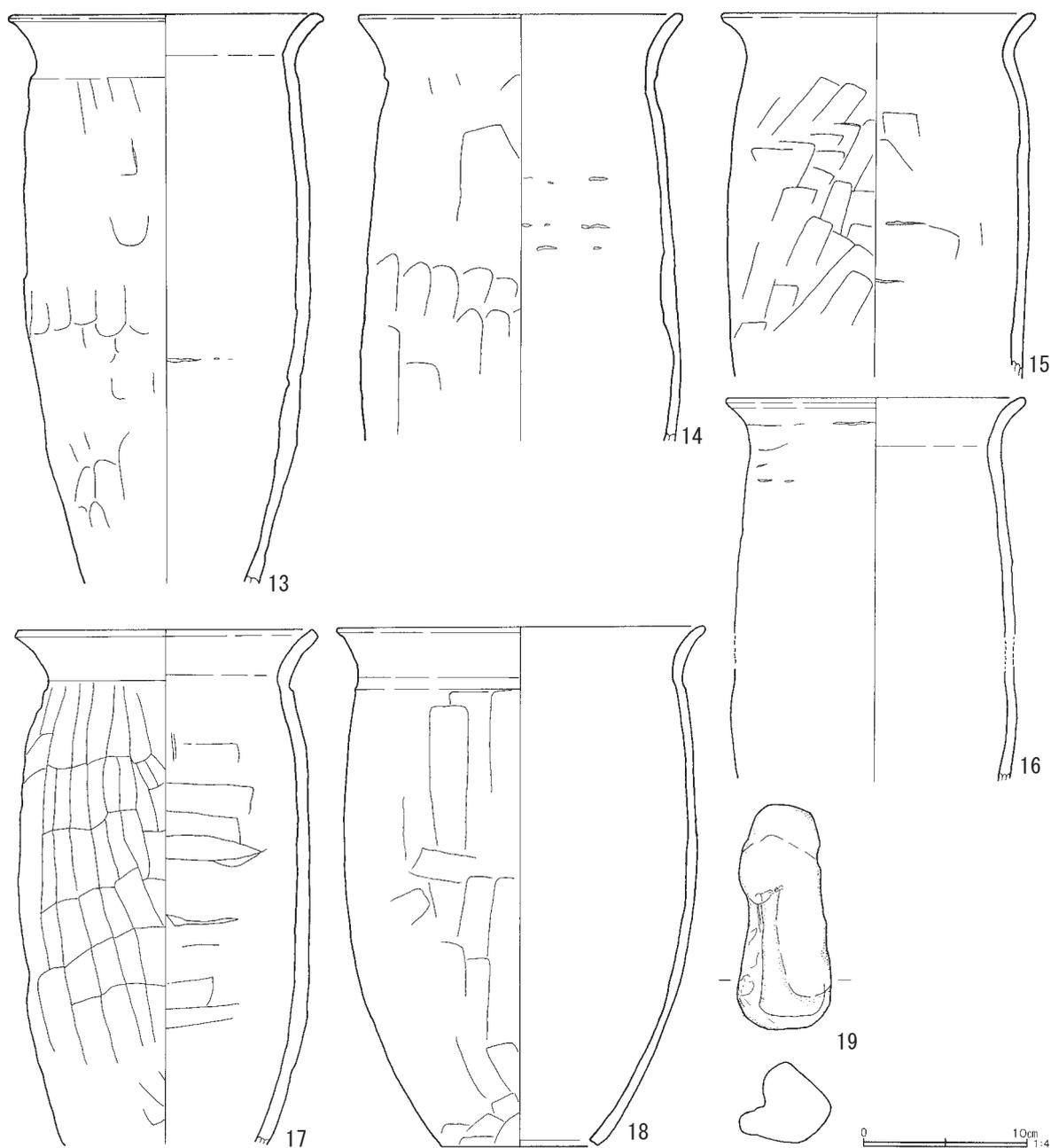
4は、小型の鉄製釘。断面四角形で。頭部の軸部は潰されて太くなっている。

本遺構は、遺物の様相から古墳時代後期後半に属すると思われる。

#### 第11 B号住居跡（第31・32図・図版6）

調査区の南端やや東寄り、V・W-15・16グリットに位置する。プラン西側を第11 A号住居跡に切られている。住居プランは長方形を呈し、(3.35) m×2.64 mで、東壁にカマドを備える。主軸は、N-66°-Eの方位を持つ。壁の掘り込みは、北壁で21 cm、東壁で13 cm、南壁で16 cmを測る。床はほぼ平坦で直床である。

カマドは東壁に位置し、地山を掘り込み、土師器の甕を構築材として粘土を被せて袖部を構築してい



第33図 第11 B号住居跡出土遺物（2）

る。カマド左袖に3個体（第32図7・第33図13・17）、カマド右袖に3個体（第32図8・第33図14・15）、カマドの先端には、土師器の甕2個体が入子状態で横位に出土しており（第32図9・第33図16）、カマド天井部の構築材として掛けられていたものと推測される。また、カマド燃焼部には、土師器の甕3個体が出土している。第32図10・11は並んだ状態で正位に出土しており、10の土器は、支脚に載せられた状態で出土している。第33図18は、逆位で、燃焼部内に置かれた状態で出土している。

カマド右側には、貯蔵穴が1基確認されている。長径52cm、深さ31cmを測り、完形の土師器坏（第32図1）が覆土中より出土している。

プラン中央に床下土壌が1基確認されている。長径87cm、深さ49cmを測る楕円形で、断面タライ型を呈する。覆土は、ローム粒、ロームブロックを多量に含み、掘削後時間を置かず人為的に埋め戻されたものと推測される。

ピットは確認されていない。

出土遺物は、土器を主体とし、カマド・貯蔵穴内、覆土下層・床面直上から出土している。

#### 出土遺物（第32・33図・第14表・図版18～20）

1～4は、土師器の坏。1は完形で、貯蔵穴の覆土中より出土している。4は完形で、内外面に赤彩が施されている。5は、須恵器の坏。6は、須恵器の蓋。7～17は、土師器の甕。7・13・17はカマドの左袖、8・14・15はカマド右袖、9・16はカマドの天井部に構築材として再利用されたものである。9は、底部に木葉痕を残す。10・11は胴部下半のみ残存するが、カマド燃焼部に正位で、18は、カマド燃焼部に逆位で置かれた状態で出土した。

19は、編み物石と判断した。細長い自然礫で、使用痕は確認されない。

本遺構は、遺物の様相から古墳時代後期後半に属すると思われる。

#### 第12A号住居跡（第34図・図版6・7）

調査区の南中央、U・V-14グリットに位置する。プランの南2/3は攪乱により失われている。北側は第12B号住居跡を切って構築されている。西側は第17A号住居跡と重複している。住居プランは長方形を呈し、(2.65)m×3.38mで、北壁中央にカマドを備える。主軸は、N-23°-Eの方位を持つ。壁の掘り込みは、北壁で17cmを測る。床はほぼ平坦で直床である。

カマドは、北壁中央に位置し、粘土で構築している。右袖先端は、攪乱を受けて欠損している。煙道の天井部が残存している。燃焼部は住居内に位置し、煙道は、燃焼部から段差を持って30cm程立ち上がった後、約82°の角度で立ち上がっている。

カマド左脇に、貯蔵穴が1基確認されている。長径92cm、深さ32cmを測る、楕円形を呈する。

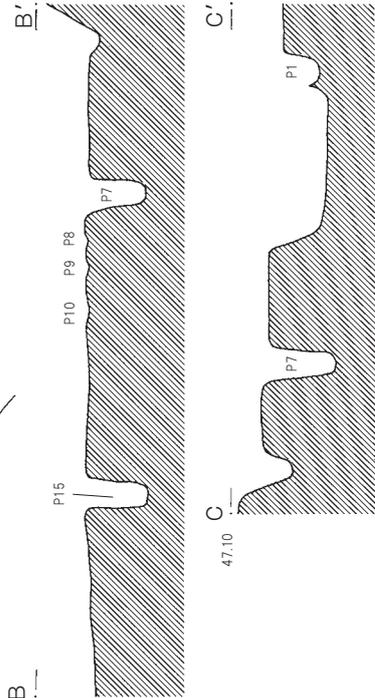
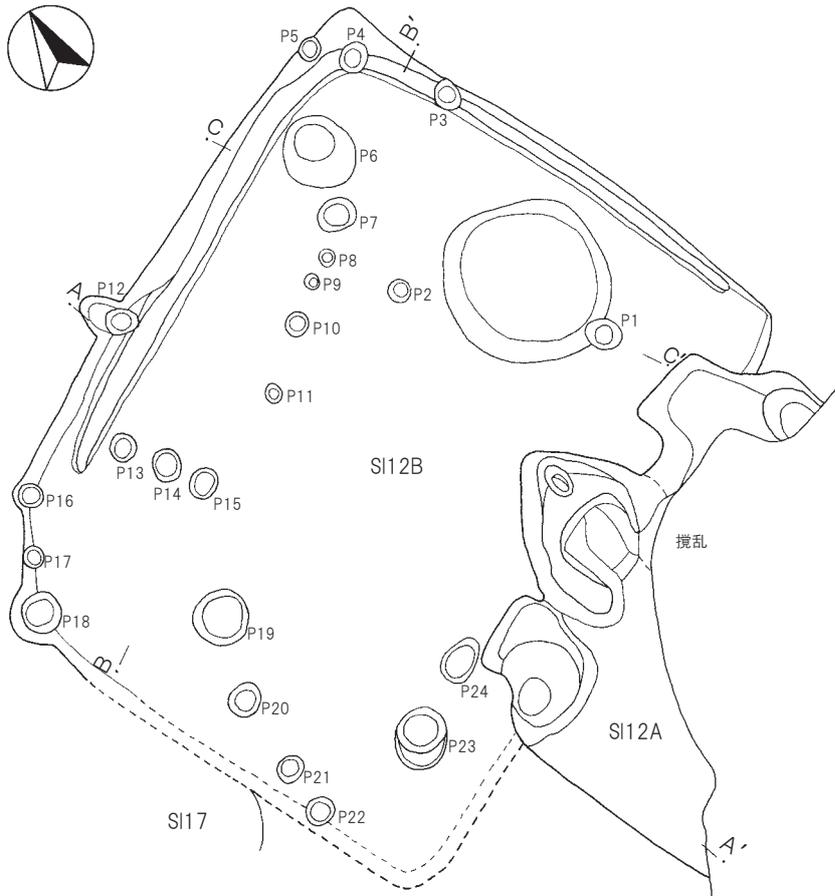
ピットの有無は、攪乱のため確認できない。

出土遺物は、土器を主体とし、覆土下層から僅かに小片が出土しているにすぎない。

#### 出土遺物（第35図・第15表・図版20）

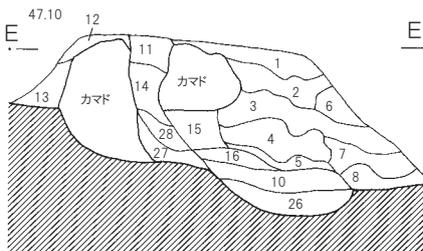
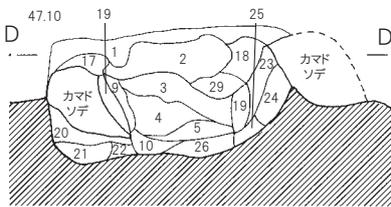
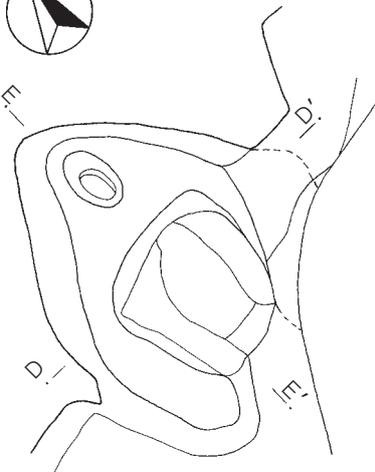
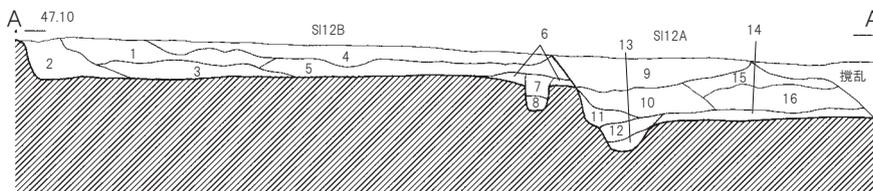
1は、土師器の甕。口縁から頸部の一部のみ残存する。

本遺構は、遺物の様相から古墳時代後期後半に属すると思われる。



第12A・12B号住居跡A-A' 土層説明

- 1 黒茶褐色土 しまり・粘性やや弱。ローム粒少量含。粒子粗。
- 2 黄褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒多含。粒子粗。
- 3 茶褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒少量含。粒子粗。
- 4 褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒少量含。粒子やや粗。
- 5 暗黄褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒やや多含。粒子やや粗。
- 6 黄褐色土 しまり強。粘性やや弱。粘床。ローム・ロームブロック多含。粒子粗。
- 7 明褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒少量含。粒子やや粗。
- 8 黄褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒・ロームブロック多含。粒子やや粗。
- 9 褐色土 しまり・粘性強。粘土粒やや多。焼土・炭化粒微量含。粒子やや粗。
- 10 茶褐色土 しまり・粘性強。粘土粒少量。焼土・炭化粒微量含。粒子やや粗。
- 11 黄褐色土 しまり・粘性強。ローム粒多含。粒子粗。
- 12 暗褐色土 しまり・粘性強。ローム粒微量含。粒子粗。
- 13 暗黄褐色土 しまり・粘性強。ローム粒やや多含。粒子粗。
- 14 暗黄褐色土 しまり・粘性強。ローム・ロームブロック多含。粘床。
- 15 茶褐色土 しまり・粘性やや強。焼土・炭化粒微量含。粒子やや粗。
- 16 茶褐色土 しまり・粘性強。焼土・炭化粒微量含。粒子やや粗。

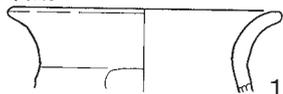


第12A号住居跡カマドD-D'・E-E' 土層説明

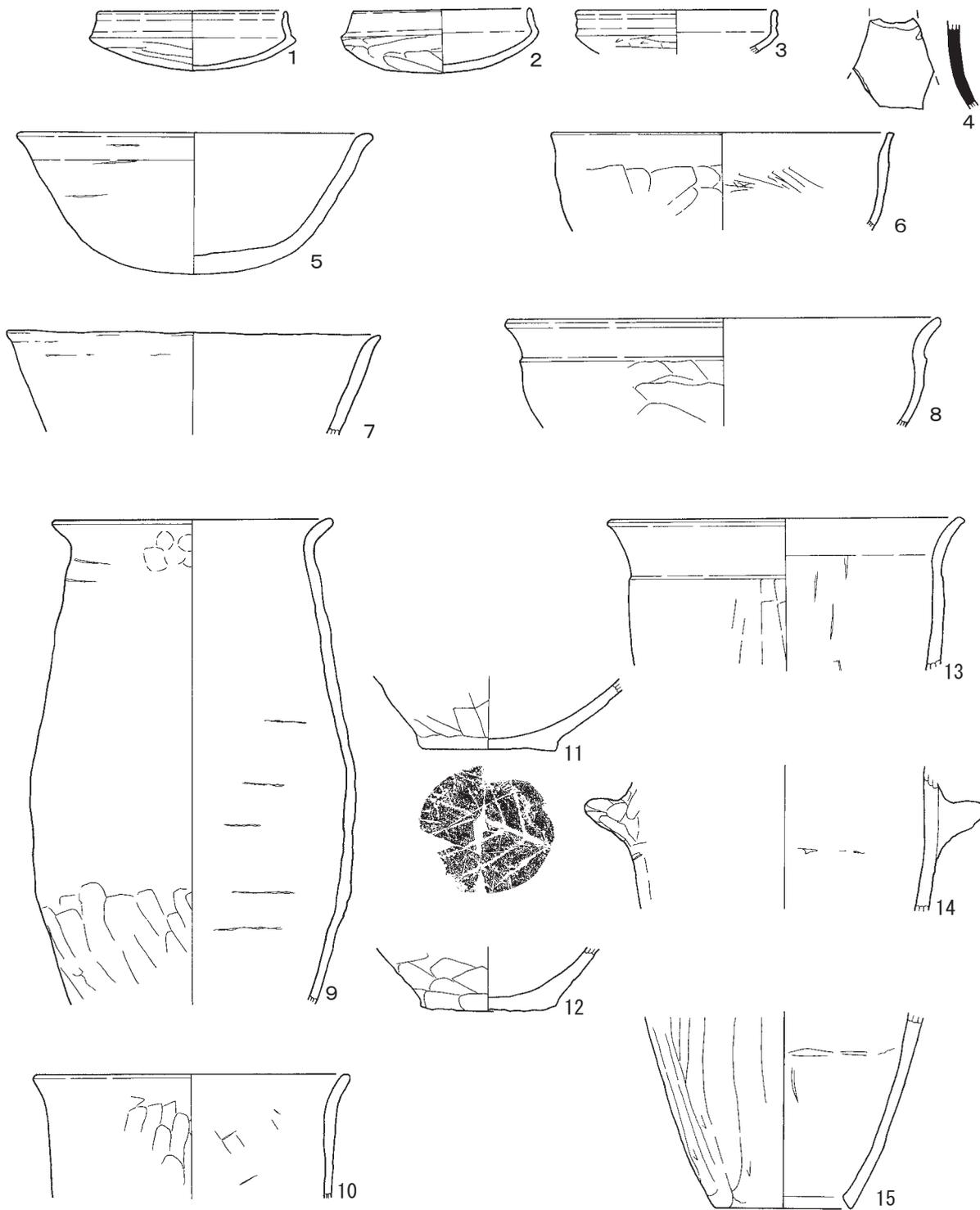
- 1 茶褐色土 しまり・粘性やや弱。焼土・炭化粒微量含。粒子粗。
- 2 灰褐色土 しまり・粘性強。粘土多。焼土・炭化粒微量含。粒子やや粗。
- 3 褐色土 しまり・粘性やや強。粘土・焼土・炭化粒少量含。粒子やや粗。
- 4 暗黄褐色土 しまり・粘性強。粘土・焼土・炭化粒少量含。粒子粗。
- 5 赤褐色焼土層
- 6 明茶褐色土 しまり・粘性やや強。ローム・焼土・炭化粒微量含。粒子やや粗。
- 7 黄褐色土 しまり・粘性やや強。焼土やや多。炭化粒・ローム粒微量含。粒子やや粗。
- 8 黒色土 しまり・粘性やや強。炭化粒多。焼土微量含。粒子やや粗。
- 9 赤褐色焼土層
- 10 黒褐色土 しまり・粘性やや弱。炭化粒極多。焼土少量含。粒子やや粗。
- 11 明茶褐色土 しまり・粘性やや強。焼土・粘土粒少量含。粒子やや粗。
- 12 暗茶褐色土 しまり・粘性やや弱。焼土多含。粒子粗。
- 13 暗褐色土 しまり・粘性やや弱。焼土微量。粒子粗。
- 14 茶褐色土 しまり・粘性弱。焼土やや多含。粒子粗。
- 15 暗褐色土 しまり・粘性やや弱。焼土やや多。炭化粒少量含。粒子やや粗。
- 16 茶褐色焼土層
- 17 茶褐色土 しまり・粘性やや弱。粘土粒多。焼土微量含。粒子粗。
- 18 黄褐色土 しまり・粘性弱。粘土粒・ローム粒多含。粒子粗。
- 19 焼土層
- 20 黒褐色土 しまり・粘性やや強。ローム・ロームブロック少量含。粒子粗。
- 21 暗黄褐色土 しまり・粘性やや強。ローム・ロームブロック少量含。粒子粗。
- 22 黄褐色土 しまり・粘性やや強。ローム・ロームブロック少量含。粒子粗。
- 23 赤褐色土 しまり強。粘性弱。焼土多含。粒子粗。
- 24 暗黄褐色土 しまり・粘性強。ローム粒多。粘土粒少量含。粒子粗。
- 25 黒褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒微量含。粒子粗。
- 26 茶褐色土 しまり・粘性やや強。焼土・炭化粒多含。粒子粗。
- 27 暗茶褐色土 しまり・粘性やや弱。焼土・炭化粒多含。粒子粗。
- 28 赤茶褐色土 しまり・粘性やや弱。焼土多。炭化粒少量含。粒子粗。

第34図 第12A・12B号住居跡・第12A号住居跡カマド

第 12A 住居跡



第 12B 住居跡



第 35 图 第 12 A · 12 B 号住居跡出土遺物

### 第 12 B号住居跡（第 34 図・図版 6）

調査区の南中央、T・U-13・14グリットに位置する。プラン南東を第 11 A号住居跡に切られ、南西は第 17 A・17 B号住居跡と重複する。住居プランは長方形を呈し、5.56 m×4.46 mを測る。壁の掘り込みは、北壁で 30 cm、東壁で 37 cmを測る。床はほぼ平坦で直床である。東壁から北壁にかけて、壁溝が掘られている。

カマドは、確認されていない。

ピットは 24 基確認されている。P 1・7・4 が支柱穴と判断される。深さは、P 1 : 31 cm、P 2 : 52 cm、P 3 : 38 cmを測る。間隔は、P 1-P 7 間 : 2.45 m、P 7-P 14 間 : 2.48 mを測る。

住居プラン東側に、直径 138 cm、深さ 38 cmを測る、円形の床下土壌が 1 基確認されている。覆土は、ローム粒、ロームブロックを多量に含み、掘削後時間を置かず人為的に埋め戻されたものと推測される。

出土遺物は、土器を主体とし、覆土下層・床面直上から出土している。

#### 出土遺物（第 35 図・第 16 表・図版 20・21）

1～3 は、土師器の坏。4 は、須恵器の長脚高坏。5～7 は、土師器の鉢。8～12 は、土師器の甕。11 は、底部に木葉痕を残す。13～15 は、土師器の甌。

本遺構は、遺物の様相から古墳時代後期後半に属すると思われる。

### 第 13 号住居跡（第 36 図・図版 7）

調査区の南端中央に位置する。プランの大半が、調査区外にかかり未調査となっているため、形状・規模は不明。プラン内に第 1 号掘立柱建物跡の柱穴（S B 1-6）が位置している。壁の掘り込みは、東壁で 43 cmを測る。床はほぼ平坦で直床である。

カマドは確認されず、調査区外に存在するものと推測される。

出土遺物は、土器を主体とし、覆土下層・床面直上から少量出土している。

#### 出土遺物（第 37 図・第 17 表）

1～4 は、土師器の坏。5～7 は、土師器の甕。7 は、底部に木葉痕を残す。8 は、須恵器甕の破片。

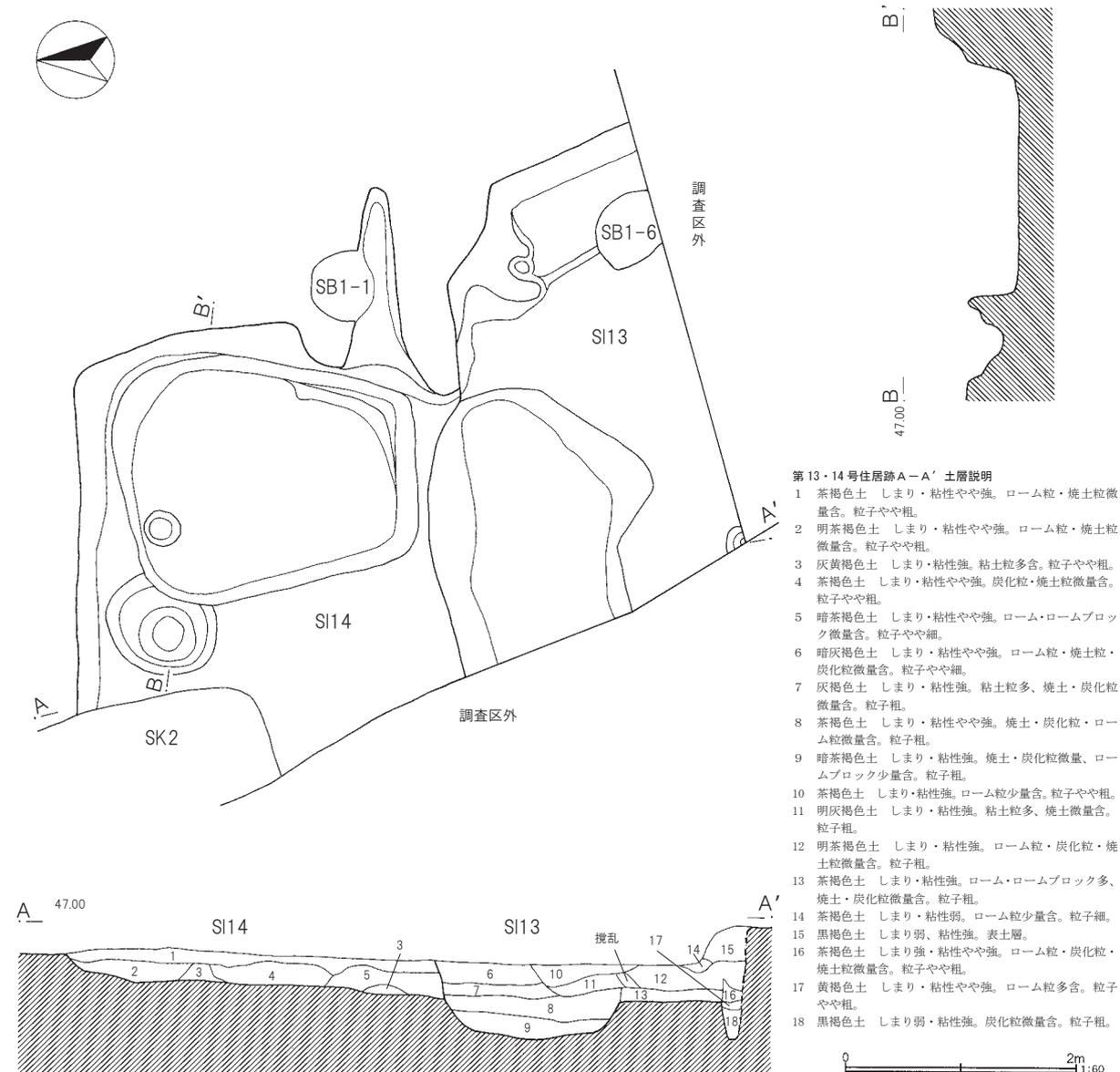
本遺構は、遺物の様相から古墳時代後期後半に属すると思われる。

### 第 14 号住居跡（第 36 図・図版 7）

調査区の南中央、V・W-13・14グリットに位置する。南側を第 13 号住居跡に切られ、北側を第 17 A・17 B号住居跡と重複し、西側は調査区外となり未調査となっている。西側は、第 2 号土壌に切られている。住居プランは長方形を呈するものと推測されるが、規模・形状は不明。壁の掘り込みは、北壁で 29 cm、東壁で 65 cmを測る。床はほぼ平坦で直床である。

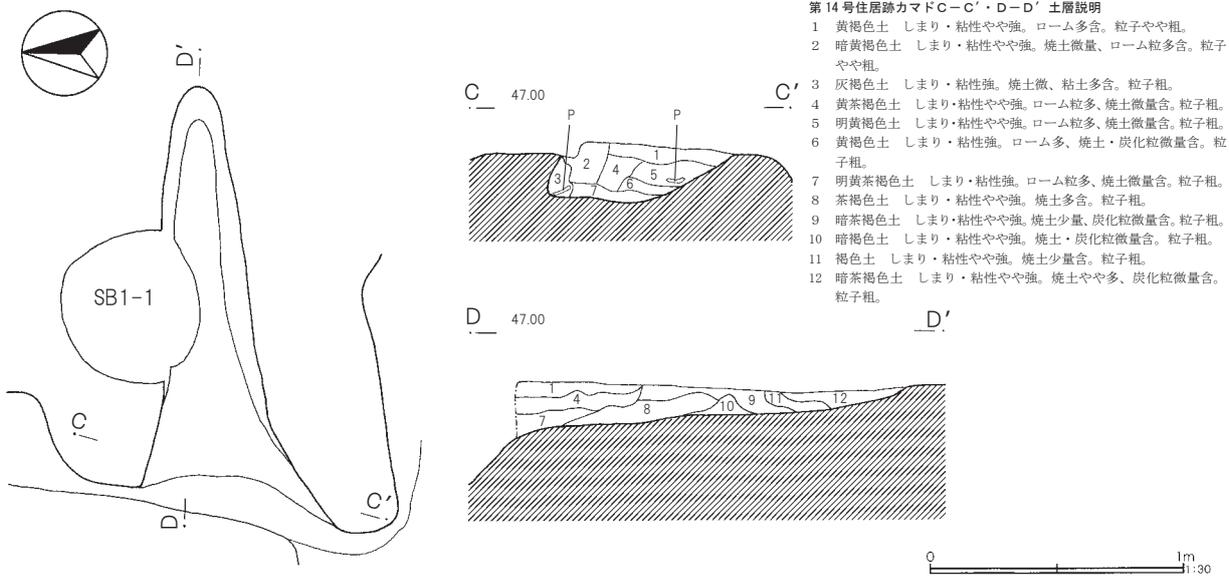
カマドは東壁に位置し、両袖部は地山を掘り残して構築している。燃烧部を住居内に位置させて、煙道は住居東壁ラインで区分され、約 45° 立ち上がった後に緩やかに煙道へ移行する。煙道の途中に、第 1 号掘立柱建物跡（S B 1-1）が重複している。

床下土壌が 2 箇所確認されている。住居北東コーナーに位置する床下土壌は、隅丸長方形を呈し、2.6



第13・14号住居跡A-A' 土層説明

- 1 茶褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒・焼土粒微量含。粒子やや粗。
- 2 明茶褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒・焼土粒微量含。粒子やや粗。
- 3 灰黄褐色土 しまり・粘性強。粘土粒多含。粒子やや粗。
- 4 茶褐色土 しまり・粘性やや強。炭化粒・焼土粒微量含。粒子やや粗。
- 5 暗茶褐色土 しまり・粘性やや強。ローム・ロームブロック微量含。粒子やや粗。
- 6 暗灰褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒・焼土粒・炭化粒微量含。粒子やや粗。
- 7 灰褐色土 しまり・粘性強。粘土粒多、焼土・炭化粒微量含。粒子粗。
- 8 茶褐色土 しまり・粘性やや強。焼土・炭化粒・ローム粒微量含。粒子粗。
- 9 暗茶褐色土 しまり・粘性強。焼土・炭化粒微量、ロームブロック少量含。粒子粗。
- 10 茶褐色土 しまり・粘性強。ローム粒少量含。粒子やや粗。
- 11 明灰褐色土 しまり・粘性強。粘土粒多、焼土微量含。粒子粗。
- 12 明茶褐色土 しまり・粘性強。ローム粒・炭化粒・焼土粒微量含。粒子粗。
- 13 茶褐色土 しまり・粘性強。ローム・ロームブロック多、焼土・炭化粒微量含。粒子粗。
- 14 茶褐色土 しまり・粘性弱。ローム粒少量含。粒子粗。
- 15 黒褐色土 しまり弱、粘性強。表土層。
- 16 茶褐色土 しまり強・粘性やや強。ローム粒・炭化粒・焼土粒微量含。粒子やや粗。
- 17 黄褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒多含。粒子やや粗。
- 18 黒褐色土 しまり弱・粘性強。炭化粒微量含。粒子粗。



第14号住居跡カマドC-C'・D-D' 土層説明

- 1 黄褐色土 しまり・粘性やや強。ローム多含。粒子やや粗。
- 2 暗黄褐色土 しまり・粘性やや強。焼土微量、ローム粒多含。粒子やや粗。
- 3 灰褐色土 しまり・粘性強。焼土微、粘土多含。粒子粗。
- 4 黄茶褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒多、焼土微量含。粒子粗。
- 5 明黄褐色土 しまり・粘性やや強。ローム粒多、焼土微量含。粒子粗。
- 6 黄褐色土 しまり・粘性強。ローム多、焼土・炭化粒微量含。粒子粗。
- 7 明黄茶褐色土 しまり・粘性強。ローム粒多、焼土微量含。粒子粗。
- 8 茶褐色土 しまり・粘性やや強。焼土多含。粒子粗。
- 9 暗茶褐色土 しまり・粘性やや強。焼土少量、炭化粒微量含。粒子粗。
- 10 暗褐色土 しまり・粘性やや強。焼土・炭化粒微量含。粒子粗。
- 11 褐色土 しまり・粘性やや強。焼土少量含。粒子粗。
- 12 暗茶褐色土 しまり・粘性やや強。焼土やや多、炭化粒微量含。粒子粗。



第36図 第13・14号住居跡・第14号住居跡カマド

× 2.1 m、深さ 41 cmを測る。カマドの南西に位置する床下土壙は、不整長方形を呈し、最大幅 2.1 m、深さ 39 cmを測る。いずれの覆土も、ローム粒、ロームブロックを多量に含み、掘削後時間を置かずに人為的に埋め戻されたものと推測される。

ピットは、3基確認されている。

出土遺物は、土器を主体とし、覆土下層・床面直上から小片が僅かに出土している。

#### 出土遺物（第 37 図・第 18 表）

1・2は、土師器の甕。3は、土師器の壺。いずれも残存率は 20%以下の小片である。

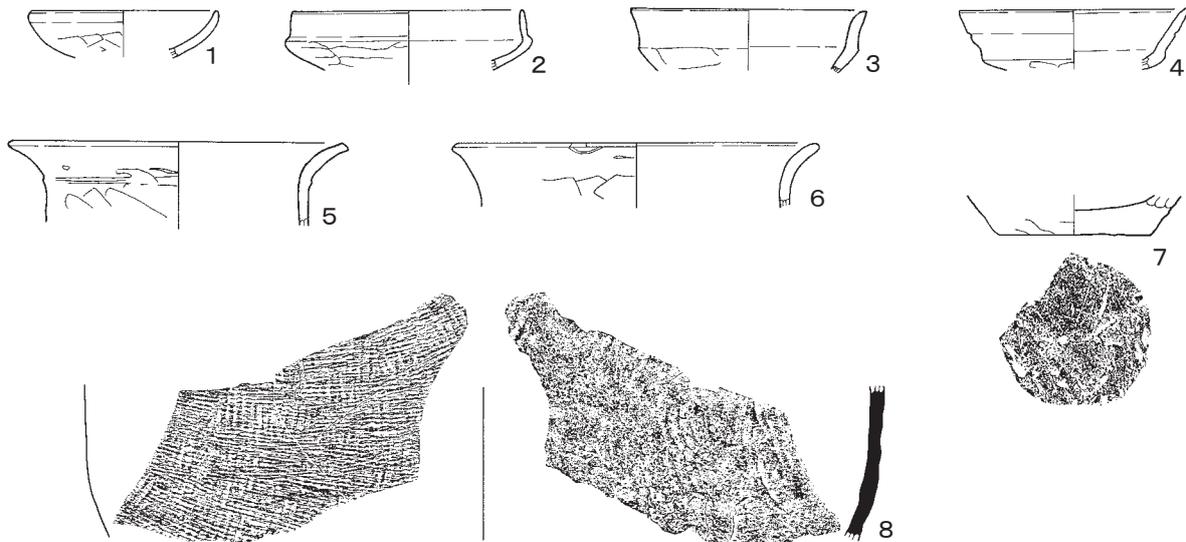
本遺構は、遺物の様相から古墳時代後期後半に属すると思われる。

#### 第 15 号住居跡（第 38 図・図版 7）

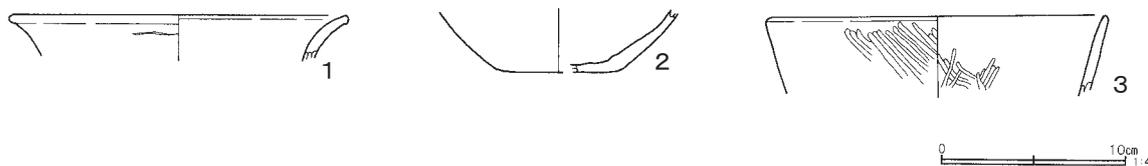
調査区の南東端、T・U-17・18 グリッドに位置する。南側は第 16 号住居跡と重複し、西側は攪乱により失われており、東側 1/3 は調査区外となり未調査となっている。住居プランは長方形を呈するものと推測され、南北長 28.8 mを測り、カマドは調査区内には確認されず、調査区外に位置するものと推測される。壁の掘り込みは、北壁で 53 cm、南壁で 47 cmを測る。床はほぼ平坦で直床である。

ピットは 4 箇所確認されている。

#### 第 13 号住居跡



#### 第 14 号住居跡



第 37 図 第 13・14 号住居跡出土遺物

出土遺物は、土器を主体とし、覆土下層・床面直上から小片が僅かに出土している。

### 出土遺物（第 38 図・第 19 表）

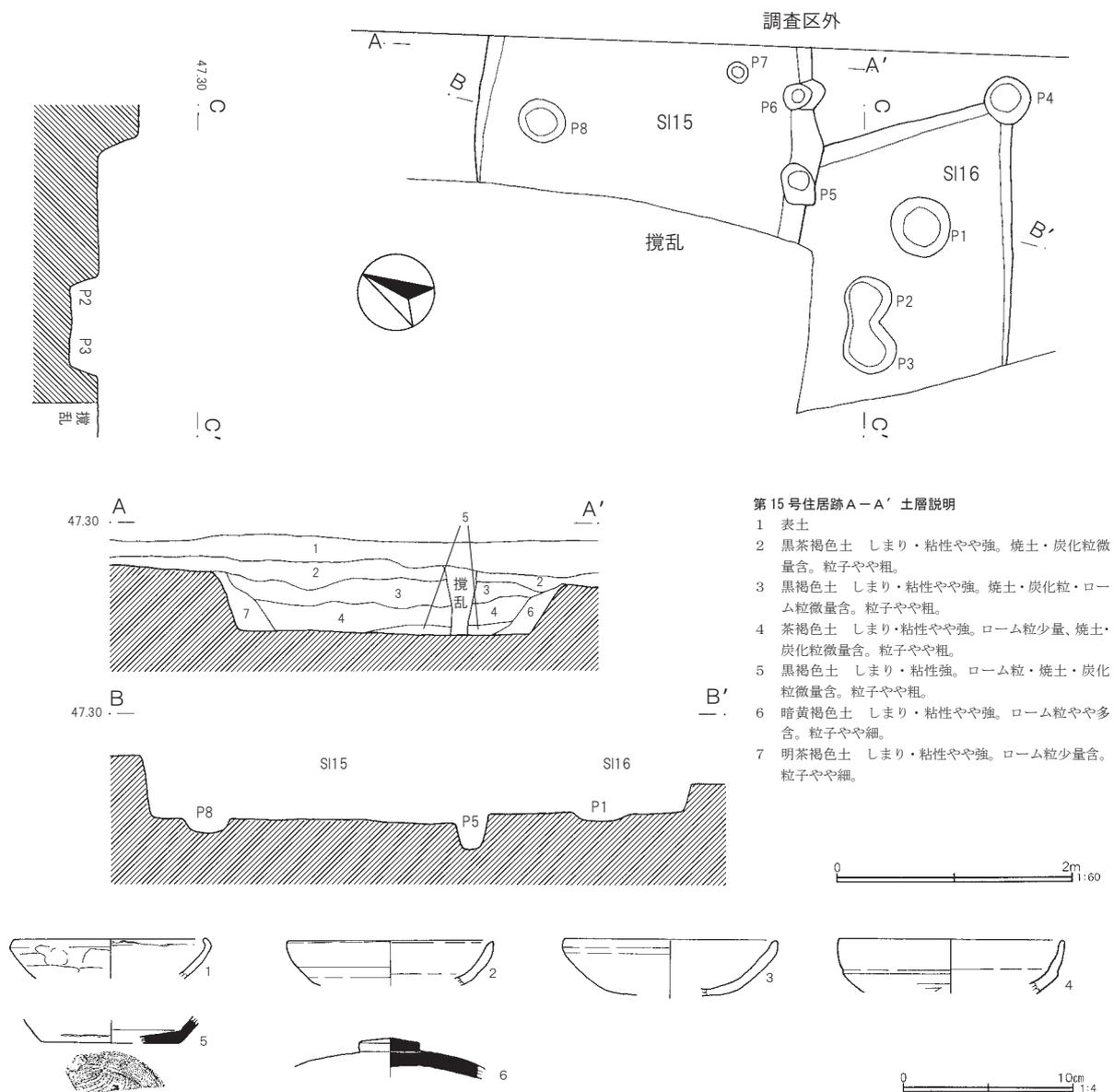
1～4は、土師器の坏。5は、須恵器の坏。6は、須恵器の蓋。いずれも残存率は20%以下の小片である。

本遺構は、遺物の様相から古墳時代後期後半に属すると思われる。

### 第 16 号住居跡（第 38 図・図版 7）

調査区の南東端、U-17・18 グリットに位置する。北側は第 15 号住居跡と重複し、西側は攪乱により失われていることから、形状・規模は不明。カマドは、調査区内で確認されていない。壁の掘り込みは、東壁で 31 cm、南壁で 24 cm を測る。床はほぼ平坦で直床である。

ピットは、4 基確認されている。



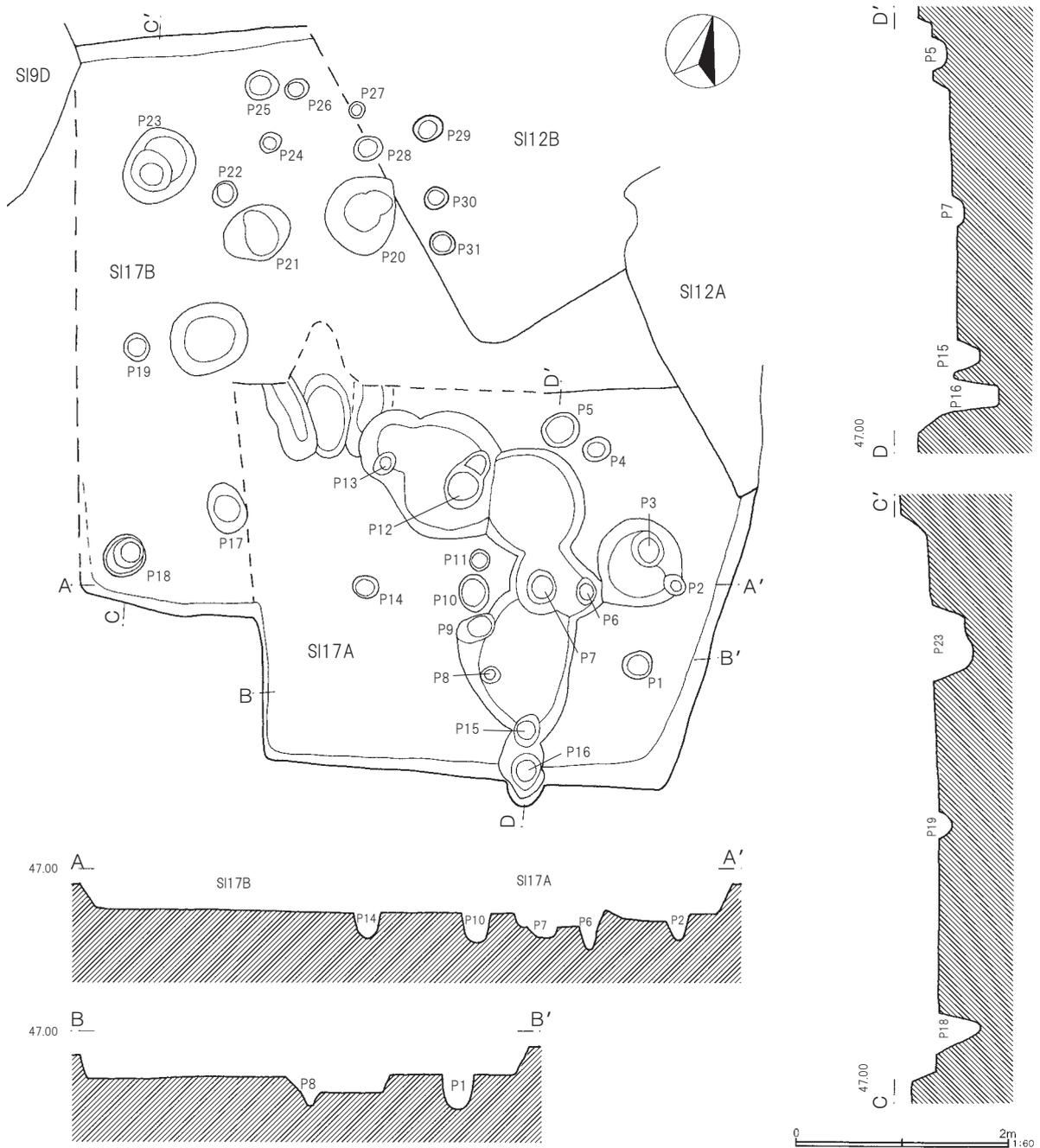
第 38 図 第 15・16 号住居跡・第 15 号住居跡出土遺物

出土遺物は、覆土中より土師器小片が僅かに出土しているが、図示するには至らなかった。

### 第 17 A 号住居跡 (第 39 図・図版 7)

調査区南中央、V-13・14 グリッドに位置する。北側を第 17 B 号住居跡を切って構築しており、北東側で第 12 A 号住居跡と重複する。壁の掘り込みは、南壁で 21 cm、東壁で 27 cm、西壁で 18 cm を測る。床はほぼ平坦で直床である。

カマドは、北壁西寄りに位置し、地山を掘り込んで、粘土で構築されている。一部攪乱を受けており、右袖、煙道部を欠いている。



第 39 図 第 17 A・17 B 号住居跡

プラン中央付近に、不整形の床下土壌が5基確認されている。いずれの覆土も、ローム粒、ロームブロックを多量に含み、掘削後時間を置かず人為的に埋め戻されたものと推測される。

ピットは、16基確認されている。

出土遺物は、土器を主体とし、覆土下層・床面直上から少量出土している。

#### 出土遺物（第40図・第20表・図版21）

1・2は、土師器の坏。3は、須恵器の蓋。4は、土師器高坏の脚部。5～7は土師器の甕。8は、小型の鉢で、コップ形を呈する。底部に木葉痕を残す。

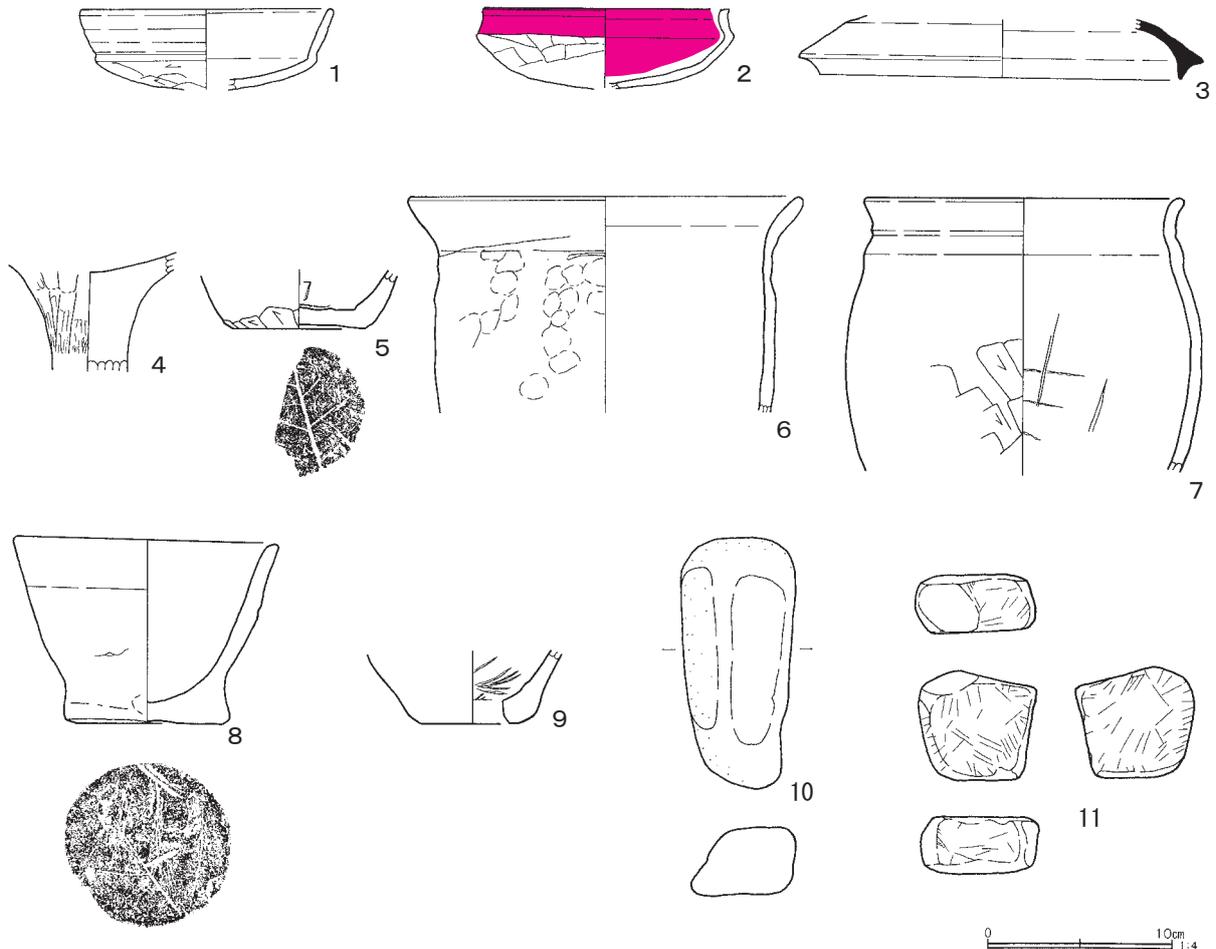
9は、土師器の甑の底部。10は、編み物石と判断した。細長い自然礫で、使用痕は確認されない。11は、砂岩製の砥石。

また、床面直上から、炭化した桃核1点が出土している（図版7）。

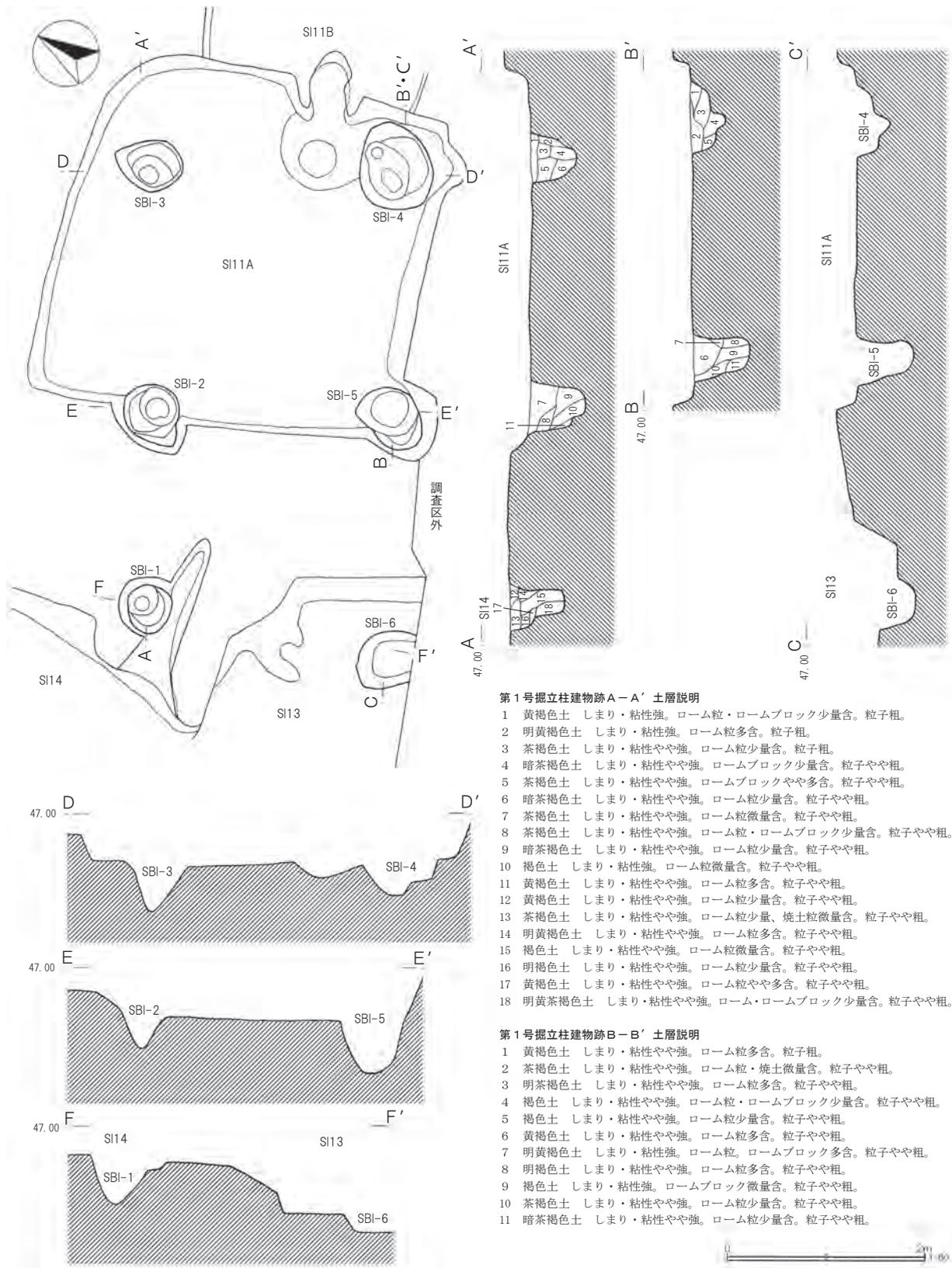
本遺構は、遺物の様相から古墳時代後期後半に属すると思われる。

#### 第17B号住居跡（第39図）

調査区南端中央に位置する。プラン東側は、第12B号住居跡、第17A号住居跡、西側は第9D号住居跡と重複しており、形状・規模は不明。南北長5.35mを測る。壁の掘り込みは、北壁で25cm、西壁で18cmを測る。



第40図 第17A号住居跡出土遺物



第41図 第1号掘立柱建物跡

カマドは確認されていない。

ピットは15基確認されている。P 12・17・23・29が本住居跡の柱穴の可能性ある。深さは、P 12 : 45 cm、P 17 : 41 cm、P 23 : 39 cm、P 29 : 20 cmを測る。間隔は、P 12 - 17間 : 2.2 m、P 17 - 23間 : 3.2 m、P 23 - 29間 : 2.6 m、P 29 - 12間 3.3 mを測る。

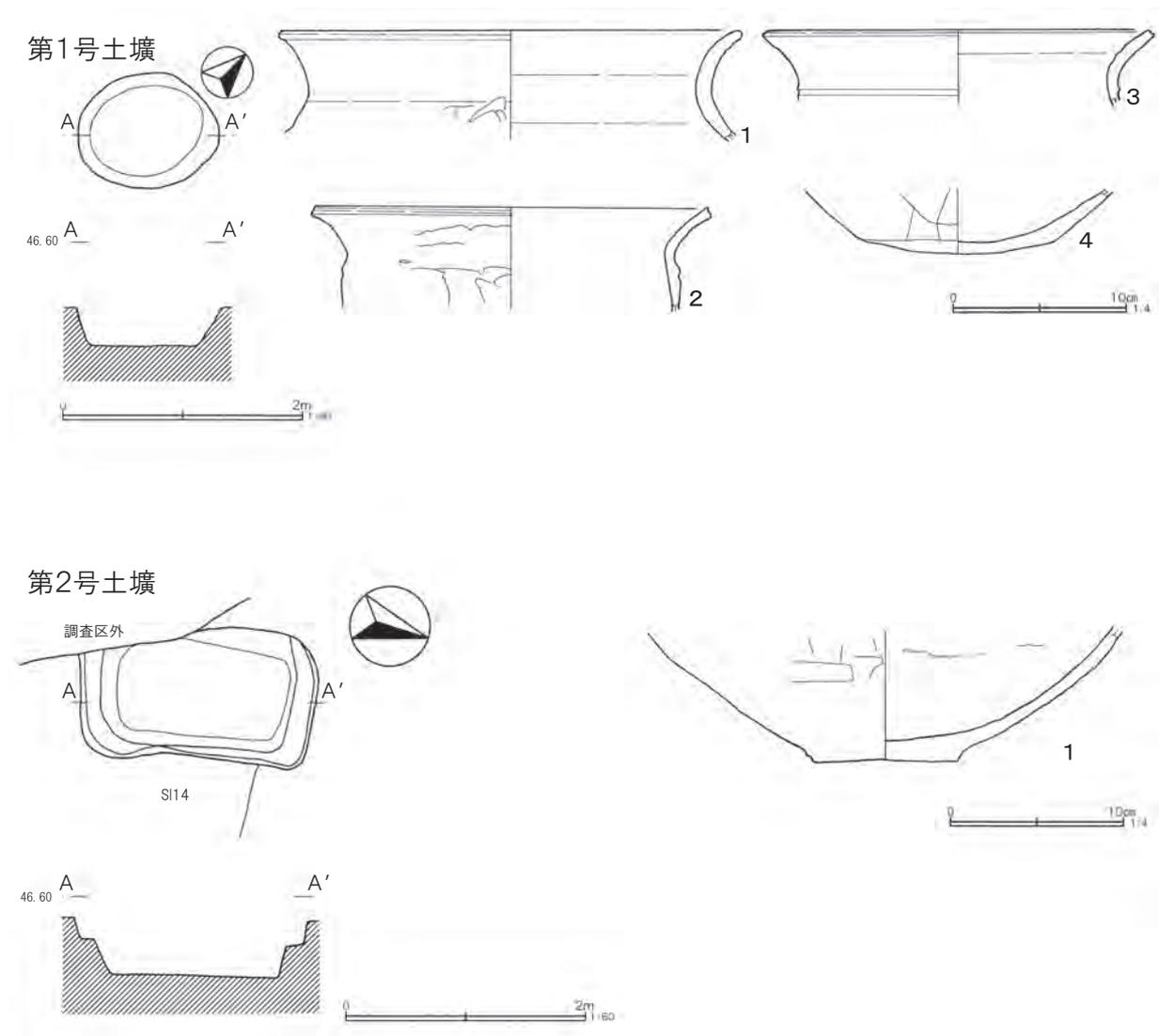
出土遺物は、土師器小片が僅かに出土しているが、図示するには至らなかった。

### 3 掘立柱建物跡

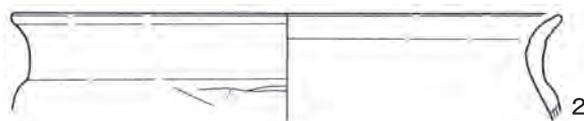
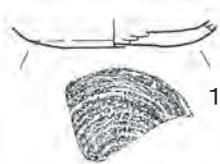
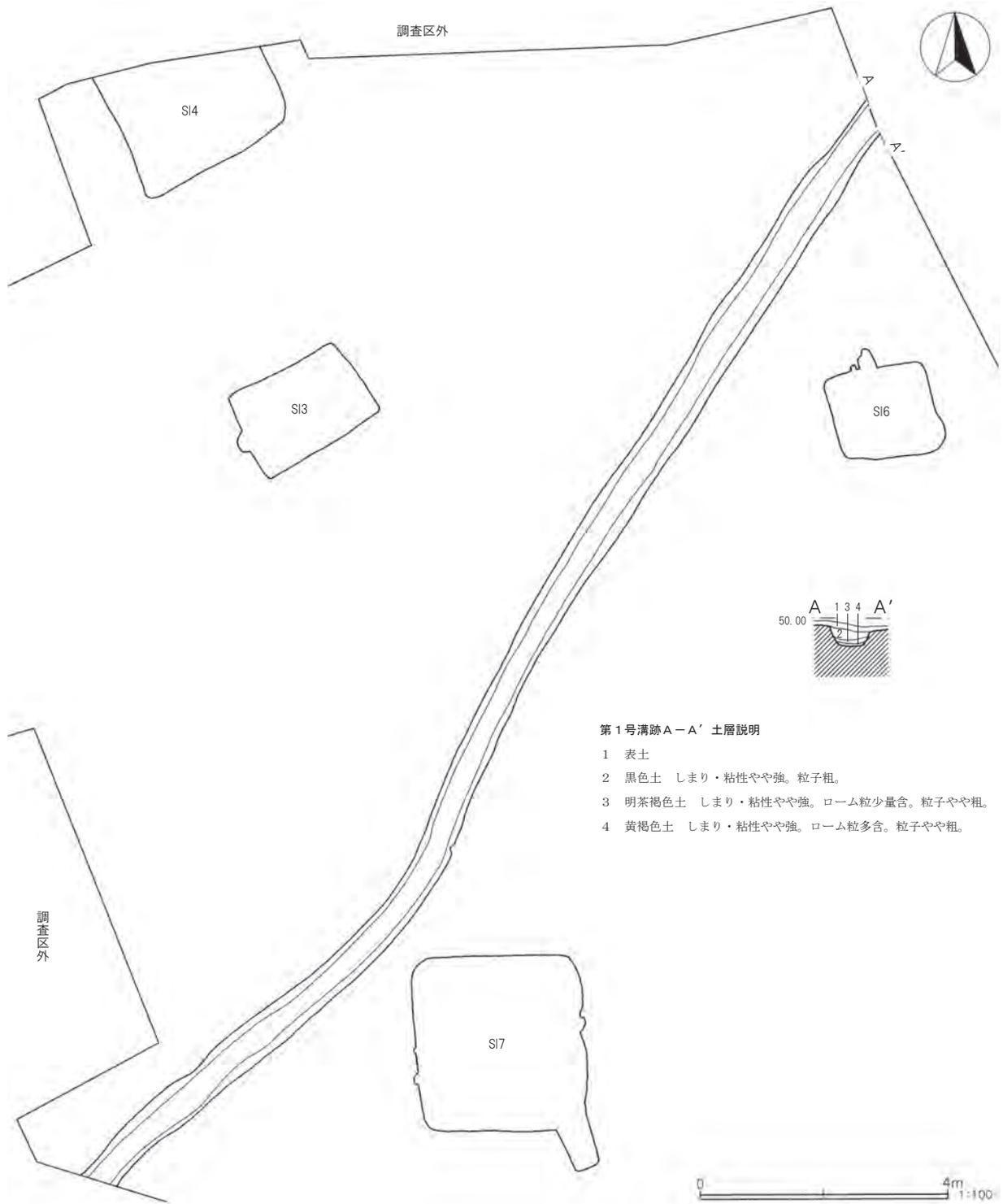
#### 第1号掘立柱建物跡（第41図）

調査区南端東寄りの、V-15、W-14・15グリッドに位置する。第11A号・13号住居跡を切って構築している。南側が調査区外にかかっており、柱穴が調査区外に延びているかは不明のため、側柱建物か総柱建物かは不明。

調査区内では、2×1間で、柱間距離は桁行2.3～2.1m、梁行2.3mを測る。主軸は、N-55°-Wの方位を持つ。柱穴の掘方は、略規模の等しい不整形円形で、直径は、柱穴1 : 58 cm、柱穴2 : 68 cm、



第42図 第1・2号土壌・出土遺物



第43図 第1号溝跡・出土遺物

柱穴 3 : 58 cm、柱穴 4 : 74 cm、柱穴 5 : 64 cm、柱穴 6 : 56 cm、深さは柱穴 1 : 56 cm、柱穴 2 : 81 cm、柱穴 3 : 48 cm、柱穴 4 : 33 cm、柱穴 5 : 54 cm、柱穴 6 : 37 cmを測る。

遺物は土師器小片が覆土中から僅かに出土しているが、図示するには至らなかった。

本掘立柱建物跡の時期は、覆土中から出土した土師器小片より、古墳時代後期後半と判断される。

## 4 土壙

### 第 1 号土壙 (第 42 図・第 21 表・図版 7)

調査区の南西隅、X-10 グリットに位置する。長軸 125 cm、短軸 98 cm、深さ 32 cmを測り、楕円形を呈する。壙底は平坦となっている。

遺物は、土師器の小片が覆土中より出土している。第 42 図 1～3 は、土師器の甕。4 は、土師器の壺。いずれも、残存率 30%以下の小片である。

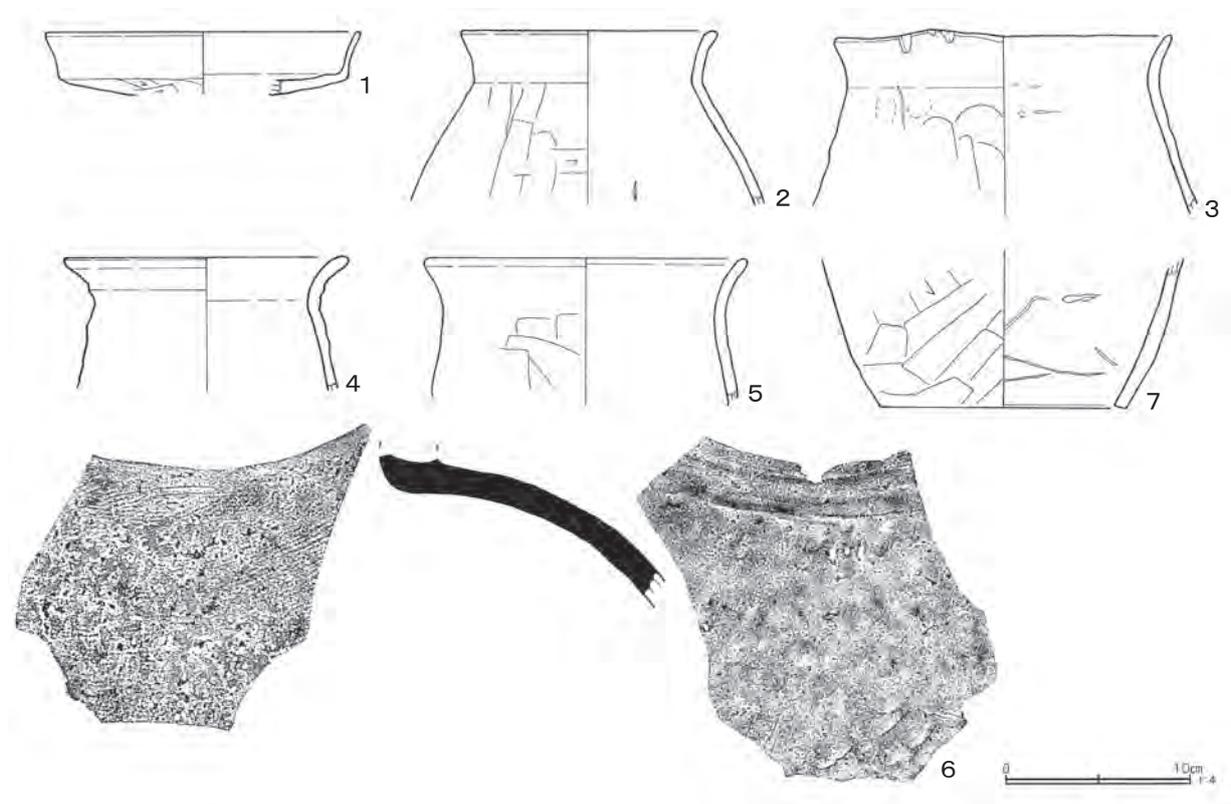
本土壙は、覆土中から出土した遺物より、古墳時代後期後半と判断される。

### 第 2 号土壙 (第 42 図・第 22 表)

調査区の南端中央、V・W-13 グリットに位置する。第 14 号住居跡を切って構築されている。長軸 196 cm、短軸 121 cm、深さ 60 cmを測り、長方形を呈する。壙底は平坦となっている。

遺物は、土師器甕の小片が覆土中より 1 点出土している (第 42 図 1)。

本土壙は、覆土中から出土した遺物より、古墳時代後期後半と判断される。



第 44 図 遺構外出土遺物

## 5 溝跡

### 第1号溝跡（第43図・第23表・図版1）

調査区の北東から南西方向、M-14グリットから、T-9グリットにかけて、やや屈折し、22 m程確認されている。両端は調査区外にかかり未調査となっている。溝断面は、箱薬研形を呈し、上面幅50～68 cm、下面幅35 cm～40 cmを測る。北東隅の溝底の標高は48.64 m、南西の溝底の標高は46.25 cmを測り、2.39 mの標高差がある。

遺物は、覆土中から土師器・須恵器の小片が僅かに出土している。第43図1は、須恵器の坏。2は、土師器の甕。いずれも残存率30%以下の小片である。

覆土中より出土した遺物は流れ込みと判断され、本溝の時期は古墳時代以降と判断される。

## 6 遺構外出土遺物（第44図・第24表）

遺構外から出土した遺物は僅かである。縄文時代中期の土器小片も出土しているが、図示するには至らなかった。1は、土師器の坏。2～5は土師器の甕。6は、須恵器の甕。7は、土師器の甗。

第2表 第2号住居跡出土遺物観察表 (第7図)

No.	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	土師器・坏	13.0	3.7		A・B・I	B	明褐色 5YR5/6	70%	
2	土師器・坏	14.8	4.1		A・D・E・M	B	明赤褐色 2.5YR5/6	40%	内面放射状暗文
3	土師器・坏	(15.0)	(4.0)		A・B・D・M	B	明赤褐色 5YR5/6	40%	
4	土師器・坏	(12.2)	(4.3)		A・B・D	A	黒色 7.5YR2/1	10%	黒色土器
5	土師器・坏	12.8	4.5		A・B・D・E・K・M	B	明赤褐色 5YR5/6	30%	
6	土師器・坏		(3.7)		A・C・I・J	B	橙色 5YR6/6	体部 20%	
7	土師器・碗	(15.4)	7.2	8.2	A・G・I・N	B	褐色 7.5YR6/6	70%	
8	土師器・甕		(2.3)	(8.6)	A・N・D	B	明黄褐色 10YR6/6	底部 50%	底部木葉痕
9	土師器・甕		(2.9)	(8.4)	A・G・I・N	B	橙色 7.5YR6/6	底部 40%	底部木葉痕
10	土師器・甕		(2.6)	10.2	A・E・I・N	B	黄褐色 10YR6/4	底部 100%	底部指頭ナデ
11	土師器・甕		(2.5)	6.0	A・K	C	赤褐色 5YR4/6	底部 80%	
12	土師器・甕	(16.0)	(4.3)		A・B・K	B	褐色 7.5YR4/6	口縁 20%	
13	土師器・壺		(235.0)	(12.7)	A・B・C・D・E・M・N	B	明赤褐色 5YR5/6	底部胴部 20%	
14	土師器・甕	(21.2)	(7.7)		A・G・I・J・N	B	明黄褐色 10YR6/6	口縁 70%	
15	土師器・甕	(20.2)	(10.3)		A・G・I・N	B	黄褐色 10YR5/4	口縁体部 20%	
16	土師器・甕	(19.2)	(7.4)		A・B・D・I・J・M・N	B	橙色 7.5YR6/6	口縁 40%	
17	土師器・甕	(19.6)	(3.1)		A・E・N	B	橙色 7.5YR6/4	口縁 20%	
18	土師器・甕	(17.8)	(34.0)		A・B・E・N	B	明褐色 7.5YR5/6	70%	
19	須恵器・甕				A・B・D	B	灰黄褐色 10YR6/2		
20	土師器・壺	(17.0)	(11.6)		A・B・D・I・M・N	B	明赤褐色 5YR5/8	口縁頸部 40%	
21	土師器・甕		(17.8)		A・B・D・I・M・N	B	褐色 5YR6/6	胴部 20%	
22	須恵器・壺				A・D・I	B	灰色 7.5Y5/1		
23	須恵器・壺				A・D・I	B	灰色 7.5Y5/1		
24	編み物石	15.1	4.9	3.1					重量 394 g・安山岩
25	編み物石	16.9	5.8	4.6					重量 581 g・片岩
26	編み物石	17.1	7.8	4.9					重量 720 g・安山岩
27	編み物石	13.9	5.7	2.9					重量 343 g・砂岩
28	編み物石	13.4	5.3	3.6					重量 353 g・砂岩

第3表 第3号住居跡出土遺物観察表 (第8図)

No.	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	土師器・鉢	(7.4)	(7.1)	(4.6)	A・B・H	B	明褐色 7.5YR5/6		容量 140ml 底部木葉痕

第4表 第4号住居跡出土遺物観察表 (第10・11図)

No.	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	土師器・坏	(12.2)	(4.6)		A・G	B	明赤褐色 5YR5/8	20%	
2	土師器・坏	(12.6)	(3.6)		A・D	B	明赤褐色 5YR5/6	20%	
3	土師器・鉢	(13.3)	5.1	(5.0)	A・G・N	B	黄褐色 10YR6/4	10%	底部木葉痕
4	土師器・鉢	(12.5)	(7.5)		A・B・E・I・J・M・N	B	明赤褐色 5YR5/8	口縁体部 40%	
5	土師器・鉢		(6.8)		A・B・I	B	褐色 5YR6/6		
6	土師器・甕	(18.4)	(7.8)		A・G・I・N	B	褐色 7.5YR6/6	口縁 20%	
7	土師器・甕	(18.5)	(5.4)		A・I・N	B	黄褐色 10YR5/3		
8	土師器・甕	(17.6)	(3.9)		A・G・N	B	褐色 7.5YR5/4		
9	土師器・甕	(16.8)	(3.3)		A・G・I・N	B	明褐色 7.5YR5/6		
10	土師器・甕		(7.0)		A・B・I・M・N	B	黄褐色 10YR6/4	底部 20%	
11	土師器・甕	18.9	(36.5)	(7.7)	A・B・D・E・H・M・N	B	褐色 5YR6/8	70%	
12	土師器・甕	18.1	36.7	6.6	A・B・I・M	B	明赤褐色 5YR5/8	100%	底部木葉痕
13	土師器・甕	19.2	38.2	6.4	A・B・D・E・M・N	B	褐色 5YR6/8	100%	底部木葉痕
14	土師器・甕	18.6	35.6	(6.5)	A・B・C・D・E・H・M・N	B	褐色 7.5YR6/6	90%	
15	土師器・甕	21.6	(40.2)		A・B・D・I・M・N	B	褐色 2.5YR6/8	90%	
16	土師器・鉢		(4.6)	(6.0)	A・B・D・M	B	褐色 2.5YR6/6	底部 60%	
17	編み物石	13.5	5.1	3.2					重量 319 g・砂岩
18	砥石	3.4	2.9	1.8					重量 19 g 孔有 凝灰岩

第5表 第6号住居跡出土遺物観察表 (第14図)

No.	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	土師器・坏	(17.0)	(5.3)		A・I・J	B	褐色 7.5YR6/4	10%	
2	須恵器・坏		(1.5)	(8.0)	A・F・L	A	灰黄褐色 10YR6/2	底部 30%	
3	須恵器・坏		(0.6)	(7.0)	A・B・D・M	B	灰黄色 2.5Y7/2	底部 50%	
4	須恵器・坏		(0.8)	(7.0)	A・B・F	B	灰色 7.5Y5/1	底部 40%	
5	須恵器・坏		(1.1)	(7.1)	A・F・L	A	灰色 2.5Y8/2	底部 50%	
6	須恵器・蓋		(2.3)	(18.3)	A・E・F・M・N	B	灰色 N6/1	20%	
7	土師器・甕	23.8	32.8	7.5	A・I・N	B	褐色 7.5YR6/6	100%	
8	土師器・甕	23.5	32.3	7.1	A・B・C・D・H・K・M・N	B	褐色 5YR6/8	100%	
9	土師器・甕	(21.8)	(5.9)		A・B・D・I・J・M	B	褐色 7.5YR6/6		
10	土師器・甕	(20.6)	(4.3)		A・B・D・I・J・M	B	褐色 7.5YR7/4		
11	土師器・甕	(18.0)	(3.5)		A・B	B	明褐色 7.5YR5/6	口縁 20%	
12	須恵器・甕	(25.6)	(1.9)		A・B・D	B	褐色 7.5YR7/6	口縁 10%	
13	土師器・甕		(2.2)	(6.8)	A・B・D・I・M・N	B	褐色 7.5YR5/3	底部 30%	底部木葉痕

No.	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
14	須恵器・甕		(6.3)		A・B・D・M	A	灰色 10Y5/1		
15	須恵器・甕		(15.6)	(15.2)	A・G・L	A	灰色 7.5Y6/1	底部部部 30%	
16	須恵器・壺		(4.6)	(17.2)	A	B	灰色 5Y5/1	台部 20%	
17	須恵器・壺		(6.8)		A・B・L	B	灰色 N5/1		
18	鉄製鋤先	13.6	3.0					40%	

第6表 第7号住居跡出土遺物観察表 (第17・18図)

No.	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	土師器・坏	(12.0)	4.0		A・C・I・J・N	B	明赤褐色 2.5YR5/8	40%	内面放射状暗文
2	土師器・坏	(13.6)	(4.8)		A・C・D・M・N	B	褐色 7.5YR5/4	30%	内外面赤彩
3	土師器・坏	(12.0)	(4.7)		A・B	B	橙色 5YR7/8	50%	
4	土師器・坏	(12.4)	(6.1)		A・B・C・H・M・N	B	褐色 5YR6・8	30%	
5	土師器・坏	14.2	5.0		A・B・H・I・K・M・N	B	明赤褐色 2.5YR5/8	90%	
6	土師器・坏	(13.6)	(4.0)		A・B・D・I・M	B	褐色 7.5YR6/6	50%	
7	土師器・坏	(13.0)	(3.3)		A・B・D・I・K・M	B	褐色 5YR6/8	40%	
8	土師器・坏	14.3	4.0		A・B・D・H・I・M・N	B	褐色 5YR6/8	90%	
9	土師器・坏	(12.6)	(4.8)		A・B・I・J・N	B	黄褐色 10YR7/4	30%	
10	須恵器・高坏		(5.7)	11.8	A・B・H・M	B	灰色 N4/1	台部 100%	
11	土師器・甕	20.0	(7.8)		A・B・D・H・M・N	B	明褐色 7.5YR5/6	口縁 70%	
12	土師器・甕	(21.0)	(5.7)		A・B・D・N	B	明赤褐色 5YR5/6	口縁 40%	
13	土師器・甕	(18.5)	(12.0)		A・G・N	B	黄褐色 10YR6/3	10%	
14	土師器・甕	(18.0)	(6.7)		A・C・D・E・I・M・N	B	褐色 7.5YR5/4	30%	
15	土師器・甕	(17.0)	(11.4)		A・B・D・N	B	褐色 7.5YR7/6	口縁 30%	
16	土師器・甕	(18.8)	(11.5)		A・B・N	B	灰褐色 10YR4/1	10%	
17	土師器・甕	(13.6)	(6.1)		A・B・D・I・N	B	明赤褐色 5YR5/6	口縁体部 30%	
18	土師器・甕	(18.4)	(20.4)	(6.4)	A・B・N	B	褐色 7.5YR7/6	50%	
19	土師器・甕	19.6	(26.0)		A・G・N	B	褐色 7.5YR6/6	口縁体部 70%	
20	土師器・甕	20.3	29.3	11.8	A・B・D・K・M・N	B	明赤褐色 2.5YR5/6	90%	
21	土師器・甕		(6.6)	5.2	A・C・D・H・M・N	B	褐色 7.5YR6/6	底部 90%	
22	土師器・甕		(8.6)	(9.6)	A・C・I・N	B	赤褐色 5YR4/4	底部 100%	
23	土師器・甕	24.2	30.1	9.6	A・B・D・H・M・N	B	褐色 5YR6/6	70%	
24	土製支脚	13.2	7.0	4.4	A・I・N	B	褐色 7.5YR6/6	100%	
25	編み物石	17.8	5.9	3.0					重量 445 g・緑色岩
26	編み物石	11.3	6.0	5.0					重量 511 g・砂岩
27	編み物石	15.2	5.9	4.3					重量 535 g・砂岩
28	編み物石	17.4	6.7	3.0					重量 351 g・砂岩
29	編み物石	14.0	7.0	3.8					重量 442 g・砂岩
30	編み物石	15.9	5.8	3.1					重量 507 g・片岩
31	編み物石	16.3	6.8	4.6					重量 830 g・砂岩
32	編み物石	15.5	6.3	1.8					重量 322 g・片岩
33	編み物石	14.0	5.5	3.4					重量 393 g・安山岩
34	編み物石	16.9	6.5	4.6					重量 697 g・安山岩
35	編み物石	13.0	5.5	3.5					重量 432 g・閃緑岩
36	編み物石	11.8	5.5	4.6					重量 428 g・砂岩

第7表 第8号住居跡出土遺物観察表 (第20図)

No.	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	土師器・坏	10.8	3.3		A・B・C・E・K・M・N	B	褐色 5YR6/6	60%	
2	土師器・甕	(16.7)	(7.2)		A・D・H・M・N	B	赤褐色 5YR5/4	口縁 30%	
3	土師器・甕	(14.2)	(8.3)		A・B・I・K	B	褐色 7.5YR5/4	口縁 40%	
4	土師器・甕	(19.4)	(7.7)		A・B・D	B	明黄褐色 10YR6/6	口縁 40%	
5	土師器・甕	15.1	18.8		A・B・C・D・E・H・K・M・N	B	褐色 2.5YR8/6	70%	
6	土師器・甕	(12.1)			A・I・M	B	黄褐色 10YR4/3	20%	
7	土師器・甕	(21.2)	(20.7)		A・B・E・I・M・N	B	褐色 7.5YR5/4		
8	土師器・甕		(1.3)	4.2	A・B・D	B	黄褐色 10YR6/4	底部 100%	

第8表 第9A号住居跡出土遺物観察表 (第23・24図)

No.	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	土師器 坏	10.2	3.2		A・B・E	B	明褐色 7.5YR5/6	90%	
2	土師器 坏	11.0	3.5	8.1	A・B・C・D・H・I・M・N	B	褐色 2.5YR6/8	100%	
3	土師器 坏	(11.0)	2.9		A・B・I	B	褐色 7.5YR6/8	40%	
4	土師器 坏	(12.4)	4.0	(7.2)	A・B・C・M・N	B	黄褐色 10YR6/4	40%	内外面赤彩
5	土師器 坏	(10.1)	(3.1)		A・I・J・K	B	褐色 5YR6/6	40%	
6	土師器 坏	(13.2)	(3.9)		A・B・I・N	B	褐色 5YR6/6	30%	
7	土師器 坏	(12.0)	(3.6)		A・K・N	B	明赤褐色 2.5YR6/8	50%	内面放射状暗文
8	土師器 坏	(13.0)	(3.5)	(6.6)	A・B・D・I	B	明黄褐色 10YR7/6	60%	内面放射状暗文
9	土師器 坏	(12.8)	(2.9)		A・B・K・M・N	B	褐色 2.5YR6/8	30%	内面放射状暗文
10	土師器 坏		(1.9)		A・B・G	B	明赤褐色 5YR5/6	30%	内面放射状暗文
11	土師器 鉢	(14.0)	(8.7)		A・D・M・N	B	褐色 7.5YR5/4	口縁胴部 20%	
12	土師器 鉢	(19.4)	(5.4)		A・B・G	B	赤褐色 5YR4/6	10%	

No.	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
13	土師器 甕	21.0	(39.5)	5.4	A・B・E	B	橙色 7.5YR6/6	70%	
14	土師器 甕	(18.0)	(28.5)		A・B・I・J	B	黄橙色 10YR6/4	70%	
15	土師器 甕	(22.4)	(33.7)		A・B・D・I・M	B	明赤褐色 5YR5/6	60%	
16	土師器 甕	19.0	(19.0)		A・B・C・D・E・M・N	B	橙色 5YR7/8	40%	
17	土師器 甕	(21.0)	(34.5)	(7.0)	A・B・D・I	B	明赤褐色 5YR5/6	70%	
18	土師器 甕	(23.8)	(35.0)	(5.8)	A・B・C・D・H・I・K・M・N	B	橙色 2.5YR6/8	40%	
19	土師器 甕	(20.0)	(5.8)		A・B・D・K	B	明褐色 7.5YR5/6	口縁10%	
20	土師器 甕	(18.5)	(7.7)		A・C・D・E・M・N	B	橙色 7.5YR6/4	口縁10%	
21	土師器 甕		(9.4)		A・C・D・H・M・N	B	暗褐色 7.5YR3/3		
22	土師器 甕		(4.4)	(10.4)	A・B・G・I・J・N	B	褐色 7.5YR5/4	10%	
23	編み物石	11.9	5.4	3.7					重量 34.7 g・砂岩
24	編み物石	14.0	5.5	2.9					重量 39.1 g・砂岩
25	鉄製品	(3.0)	(4.9)	(0.5)					重量 14 g

第9表 第9B号住居跡出土遺物観察表 (第26図)

No.	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	土師器 坏	14.4	4.6		A・B・C・D・K・M・N	B	橙色 5YR6/8	50%	
2	土師器 坏	(13.0)	(3.1)		A・B	A	黄褐色 10YR6/3	口縁30%	
3	土師器 坏	(10.6)	(3.4)		A・B・D・J	B	橙色 5YR6/8	30%	
4	土師器 坏	12.6	8.4		C・D・E・I・M・N	B	黒色 10YR1.7/1	80%	黒色土器
5	土師器 蓋	(16.0)	(2.1)		A・B・E	A	橙色 7.5YR6/6	口縁体部20%	
6	土師器 高坏	(11.7)	(4.5)		A・B・I・N	B	褐色 7.5YR5/4	坏部50%	
7	土師器 鉢	(18.0)	(6.2)		A・C・D・E・M・N	B	黄褐色 10YR6/4	20%	
8	土師器 甕	(18.0)	(10.5)		A・B・E・N	B	黄褐色 10YR6/4	10%	
9	土師器 甕	(14.2)	(7.6)		A・B・E・I・K・M・N	B	橙色 7.5YR6/4	口縁30%	
10	土師器 甕	(17.4)	(5.6)		A・C・D・E・K・M・N	B	黄褐色 10YR6/4	口縁20%	
11	土師器 甕	(19.4)	(4.3)		A・B・D・I・M	B	橙色 7.5YR6/6	口縁20%	
12	瓦質土器 香炉				A・B・D・I・J・M	B	赤褐色 5YR5/4		焼成前孔有
13	編み物石	13.7	5.5	5.1					重量 533 g・砂岩

第10表 第9C号住居跡出土遺物観察表 (第28・29図)

No.	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	土師器 坏	(14.0)	(3.0)		A・B・D	A	明赤褐色 2.5YR5/6	10%	内外面赤彩
2	土師器 坏	(13.0)	(4.1)		A・B・D	B	褐色 5YR6/6	10%	内面放射状暗文
3	土師器 坏	(13.6)	(3.3)		A・B・D・I	A	黒褐色 5YR2/1	口縁10%	
4	土師器 坏	(11.8)	(3.0)		A・B・E・H・I	B	赤褐色 5YR4/4	20%	
5	土師器 坏	(12.1)	(2.4)		A・B・D・K	B	褐色 7.5YR6/4		内面放射状暗文
6	須恵器 蓋	(16.0)	(1.5)		A	B	黄灰色 2.5Y6/1	口縁20%	
7	須恵器 蓋	(20.0)	(3.0)		A・B・N	B	灰黄色 2.5Y6/2	口縁体部20%	
8	土師器 鉢	(10.0)	(4.3)		A・J・N	B	明赤褐色 5YR5/6	30%	
9	土師器 甕	(21.0)	(8.6)		A・B・D・I・M	B	褐色 7.5YR6/6	口縁頸部10%	
10	土師器 甕	(15.0)	(6.8)		A・B・I	B	明赤褐色 5YR5/8	10%	
11	土師器 甕		(4.5)	(8.0)	A・B	B	明褐色 7.5YR5/6	30%	
12	土師器 甕	(24.0)	(5.4)		A・B・D	B	褐色 7.5YR5/4	口縁10%	
13	土師器 甕	(20.6)	(6.9)		A・B・I	B	赤褐色 5YR4/6	口縁10%	
14	土師器 甕		2.8	5.0	A・B	B	黄褐色 10YR6/3	底部95%	
15	須恵器 甕	(24.6)	45.0		A・B・M・N	A	黄灰色 2.5Y6/2	60%	
16	須恵器 甕	(17.8)	(39.4)		A・B・H・N	B	灰オリーブ 5Y6/2	40%	
17	土師器 壺	(19.0)	(3.2)		A・B・I	B	褐色 5YR6/4	口縁20%	
18	土師器 壺	(24.0)	(3.1)		A・B・I・N	B	褐色 5YR6/6	口縁20%	
19	須恵器 壺				ABM	A	灰色 N4/		
20	編み物石	13.8	5.7	3.0					重量 388 g・片岩
21	編み物石	15.3	5.7	4.6					重量 725g・緑色岩
22	編み物石	12.9	5.9	2.2					重量 268 g・砂岩

第11表 第9D号住居跡出土遺物観察表 (第30図)

No.	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	土師器 高坏	(11.9)	17.5	(14.2)	A・N	B	黒褐色 7.5YR3/1	40%	
2	土師器 甕	16.6	34.0	5.0	ABDIN	B	褐色 5YR6/6	100%	
3	土師器 甕		(8.5)	(3.4)	A・B・E	B	明赤褐色 2.5YR5/6	30%	

第12表 第10号住居跡出土遺物観察表 (第26・27図)

No.	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	土師器 坏	(14.0)	(3.9)		A・B・E・J	B	褐色 A・B・E・J	30%	
2	土師器 坏	(3.4)	(2.1)		A・C	B	赤褐色 A・C	10%	
3	土師器 鉢	(22.0)	(8.7)		A・N・D	B	黄褐色 A・N・D	20%	
4	土師器 甕	(18.0)	(9.6)		A・B・C・E・K・M・N	B	褐色 5YR6/6	50%	

No.	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
5	土師器 甕	(17.4)	(7.8)		A・B・E・N	B	橙色 A・B・E・N	口縁40%	
6	土師器 甕	(20.0)	(6.5)		A・B・C・N	B	橙色 7.5YR6/6	口縁40%	
7	土師器 甕	(17.0)	(6.1)		A・B・C・N	B	褐色 7.5YR5/4	口縁60%	
8	土師器 甕	(14.0)	(7.4)		A・B・D・I・M・N	B	橙色 5YR6/6		
9	土師器 甕	(21.2)	(22.0)		A・B・D・I・K・M・N	B	明赤褐色 5YR5/6	口縁胴部 30%	
10	土師器 甕	17.5	(35.5)		A・B・D・E・H・M・N	B	橙色 7.5YR6/8	70%	
11	土師器 甕	(17.0)	(28.9)		A・B・D・I・M・N	B	橙色 2.5YR6/8	口縁胴部 20%	
12	土師器 甕	(19.0)	(25.6)		A・B・D・H・M・N	B	橙色 5YR6/8	口縁胴部 80%	
13	土師器 甕	(18.0)	(22.6)		A・B・D・H・M・N	B	橙色 5YR6/8	50%	
14	土師器 甕	17.0	39.9	6.3	A・B・G・I・K・N	B	明赤褐色 5YR5/6	90%	底部木葉痕
15	土師器 甕	17.0	40.9	6.0	A・B・H・I・N	B	褐色 7.5YR6/6	90%	底部木葉痕
16	土師器 甕	16.4	(22.1)		A・B・G・N	B	黄褐色 10YR6/4	60%	
17	土師器 甕	18.6	(26.2)		A・B・D・I・K・M・N	B	橙色 7.5YR5/6	90%	
18	土師器 甕		(3.4)	9.6	A・E・I・N	B	明赤褐色 5YR5/6	底部 100%	底部木葉痕
19	土師器 甕		(3.5)	6.3	A・B・C・M・N	B	黒褐色 5YR2/1	底部 100%	底部木葉痕
20	土師器 甕		(2.9)	(7.0)	A・G・N	B	灰黄褐色 10YR4/2	底部 30%	底部木葉痕
21	土師器 甕		(2.6)	(5.6)	A・B・H・I	B	褐色 5YR6/8	底部 50%	
22	土師器 甕		(8.3)		A・B・D・I・M・N	B	褐色 5YR5/6		
23	編み物石	13.8	6.3	4.9					重量 687 g・閃緑岩
24	編み物石	16.9	7.1	4.3					重量 816 g・閃緑岩

第13表 第11A号住居跡出土遺物観察表(第31図)

No.	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	土師器 甕	(21.0)	(14.6)		A・B・N	B	褐色 7.5YR6/6	口縁体部 40%	
2	土師器 甕		(2.6)	(10.4)	A・B・E・N	B	灰褐色 7.5YR4/2	底部 50%	
3	須恵器 甕				A・B・D・M・N	B	黄灰色 2.5Y7/2		
4	鉄製釘	4.3	0.6	0.2					0.9 g

第14表 第11B号住居跡出土遺物観察表(第32・33図)

No.	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	土師器 坏	12.4	4.6		A・B・D・I	B	明赤褐色 5YR5/6	100%	
2	土師器 坏	12.4	4.8		A・B・D・I	B	明赤褐色 5YR5/8	90%	
3	土師器 坏	12.5	3.6		A・B・D・I・K・M	B	明赤褐色 2.5YR5/6	90%	
4	土師器 坏	12.6	4.0		A・B・C・E・K・M・N	B	褐色 2.5YR6/8	100%	内外面赤彩
5	須恵器 坏		(1.0)	(7.0)	A・B・L	B	黄灰色 2.5Y7/2	40%	
6	須恵器 蓋	(18.6)	(2.2)		A・B・F・M・N	B	暗灰色 5PB4/1	口縁 5%	
7	土師器 甕	16.8	(31.0)		A・B・E・N	B	明赤褐色 2.5YR5/8	口縁体部 100%	
8	土師器 甕	(17.4)	(27.9)		A・B・G・H・J・N	B	褐色 2.5YR6/6	口縁体部 50%	
9	土師器 甕	(18.6)	37.7	6.0	A・B・N	B	褐色 7.5YR5/4	40%	底部木葉痕
10	土師器 甕		(19.3)	(5.4)	A・B・G・N	B	黒褐色 7.5YR3/1	体部底部 40%	
11	土師器 甕		(24.4)	5.8	A・B・C・E・M・N	B	黄褐色 7.5YR7/8	体部底部 40%	
12	土師器 甕	(22.0)	(15.9)		A・B・D・E	B	褐色 7.5YR+6/6	口縁体部 40%	
13	土師器 甕	18.8	(34.1)		A・B・D・I・M・N	B	赤褐色 5YR4/4	60%	
14	土師器 甕	(19.4)	(25.8)		A・B・D・I・M・N	B	明赤褐色 5YR5/6	口縁体部 20%	
15	土師器 甕	18.8	(21.98)		A・B・K・M・N	B	黄褐色 7.5YR7/8	口縁体部 60%	
16	土師器 甕	(18.0)	(23.0)		A・D・I・M・N	B	褐色 7.5YR6/6	口縁体部 50%	
17	土師器 甕	18.0	(31.0)		A・B・H・I	B	明黄褐色 10YR7/6	口縁体部 70%	
18	土師器 甕	(22.0)	(31.2)	(9.4)	A・B・D・E・I・M・N	B	明黄褐色 10YR7/6	40%	
19	編み物石	13.5	5.6	4.9					44.3 g チャート

第15表 第12A号住居跡出土遺物観察表(第35図)

No.	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	土師器・甕	(14.4)	(4.4)		A・B・D・I・J・M・N	B	明赤褐色 5YR5/6	口縁10%	

第16表 第12B号住居跡出土遺物観察表(第35図)

No.	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	土師器・坏	(12.1)	(3.9)		A・I	B	明赤褐色 5YR5/6	70%	
2	土師器・坏	(12.4)	(4.1)		A・B・I	A	赤黒色 2.5YR2/1	50%	
3	土師器・坏	(13.0)	(2.9)		A・B・E	A	明赤褐色 5YR5/8	口縁体部 20%	
4	須恵器・長脚高坏		(6.0)		A・L	A	灰色 5Y4/1	脚部 10%	
5	土師器・鉢	(23.0)	9.2		A・B・G・I・N	B	褐色 7.5YR5/4	40%	
6	土師器・鉢	(22.0)	(6.4)		A・B・D・I・K・M	B	赤褐色 5YR4/3	口縁 20%	
7	土師器・鉢	(24.0)	(6.6)		A・B・D・J・M・N	B	黄褐色 10YR7/4	口縁 30%	
8	土師器・甕	(28.0)	(7.0)		A・B・D・I・M	B	褐色 5YR6/6	口縁体部 10%	
9	土師器・甕	(18.1)	(31.5)		A・B・G・I・N	B	赤褐色 5YR5・4	口縁体部 40%	
10	土師器・甕	(20.4)	(8.1)		A・B・E	A	黒褐色 10YR3/1	口縁 20%	
11	土師器・甕		4.7	8.6	A・B・D	B	明黄褐色 10YR6/6	胴部底部 40%	底部木葉痕

No.	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
12	土師器・甕		(4.2)	(8.8)	A・B・C・D・E・M・N	B	明赤褐色 5YR5/6	底部 50%	
13	土師器・甕	(23.0)	(15.0)		A・D・M・N	B	赤褐色 5YR5/4	口縁 30%	
14	土師器・甕		(9.4)		A・D・M・N	B	褐色 7.5YR6/3		
15	土師器・甕		(12.8)	(8.9)	A・D・M・N	B	赤褐色 5YR5/4	体部底部 40%	

第 17 表 第 13 号住居跡出土遺物観察表 (第 37 図)

No.	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	土師器 坏	(10.0)	(2.5)		A・B・C・K・M	B	橙色 2.5YR6/8	20%	
2	土師器 坏	(12.1)	(3.2)		A・B・I	B	褐色 5YR6/8	10%	
3	土師器 坏	(12.4)	(3.3)		A・G・I	B	橙色 5YR6/6	10%	
4	土師器 坏	(12.0)	(3.2)		A・B・C・E・M・N	B	明赤褐色 5YR5/6	20%	
5	土師器 甕	(18.0)	(4.7)		A・C・I・J・M	B	明赤褐色 2.5YR5/8	口縁 10%	
6	土師器 甕	(19.4)	(3.5)		A・C・E・K・M・N	B	橙色 2.5YR6/6	口縁 20%	
7	土師器 甕		(2.2)	(8.0)	A・E・G・I・N	B	黄褐色 10YR6/4	底部 90%	底部木葉痕
8	須恵器 甕		(8.3)		A・B	B	灰白色 5Y7/2	胴部 10%	

第 18 表 第 14 号住居跡出土遺物観察表 (第 37 図)

No.	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	土師器・甕	(18.0)	(2.5)		A・B・C・M・N	B	橙色 5YR6/6	口縁 10%	
2	土師器・甕		(3.4)	(6.4)	A・J・N	B	明赤褐色 5YR5/6	底部 20%	
3	土師器・壺	(18.0)	(4.3)		A・B・I・M	B	黒褐色土 7.5YR3/1	口縁 10%	

第 19 表 第 15 号住居跡出土遺物観察表 (第 38 図)

No.	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	土師器 坏	(11.0)	(2.3)		A・B・I	B	褐色 7.5YR5/4	10%	
2	土師器 坏	(11.8)	(5.1)		A・B・E・I	B	褐色 7.5YR4/4	口縁胴部 20%	
3	土師器 坏	(12.1)	(3.3)		A・G・I・N	B	浅黄色 2.5Y7/3	坏部 20%	
4	土師器 坏	(13.0)	(3.1)		A・B・D	C	黄褐色 10YR7/2	口縁 20%	
5	須恵器 坏		(1.3)	(8.0)	A・B・D・F	B	灰オリーブ 5Y5/2	底部 20%	
6	須恵器 蓋		(2.3)		A・B・F・I・J	A	灰白色 5Y7/1	20%	

第 20 表 第 17 A 号住居跡出土遺物観察表 (第 40 図)

No.	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	土師器 坏	(13.4)	(4.2)		A・B・D・I・J・M	B	橙色 5YR6/8	40%	
2	土師器 坏	(13.0)	(4.2)		A・B	B	明褐色 7.5YR5/6	50%	内外面赤彩
3	須恵器 蓋	(19.0)	(3.1)		A・B	B	オリーブ黒 5Y3/1	10%	
4	土師器 高坏		(6.4)		A・B・D・J・N	B	橙色 7.5YR6/4		
5	土師器 甕		(3.1)	(7.0)	A・B・D・I・J・M・N	B	褐色 7.5YR7/6	底部 40%	底部木葉痕
6	土師器 甕	(21.0)	(11.5)		A・B・D・H・I	B	褐色 7.5YR6/6	口縁胴部 10%	
7	土師器 甕	(17.0)	(14.5)		A・B・D・I・M・N	B	褐色 7.5YR6/6	口縁胴部 20%	
8	土師器 鉢	14.0	10.0	8.8	A・B・D・M・N	B	褐色 5YR6/8	95%	底部木葉痕
9	土師器 甕		(3.9)	5.6	A・B・E・I・M・N	B	褐色 7.5YR7/6	底部 100%	
10	編み物石	13.5	6.0	3.7					重量 500 g・安山岩
11	砥石	5.9	6.3	3.1					重量 145 g・砂岩

第 21 表 第 1 号土壙出土遺物観察表 (第 42 図)

No.	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	土師器・甕	(26.0)	(6.2)		A・B・D・I	B	褐色 7.5YR6/6	口縁胴部 10%	
2	土師器・甕	(22.4)	(5.8)		A・B・D・I・M・N	B	褐色 5YR6/6	口縁 20%	
3	土師器・甕	(22.0)	(4.2)		A・E・M・N	B	黒褐色 5YR3/1	口縁 30%	
4	土師器・壺		(3.7)	(11.0)	A・B・D・I	B	稿褐色 10YR5/6	胴部底部 20%	

第 22 表 第 2 号土壙出土遺物観察表 (第 42 図)

No.	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	土師器・甕		(7.7)	8.2	A・B・D・I・M・N	B	褐色 7.5YR6/6	体部底部 30%	

第 23 表 第 1 号溝跡出土遺物觀察表 (第 43 図)

No.	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	須恵器・坏		(1.4)	(8.8)	A・B	C	A・B	底部 30%	
2	土師器・甕	(29.0)	(5.8)		A・B・E	B	黄橙色 10YR6/4	口縁胴部 10%	

第 24 表 遺構外出土遺物觀察表 (第 44 図)

No.	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	土師器・坏	(16.6)	(3.3)	(15.0)	A・B	B	橙色 7.5YR6/6	20%	
2	土師器・甕	(13.5)	9.2		A・B・I	B	灰黄褐色 10YR4/2	口縁体部 30%	
3	土師器・甕	(17.8)	(9.9)		A・B・D・I・M・N	B	橙色 7.5YR7/6	口縁 20%	
4	土師器・甕	(15.0)	(7.3)		A・B・D	B	明赤褐色 5YR5/6	口縁胴部 10%	
5	土師器・甕	(17.0)	(7.9)		A・B・C・E・H・M・N	B	褐色 7.5YR4・3	口縁胴部 20%	
6	須恵器・甕				A・B・I・L・N	A	灰色 2.5Y7/1		
7	土師器・甕		(8.0)	(12.8)	A・C・D・M	B	黄褐色 10YR4/3	底部 30%	

## IV 付編

### 平成 13 年度 元境内遺跡出土遺物分析委託業務 報告書

平成 13 年 12 月

#### 1. 調査概要

本調査は、埼玉県江南町の依頼により、応用地質株式会社が実施したものである。以下に調査の概要を述べる。

調査名：元境内遺跡出土種子同定委託業務

調査地：埼玉県大里郡江南町大字野原 元境内遺跡地内

調査目的：出土した種子の観察同定を行う

調査期間：平成 13 年 6 月 22 日～12 月 14 日

調査内容：種子分析 1 試料

実施期間：応用地質株式会社 東京支店

住 所：東京都文京区大塚 3-2-1 文京ビル

担当技術者：早川 俊之（技術士 応用理学）

瀬戸 秀治（技術士 応用理学）

#### 2. 種子分析結果

検討した試料は、古墳時代後期（鬼高期）と考えられる第 11A 号住居跡から出土した大形植物化石 2 個体である。

検討した結果、いずれもイシミカワ、*Polygonum perforfoliatum* Linn. の果実であった。果実は、光沢のある黒色でほぼ球形であり、臍部は白色が目立つ。イシミカワは、川原や砂地などのやや湿った所に育成するタデ科の雑草である。



図版 1 出土した大型植物化石（スケールは 1mm）

1、2. イシミカワ、果実、第 11 A 号住居跡

## V まとめ

本遺跡の出土遺物は、日常使用の土器類に加え、鉄製鋤先、提碁、編み物石などが出土しており、古墳時代における一般的な集落と捉えることができる。

遺構は、カマドが確認された住居跡 14 軒の内、6 軒で土器を構築材とする造り付けカマドが確認された。使用された土器は、いずれも土師器の長胴甕で、内外面に被熱・煮沸の痕跡が確認されている。これは、これらの土器が、一度調理に使用され、その後カマドの構築材に転用されたことを示しており、カマドの造り替えに際し、それまで使用していた土器を、カマドの構築材として使用したものと推測される。

また、カマドにおける土器の使用箇所は、カマドの先端（焚口）に使用されている。カマド袖部先端に使用されるもの（第 6・9 D 号住居跡）、カマド袖部先端と天井部に使用されるもの（第 4・9 A・10・11 B 号住居跡）が確認されている。

埼玉県内の土器を構築材とするカマドについて検討を加えた松本氏によると（松本：2023）、5 世紀後半に県北西部に出現し、6 世紀前半に県北西部を中心に分布範囲を拡大し、7 世紀前半に県内全域に分布するようになることが指摘されている。本遺跡の事例も、この事象を裏付けるものとなっている。

遺跡の立地からみると、本遺跡を含め、古墳時代から平安時代にかけての遺跡は、和田川に面した江南台地南縁に連続して分布している。

本遺跡の西側には、古墳時代の住居跡 2 軒が検出されている諏訪脇遺跡（2009：熊谷市教育委員会）、その西側には、古墳時代～平安時代の住居跡 14 軒が検出されている宮脇遺跡が隣接する（2009：熊谷市教育委員会）。東側には、谷津田を挟んで 23 基の古墳が分布する野原古墳群が隣接しており、「踊る男女」埴輪が出土した前方後円墳は、6 世紀後半、その他の円墳は 6 世紀後半から 7 世紀代に位置づけられている（1995：江南町）。さらに谷津田を挟んで西側には、古墳時代の住居跡 80 軒余りが検出されている本田・東台遺跡が位置し、野原古墳群を形成した首長層に支配された人々により営まれた集落と考えられている（1988：江南町教育委員会）。

本遺跡の東側には、平安時代の住居跡 15 軒が検出された熊野遺跡が隣接する（1974：埼玉県遺跡調査会）。その北側には、8 世紀～9 世紀の住居跡 44 軒が検出された荒神脇遺跡（1974：埼玉県遺跡調査会）、熊野遺跡の東側には、古墳時代末から平安時代の住居跡 12 軒・掘立柱建物跡 13 棟が検出された丸山遺跡が隣接しており、郷長層の居宅である可能性が指摘されている（1996：江南町教育委員会）。

元境内遺跡は、このような遺跡群の一つを構成する遺跡であり、古墳時代に急速に開発が進み、集落の適地として長期間にわたり利用されたものと考えられる。

今後、調査の進展により、本地域における土地開発の様相が解明されることが望まれる。

## 引用・参考文献

- 1974 埼玉県遺跡調査会 『熊野・荒神脇・下新田』
- 1983 江南町教育委員会 『本田・東台遺跡Ⅱ 上前原遺跡』
- 1988 埼玉県教育委員会 『埼玉の中世城館跡』
- 1995 江南町 『江南町史』資料編1 考古
- 1998 江南町教育委員会 『丸山遺跡』江南町文化財調査報告書第11集
- 2009 熊谷市教育委員会 『市内遺跡(旧大里町)Ⅱ 箕輪遺跡4次、5次 中廓遺跡3次 西浦遺跡  
市内遺跡(旧江南町)Ⅲ 元境内遺跡4次 宮脇遺跡2次 諏訪脇遺跡』埼玉県熊谷市埋蔵文  
化財調査報告書第4集
- 2019 熊谷市教育委員会 『三ヶ尻古墳群 西別府館跡 上前原遺跡 元境内遺跡 野原宮脇遺跡』—  
市内遺跡発掘調査報告書VI— 埼玉県熊谷市埋蔵文化財調査報告書第32集
- 2023 松本康太郎 「土器を構築材とする造り付けカマドの基礎的検討」『考古学集刊』第19号 明  
治大学考古学研究室



# 写真図版





調査区遠景（南から：平成 11 年 3 月 20 日撮影）



調査区垂直写真（平成 11 年 3 月 20 日撮影）

図版 2



第 1 号集石



第 2 号住居跡 (南から)



第 2 号住居跡掘方 (南から)



第 2 号住居跡遺物出土状況



第 3 号住居跡 (北東から)



第 3 号住居跡カマド



第 3 号住居跡遺物出土状況 (北から)



第 3 号住居跡ピット



第4号住居跡（東から）



第6住居跡（南から）



第6住居跡カマド



第6住居跡鉄製鋤先出土状況



第7住居跡（西から）



第7住居跡カマド



第7住居跡貯蔵穴



第7住居跡遺物出土状況

図版 4



第7住居跡遺物出土状況



第8住居跡（西から）



第8住居跡遺物出土状況（西から）



第8住居跡カマド・貯蔵穴



第8住居跡貯蔵穴遺物出土状況



第8号住居跡カマド遺物出土状況



第9A号住居跡カマド検出状況



第9A・9C号住居跡（南から）



第9A号住居跡カマド



第9B・10号住居跡（東から）



第9B住居跡遺物出土状況



第9B号住居跡遺物出土状況



第10号住居跡カマド



第9D号住居跡（南西から）



第11A号住居跡（北から）



第11A号住居跡遺物出土状況（西から）

図版 6



第 11 A号住居跡遺物出土状況



第 11 B号住居跡（南から）



第 11 B号住居跡カマド検出状況 1



第 11 B号住居跡カマド検出状況 2



第 11 B号住居跡カマド検出状況 3



第 11 B号住居跡遺物出土状況



第 11 B号住居跡貯蔵穴遺物出土状況



第 12 A・12 B号住居跡（南から）



第 12 A 号住居跡カマド (南から)



第 13・14 号住居跡 (北から)



第 14 号住居跡カマド (西から)



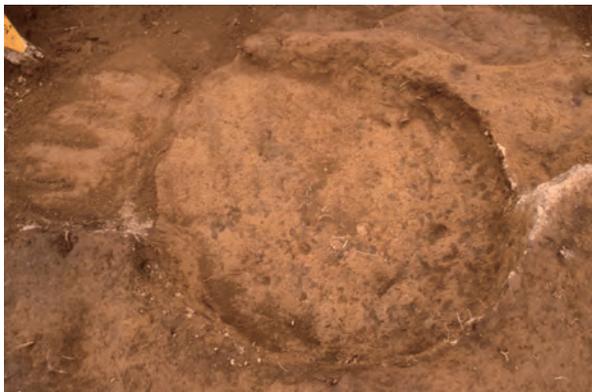
15・16 号住居跡 (南から)



第 17 A 号住居跡遺物出土状況



第 17 A 号住居跡遺物出土状況



第 1 号土壇



作業風景

图版 8



第2号住居跡 第7图1



第2号住居跡 第7图2



第2号住居跡 第7图3



第2号住居跡 第7图4



第2号住居跡 第7图5



第2号住居跡 第7图6



第2号住居跡 第7图7



第2号住居跡 第7图8



第2号住居跡 第7图9



第2号住居跡 第7图10



第2号住居跡 第7图11



第2号住居跡 第7图12



第2号住居跡 第7图13



第2号住居跡 第7图14



第2号住居跡 第7图15



第2号住居跡 第7图16



第2号住居跡 第7图17



第 2 号住居跡 第 7 图 18



第 2 号住居跡 第 7 图 19 · 22 · 23



第 2 号住居跡 第 7 图 20



第 2 号住居跡 第 7 图 21



第 2 号住居跡 第 7 图 24 ~ 26



第 2 号住居跡 第 7 图 27 · 28



第 3 号住居跡 第 8 图 1



第 4 号住居跡 第 10 图 1



第 4 号住居跡 第 10 图 2



第 4 号住居跡 第 10 图 3



第 4 号住居跡 第 10 图 4



第 4 号住居跡 第 10 图 5



第 4 号住居跡 第 10 图 6



第 4 号住居跡 第 10 图 7 ~ 10



第 4 号住居跡 第 11 图 17 · 18



第 4 号住居跡 第 10 图 11

图版 10



第 4 号住居跡 第 10 图 12



第 4 号住居跡 第 10 图 13



第 4 号住居跡 第 10 图 14



第 4 号住居跡 第 11 图 15



第 6 住居跡 第 14 图 1



第 6 住居跡 第 14 图 2



第 6 住居跡 第 14 图 3



第 6 住居跡 第 14 图 4



第 6 住居跡 第 14 图 5



第 6 住居跡 第 14 图 7



第 6 住居跡 第 14 图 8



第 6 住居跡 第 14 图 6



第 6 住居跡 第 14 图 9 ~ 14



第 6 住居跡 第 14 图 15



第 6 住居跡 第 14 图 16



第 6 住居跡 第 14 图 17



第 6 住居跡 第 14 图 18



第 7 号住居跡 第 17 图 1



第 7 号住居跡 第 17 图 2



第 7 号住居跡 第 17 图 3



第 7 号住居跡 第 17 图 4



第 7 号住居跡 第 17 图 5



第 7 号住居跡 第 17 图 6



第 7 号住居跡 第 17 图 7



第 7 号住居跡 第 17 图 8



第 7 号住居跡 第 17 图 9



第 7 号住居跡 第 17 图 10



第 7 号住居跡 第 17 图 11



第 7 号住居跡 第 17 图 12



第 7 号住居跡 第 17 图 13

图版 12



第 7 号住居跡 第 17 图 14



第 7 号住居跡 第 17 图 15



第 7 号住居跡 第 17 图 16



第 7 号住居跡 第 17 图 17



第 7 号住居跡 第 17 图 19



第 7 号住居跡 第 17 图 20



第 7 号住居跡 第 17 图 18



第 7 号住居跡 第 17 图 21



第 7 号住居跡 第 17 图 22



第 7 号住居跡 第 18 图 24



第 7 号住居跡 第 18 图 23



第 7 号住居跡 第 17 图 25 ~ 28



第 7 号住居跡 第 17 图 29 ~ 32



第 7 号住居跡 第 18 图 33 ~ 36



第 8 号住居跡 第 20 图 1



第 8 号住居跡 第 20 图 2



第 8 号住居跡 第 20 图 3



第 8 号住居跡 第 20 图 4



第 8 号住居跡 第 20 图 5



第 8 号住居跡 第 20 图 6



第 8 号住居跡 第 20 图 7



第 8 号住居跡 第 20 图 8



第 9 A 号住居跡 第 23 图 1



第 9 A 号住居跡 第 23 图 2



第 9 A 号住居跡 第 23 图 3



第 9 A 号住居跡 第 23 图 4



第 9 A 号住居跡 第 23 图 6



第 9 A 号住居跡 第 23 图 7



第 9 A 号住居跡 第 23 图 8



第 9 A 号住居跡 第 23 图 9



第 9 A 号住居跡 第 23 图 10



第 9 A 号住居跡 第 23 图 11



第 9 A 号住居跡 第 23 图 12

图版 14



第9A号住居跡 第23图13



第9A号住居跡 第23图14



第9A号住居跡 第23图15



第9A号住居跡 第23图16



第9A号住居跡 第23图17



第9A号住居跡 第23图18



第9A号住居跡 第24图19



第9A号住居跡 第24图20



第9A号住居跡 第24图21



第9A号住居跡 第24图22



第9A号住居跡 第24图23·24



第9A号住居跡 第25



第9 B号住居跡 第26图1



第9 B号住居跡 第26图2



第9 B号住居跡 第26图3



第9 B号住居跡 第26图4



第9 B号住居跡 第26图5



第9 B号住居跡 第26图6



第9 B号住居跡 第26图7



第9 B号住居跡 第26图8



第9 B号住居跡 第26图9



第9 B号住居跡 第26图10



第9 B号住居跡 第26图11



第9 B号住居跡 第26图12



第9 B号住居跡 第26图13



第9 C号住居跡 第28图1



第9 C号住居跡 第28图2



第9 C号住居跡 第28图3



第9 C号住居跡 第28图4



第9 C号住居跡 第28图5

图版 16



第9 C号住居跡 第28图6



第9 C号住居跡 第28图7



第9 C号住居跡 第28图8



第9 C号住居跡 第28图9



第9 C号住居跡 第28图10



第9 C号住居跡 第28图12



第9 C号住居跡 第28图14



第9 C号住居跡 第28图15



第9 C号住居跡 第29图16



第9 C号住居跡 第29图18



第9 C号住居跡 第28图19



第9 C号住居跡 第20~22



第9 C号住居跡出土種子



第9 D号住居跡 第30图1



第9 D号住居跡 第30图3



第10号住居跡 第26图1



第9 D号住居跡 第30图2



第 10 号住居跡 第 26 图 2



第 10 号住居跡 第 26 图 3



第 10 号住居跡 第 26 图 4



第 10 号住居跡 第 26 图 5



第 10 号住居跡 第 26 图 6



第 10 号住居跡 第 26 图 7



第 10 号住居跡 第 26 图 8



第 10 号住居跡 第 26 图 10



第 10 号住居跡 第 26 图 11



第 10 号住居跡 第 26 图 9



第 10 号住居跡 第 27 图 12



第 10 号住居跡 第 27 图 13



第 10 号住居跡 第 27 图 14

图版 18



第 10 号住居跡 第 27 图 15



第 10 号住居跡 第 27 图 16



第 10 号住居跡 第 27 图 17



第 10 号住居跡 第 27 图 18



第 10 号住居跡 第 27 图 19



第 10 号住居跡 第 27 图 20



第 10 号住居跡 第 27 图 21



第 10 号住居跡 第 27 图 22



第 10 号住居跡 第 27 图 23 · 24



第 11 A 号住居跡 第 31 图 1



第 11 A 号住居跡 第 31 图 2



第 11 A 号住居跡 第 31 图 3



第 11 A 号住居跡 第 31 图 4



第 11 B 号住居跡 第 32 图 1



第 11 B 号住居跡 第 32 图 2



第 11 B 号住居跡 第 32 图 3



第 11 B 号住居跡 第 32 图 4



第 11 B 号住居跡 第 32 图 5



第 11 B 号住居跡 第 32 图 6



第 11 B 号住居跡 第 32 图 10



第 11 B 号住居跡 第 32 图 11



第 11 B 号住居跡 第 32 图 7



第 11 B 号住居跡 第 32 图 8



第 11 B 号住居跡 第 32 图 9



第 11 B 号住居跡 第 32 图 12



第 11 B 号住居跡 第 32 图 13



第 11 B 号住居跡 第 32 图 14



第 11 B 号住居跡 第 32 图 15



第 11 B 号住居跡 第 32 图 16



第 11 B 号住居跡 第 32 图 17



第 11 B 号住居跡 第 32 图 18



第 11 B 号住居跡 第 32 图 19 · 支脚



第 12 A 号住居跡 第 35 图 1



第 12 B 号住居跡 第 35 图 1



第 12 B 号住居跡 第 35 图 2



第 12 B 号住居跡 第 35 图 3



第 12 B 号住居跡 第 35 图 4



第 12 B 号住居跡 第 35 图 5



第 12 B 号住居跡 第 35 图 6



第 12 B 号住居跡 第 35 图 7



第 12 B 号住居跡 第 35 图 8



第 12 B 号住居跡 第 35 图 9



第 12 B 号住居跡 第 35 图 10



第 12 B 号住居跡 第 35 图 11



第 12 B 号住居跡 第 35 图 12



第 12 B 号住居跡 第 35 图 13



第 12 B 号住居跡 第 35 图 4



第 12 B 号住居跡 第 35 图 15



第 17 A 号住居跡 第 40 图 1



第 17 A 号住居跡 第 40 图 2



第 17 A 号住居跡 第 40 图 3



第 17 A 号住居跡 第 40 图 4



第 17 A 号住居跡 第 40 图 5



第 17 A 号住居跡 第 40 图 6



第 17 A 号住居跡 第 40 图 7



第 17 A 号住居跡 第 40 图 8



第 17 A 号住居跡 第 40 图 9



第 17 A 号住居跡 第 40 图 10 · 11



# 報 告 書 抄 録

ふりがな	もとけいだいいせき							
書名	元境内遺跡3次							
副書名								
シリーズ名	埼玉県熊谷市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第51集							
編集者名	森田 安彦							
編集機関	埼玉県熊谷市教育委員会							
所在地	〒360-0107 熊谷市千代329番地 熊谷市立江南文化財センター Tel048-536-5062							
発行年月日	西暦2025(令和7)年3月28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間 調査担当者	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東緯			
もとけいだいいせき 元境内遺跡 3次	くまがやしのほら 熊谷市野原 461番地7・14	0065	039	36° 05' 54"	139° 21' 51"	19990120 ～ 19990330 森田安彦	2,400	社会福祉 施設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元境内3次	集落跡	古墳	住居跡 21軒 掘立柱建物跡 1棟 溝跡 1条	土師器・須恵器・ 鉄製品・石製品	

埼玉県熊谷市埋蔵文化財調査報告書 第 51 集

元境内遺跡 3 次

令和 7 年 3 月 28 日発行

発行／埼玉県熊谷市教育委員会

印刷／関東図書株式会社